


# 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
A-01	表紙・図面リスト	—	-25	外構配置図	1:100	E-01	電気設備工事特記仕様書 No.1	—	M-01	機械設備工事特記仕様書-1	—
-02	建築工事特記仕様書-1	—	-26	外構詳細図	1:100 1:50 1:20 1:30	-02	電気設備工事特記仕様書 No.2	—	-02	機械設備工事特記仕様書-2	—
-03	建築工事特記仕様書-2	—	-27	仮設計画図-1(参考)	1:100	-03	引込幹線・サイレン設備図	1:100	-03	空調・換気設備機器表・衛生器具表	1:50
-04	建築工事特記仕様書-3	—	-28	仮設計画図-2(参考)	1:200	-04	分電盤結線図	—	-04	空調設備 平面図	1:100
-05	建築工事特記仕様書-4	—	-29	ALVS計算表-1	1:100	-05	照明器具参考姿図	—	-05	換気設備 平面図	1:100
-06	建築工事特記仕様書-5	—	-30	ALVS計算表-2	1:100	-06	サイレン設備仕様参考図	—	-06	衛生設備 平面図	1:100
-07	建築工事特記仕様書-6	—				-07	コンセント設備図	1:50			
-08	建築工事特記仕様書-7	—	S-01	構造設計特記仕様書(1)	—	-08	電灯設備図	1:50			
-09	建築工事特記仕様書-8	—	-02	構造設計特記仕様書(2)	—	-09	テレビ共聴・電話空配管設備図	1:50			
-10	付近見取図 敷地求積図・求積表	1:100	-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	—						
-11	配置図	1:100	-04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	—						
-12	内外仕上表 求積図・求積表	1:100	-05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)	—						
-13	配置図兼1階平面図	1:100	-06	鉄骨構造標準図(1)	—						
-14	屋根伏図 天井伏図	1:100	-07	鉄骨構造標準図(2)	—						
-15	立面図 断面図	1:100	-08	ベースパック柱脚標準図	—						
-16	矩計図-1	1:30	-09	地質調査図 構造設計・地耐力の決定	—						
-17	矩計図-2	1:30	-10	基礎伏図・R階床梁伏図	1:100						
-18	矩計図-3	1:30	-11	基礎リスト	1:30						
-19	平面詳細図	1:50	-12	礎柱・地中梁・床版・鉄骨柱・鉄骨継手リスト	1:50 1:30						
-20	展開図-1	1:50	-13	軸組図	1:100						
-21	展開図-2	1:50	-14	鉄骨小梁・間柱リスト	—						
-22	建具配置図	1:100	-15	架構図-1	1:30						
-23	建具表	1:50	-16	架構図-2	1:30						
-24	部分詳細図	1:20 1:10 1:5 1:3									

		 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
				図名	表紙・図面リスト	縮尺	A2:— A3:—	図面番号	A-01

1 工事概要
1. 工事場所 京都府船井郡京丹波町下山野丸1番地1
2. 敷地面積 844.16 m2
3. 建築物概要
4. その他
【2】適用範囲
【3】工事区分
【4】工事仕様

章 項目 特記事項

③ 特別な材料の工法
④ 風圧力及び積雪に対する性能
⑤ 現場代理人
⑥ 工事工程報告
⑦ 工事実績情報の登録
⑧ 設備工事との取合い
⑨ 施工図等の取扱い
⑩ 工事写真

章 項目 特記事項

14 発生材の処理等
15 技能士
16 化学物質の濃度測定
17 完成図
18 保全に関する資料
19 足場等

章 項目 特記事項

2 監督職員事務所
3 仮設工事
3 山留めの撤去
4 基礎種別
2 地盤の載荷試験
3 既製コンクリート杭地業
4 鋼杭地業
5 場所打ちコンクリート杭地業

Table with 3 columns: Chapter, Item, and Particular Matters. Contains detailed specifications for materials, construction methods, and safety measures.

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
4	地業工事	⑥ 砂利及び砂地業 (4.6.2) (4.6.3)	厚さ (mm) ● 図示による ※ 〇 材料 砂利 ● 再生クラッシュラン ○ 切込砂利 ○ 切込砕石 砂 ● 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂	6 コンクリート工事	① コンクリートの種類 (6.2.1)	種類 ※ 普通コンクリート ○ 類別 ※ I類 ○ II類 (表6.2.1)	7 鉄骨工事	⑩ コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)	※ フレッシュコンクリートの試験 ● 構造体コンクリートの28日圧縮強度試験は全て (標準、現場水中) 外部公的機関にて行う。 ○ 省略する 常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種類 ○ 1種 ○ 2種 施工箇所 _____ 気乾単位容積質量 _____ t/m <sup>3</sup>	⑩ 工作図 (7.3.2)	高力ボルト、普通ボルトの「ゲージ、ピッチ、ヘリあき等」 ※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)
		⑦ 捨てコンクリート地業 (4.6.4)	厚さ (mm) ○ 図示による ※ 50		② コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)	設計基準強度 (F <sub>c</sub> )		11 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)	※ 暑中における構造体強度補正值 (S)	⑪ 仮組 (7.3.10)	○ 実施する 部位 ( ) ○ 実施しない
		⑧ 床下防湿層 (4.6.5)	ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm 重ね幅縦及び基礎梁際のみ込み 250mm以上 施工範囲 ○ 図示による ○ 建物内の土間スラブ(土間コンクリート含む)の直下 (ピット下を除く) ○ 捨てコンクリートの直下		③ セメントの類別 (6.3.1)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントのB種 (適用箇所 _____) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントのB種 (適用箇所 _____)		⑫ 寒中コンクリート (6.11.1)	予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節 (寒中コンクリート) による。	⑫ 溶接作業における技能資格者 (7.6.3)	溶接作業者の技量付加試験 ※ 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ( ) ○ _____
		⑨ 土間断熱材	○ 押出法ポリスチレンフォーム3種bのスキン層付き 厚さ ○ 25mm ○ _____mm		④ 骨材 (6.3.1)	粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フロツケスラグ ○ 再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○ _____		⑬ 暑中コンクリート (6.12.2)	※ 暑中における構造体強度補正值 (S)	⑬ 溶接接合 (7.6.4) (7.6.7)	開先の形状 ○ 図示による ○ _____ 鋼製エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無 適用箇所 ※ 図示による ○ _____ 切断面の仕上げ ※ 「グライズ」により、粗さ100µm Rz程度以下及びピッチ深さ1mm程度以下 ○ _____ スカラップの形状 ○ 図示による
⑩ 地盤改良	○ 現場発生土を再利用する。改良方法 _____ セメント及びセメント系固材を使用した改良土を使用する場合、六価クロム溶出試験を実施し、土壌環境基準を勘案して必要に応じ適切な措置を講じること。また、再利用しようとする場合は、基準以下であることを確認すること。 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(一財)日本建築センターを参考とすること。	⑤ 混和材料 (6.3.1)	○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A 6204) 防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) ○ 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A 6201) I種、II種若しくはIV種 ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○ コンクリート用シリカフェーム (JIS A 6207) ○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)	⑭ マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2)	セメントの種類 ○ 中熱ポルトランドセメント ○ シリカセメント ○ 低熱ポルトランドセメント ○ 高炉セメントB種 ○ フライアッシュセメントB種 ○ 普通ポルトランドセメント 混和材料 ○ 混和剤 ※ AE減水剤又は高性能AE減水剤 (JIS A 6204) ○ _____ ○ 混和材 ○ フライアッシュのII種 (JIS A 6201) ○ 高炉スラグ微粉末の3000若しくは4000 (JIS A 6206) スランブ ※ 15cm ○ _____	⑭ 溶接部の試験 (7.6.12)	完全溶込溶接部の超音波探傷試験 ※ 行う ○ 行わない ● 工場溶接 AOWL ● 4.0% ○ 2.5% 検査水準 ○ 第6水準 (準全て) ● 工事現場溶接				
5	鉄筋工事	① 鉄筋の種類等 (5.2.1)	(表5.2.1) 異形鉄筋 ※ SD295 ※ SD345 ○ ※ SD295はF <sub>c</sub> :21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する	⑥ 構造体強度補正值 (6.3.2)	※ 気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2)	7 鉄骨工事	① 鉄骨の製作工場 (7.1.3)	※ 建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 ( (OS OH OM ● R OJ ) グレード以上 ) ○ 監督職員の承諾する工場 (標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)	⑮ 耐火被覆 (7.9.2) ~ (7.9.7)	種別 種別 材料・工法 適用箇所 (部位・部分)	
		② 溶接金網 (5.2.2)	網目の形状、寸法 150×150 鉄線の径 6 mm	⑦ 打継ぎ (6.6.4)	位置 ※ 構造図による ○ 標仕 6.6.4(1) による 目地の寸法 ※ 図示による ○ _____		② 鉄骨の製作工場 (7.1.3)	○ 監督職員の承諾する工場 (標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)	○ 耐火材吹付け ○ 耐火材張り ○ 耐火材巻付け ○ 5mm張りモルタル塗り ○ 耐火塗料		
		③ 鉄筋の継手及び定着 (5.3.4) (5.5.3) (5.6.3)	部 位 接 合 方 法 径 (mm) 重ね継手の長さ ※ 柱・梁の主筋 ○ 重ね継手 ● ガス圧接継手 D19以上 ○ 標仕表5.3.2による ○ 機械式継手 ○ 溶接継手 ※ その他 ● 重ね継手 ○ ガス圧接継手 D16以下 ※ 構造図による ○ 機械式継手 ○ 溶接継手	⑧ 型枠 (せき板) (6.2.5) (6.8.1) (6.8.2)	合板の規格 ※ 「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 合板の材種 ※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 厚さ (mm) ※ 12 ○ _____ 打放し仕上げのせき板 ※ 合板せき板を用いる場合 (表6.2.4)		④ 高力ボルト (7.2.2) (7.4.2)	ボルトの区分 ● トルシア形高力ボルト ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト ○ JIS形高力ボルト ○ _____ ねじの呼び ○ _____ すべり係数試験 ○ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による ○ _____	○ 耐火材吹付け ○ 耐火材張り ○ 耐火材巻付け ○ 5mm張りモルタル塗り ○ 耐火塗料		
		④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ※ 構造図による ○ 表5.3.6による (次の2項目のかぶり厚さを除く) ○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。	⑨ スリーブ (6.8.2)	スリーブの材種 (表6.8.1)		⑤ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.4.2) (7.12.5)	セットの種類 ○ 1種 (F8T) 相当 摩擦面の処理 ○ プラスト処理 (表面粗度50µm Rz以上) ○ リン酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※ すべり耐力試験 試験方法等 ○ 図示による ○ _____	○ 耐火材吹付け ○ 耐火材張り ○ 耐火材巻付け ○ 5mm張りモルタル塗り ○ 耐火塗料		
⑤ ガス圧接継手 (5.4.10)	試験方法 ※ 超音波探傷試験 ○ 引張試験 試験方法等 ※ 標仕 5.4.10(i) (b) ①~⑥による ○ _____	⑩ 鋼材 (7.2.1)	コンクリートの仕上りの平たんさ	⑥ 普通ボルト (7.2.3) (7.3.8)	ねじの呼び ○ _____ 母屋又は脚線の取付けに使用する普通ボルトの孔径 ○ _____ ※ 呼び径+1.0mm	○ 耐火材吹付け ○ 耐火材張り ○ 耐火材巻付け ○ 5mm張りモルタル塗り ○ 耐火塗料					
			施工箇所等 最小かぶり厚さ (mm)		⑦ 溶接材料 (7.2.5)	溶接材料 ※ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ○ 図示による ○ _____	⑮ アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2) (7.10.3)	適用 ● 構造用アンカーボルト 種類 ○ SNR400B ○ _____ アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○ _____ ● 建方用アンカーボルト 種類 ○ SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1) 種別 ○ A種 ○ B種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 50mm ○ 30mm			
			機械式継手及び溶接継手のあき ○ _____		⑧ 溶接材料 (7.2.5)	溶接材料 ※ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ○ 図示による ○ _____	⑯ 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3)	モルタルの種別 ※ 無収縮モルタル ○ _____ 材料・調合等 ※ 標仕 7.2.9 (2) (7) から (2) による ○ _____ 厚さ ※ 図示による ○ _____ 工法 ※ A種 ○ B種			
			試験方法 ※ 超音波探傷試験 ○ 引張試験 試験方法等 ※ 標仕 5.4.10(i) (b) ①~⑥による ○ _____								



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称  
図名

令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
建築工事特記仕様書-2

設計  
縮尺

柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号

設計年月  
令和8年2月  
図面番号  
A-03

A2: -  
A3: -

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
7	鉄骨工事 ⑩ 錆止め塗料 (7.8.4) (18.3.2)	塗料の種類 ● 鉄鋼面の錆止め塗料 ● 表18.3.1による ※ A種 ○ B種 ○ ○ 垂れつき鋼面の錆止め塗料 ○ 表18.3.2による ※ A種 ○ B種 ○ C種 ○ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限り） ○ 表18.3.1による ※ A種 ○ B種 ○ 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う（範囲 ○ 図示による ○ 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 ○ 行わない ○ 行う（範囲 ○ 図示による ○	9 防水工事 1 アスファルト防水 (9.2.2) ～(9.2.5)	9 防水工事 (表9.2.3)～(表9.2.9) 種別 防水層 施工箇所 種類 仕上塗料 使用量 ○ A-1 ○ A-2 ○ A-3 表9.2.3 ○ AI-1 ○ AI-2 ○ AI-3 表9.2.4 ○ B-1 ○ B-2 表9.2.5 ○ BI-1 ※ BI-2 表9.2.6 ○ D-1 ○ D-2 表9.2.7 施工箇所 種類 仕上塗料 使用量 ○ DI-1 ○ DI-2 表9.2.8 ○ E-1 ○ E-2 表9.2.9 ○ 屋内防水 ※ E-1 ○ E-2 表9.2.9 ○ 断熱材（屋根保護防水断熱工法） 厚さ mm ○ 断熱材（屋根露出防水断熱工法） 厚さ mm 種類 ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材及び絶縁用シートの張りじまい位置 ※ 図示による ○ 絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15（保護防水工法） ※ フラットヤークロス（70g/m <sup>2</sup> 程度）（保護防水断熱工法） ○ 押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 立上り部の保護 ○ 乾式保護材（ ） ○ 普通れんが ○ 化粧れんが ○ モルタル押え（屋内） ○ コンクリート（工法 ） 保護層 平場のコンクリート厚さ ○ mm ○ こて仕上げ mm ○ 床タイル張り等仕上げ mm 屋上排水溝 ※ 図示による 脱気装置（露出防水絶縁（断熱）工法） ※ 設ける 材種（ ） 設置数量（1箇所/㎡）	9 防水工事 4 塗膜防水 (9.5.3) 種別 (表9.5.1)(表9.5.2) 種別 防水層 施工箇所 種類 仕上塗料 使用量 ○ X-1 表9.5.1 ○ X-2 ○ Y-1 表9.5.2 地下外壁防水 ○ Y-2 屋内防水 脱気装置 (X-1) ○ 設ける 材種（ ）設置数量（1箇所/㎡） 保護層 (Y-2) ○ 設ける 施工箇所 ○ 図示による ○ 標仕9.6.4(2)(イ),(ウ)以外の下地処理 ○ 図示による ○ 5 ㄱ酸質系塗布防水 (9.6.3) 施工箇所 ○ 図示による ○ 標仕9.6.4(2)(イ),(ウ)以外の下地処理 ○ 図示による ○ 6 漏水試験 ※ 水張り試験を行う（○ 屋内 ○ 屋外） 7 保証書 ※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 （保証年限は工事的物引渡しより10年以上とする。） 8 施工標識 工事後後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ 設置数量 箇所 ⑨ シーリング (9.7.2) (9.7.3) (9.7.5) シーリング材の種類 ※ 表9.7.1による 施工箇所 ※ 図示による ○ 仕上げを行わない施工箇所（○ 図示による ○） 目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びびびり割れ誘発目地 ※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ ガラス回りの目地 ※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ その他の目地 ※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験（部位 ） ○ 引張接着性試験（部位 ） 10 止水板 材質 形状 ○ 差込式 ○ 据置式 ○ 壁張り式 適用範囲	10 石工事 11 タイル工事 1 伸縮調整目地等 (11.1.3) 2 施工後の確認及び試験 (11.1.7) 3 タイル張り (11.2.2) (11.2.6) (11.3.2) (11.3.5) 4 下地及びタイル ごしらえ(11.2.6) 5 張付け用材料 (11.3.3)	10 石工事 内壁石張り 工法 ○ 内壁空積工法（※あと施工アンカー横筋流し工法 ○あと施工アンカー工法） ○ 乾式工法（○ スライド方式 ○ ロッキング方式 ○） 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤 ※ 専門工事業者の指定 表面及び裏打ち処理 ※ 行わない ○ 行う 目地 ○ 一般目地幅 mm ○ 伸縮調整目地位置 ○ シーリング材の目地寸法 mm あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 ○ 材質 ○ 寸法 ○ 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤（床石張り） ○ 適用する ○ 適用しない 石表面処理（床石張り） ○ 適用する ○ 適用しない （階段石張り） ○ 適用する ○ 適用しない 裏打ち処理（床石張り） ○ 適用する ○ 適用しない 目地 ○ 一般目地幅 mm ○ 伸縮調整目地位置 ○ シーリング材の目地寸法 mm あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 ○ 材質 ○ 寸法 ○ 隔て板 石の厚さ mm 11 タイル工事 1 伸縮調整目地等 (11.1.3) 外壁 ※ 表11.1.1による ○ 図示による 屋内壁面 ※ 図示による ○ 床面 ※ 表11.1.1による ○ 2 施工後の確認及び試験 (11.1.7) 浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う 引張接着試験 ※ 油圧式接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○ 行わない 3 タイル張り (11.2.2) (11.2.6) (11.3.2) (11.3.5) タイルの種類 施工箇所・形状・ タイルの種類 寸法(mm) 生地 釉薬 耐凍害性 耐滑り性 役物 色 工法 その他 ○ 磁器 ○ 無釉 ○ 有り ○ 有り ※ 標準 ○ 陶器 ○ 施釉 ○ 無し ○ 無し ○ 特注 ○ せつ器 ○ 磁器 ○ 無釉 ○ 有り ○ 有り ※ 標準 ○ 陶器 ○ 施釉 ○ 無し ○ 無し ○ 特注 ○ せつ器 ○ 磁器 ○ 無釉 ○ 有り ○ 有り ※ 標準 ○ 陶器 ○ 施釉 ○ 無し ○ 無し ○ 特注 ○ せつ器 4 下地及びタイル ごしらえ(11.2.6) 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理 ○ MCR工法 ○ 目荒し工法 ○ 図示による ○ 5 張付け用材料 (11.3.3) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※☆☆☆☆ ○ 外壁タイルの目地詰め ○ 行う ○ 行わない				
		1 補強コンクリート ブロック造 (8.2.2) ～(8.2.8) 2 コンクリートブロック 壁及び塀 (8.3.2) ～(8.3.4) 3 ALCパネル (8.4.2) ～(8.4.5) 4 押出成形セメント 板 (ECP) (8.5.2) ～(8.5.5)						ブロックの種類 ○ 16 (C種) 普通ブロック ○ 16-W (C種) 防水ブロック モジュール呼び寸法及び正味厚さ ○ 図示による ○ コンクリートの設計基準強度 F <sub>o</sub> (N/mm <sup>2</sup> ) 充填用及びまぐさ ※ 21 以上 ○ 上記以外 ※ 21 以上 ○ 各部の配筋 ※ 図示による 目地仕上げ ○ 押し目地仕上げ ○ 化粧目地仕上げ モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲 ○ 図示による ○ ブロックの種類 (表8.3.1) 適用箇所 種類の記号 間仕切壁、地下二重壁、外壁、塀 ※ 空洞ブロック 16 ○ 外壁の化粧積み ○ 空洞ブロック 16-W ○ モジュール呼び寸法及び正味厚さ ○ 図示による ○ 塀の厚さ ○ 図示による ○ 壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※ 図示による 各部の配筋 ※ 図示による 塀化粧ブロック ○ 有（ ） ブロック塀の基礎及び控壁のコンクリートの設計基準強度 F <sub>o</sub> (N/mm <sup>2</sup> ) ○ 18 ※ 21 ○ パネルの種類 (表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4) 区分 単位荷重(N/m <sup>2</sup> ) 厚さ(mm) 構法 耐火性能 ○ 外壁ハ種 ※ 1180 ○ 1960 ※ 100 ○ A種 ※ 有り(時間) ○ B種 ○ 無し ○ 間仕切ハ種 ※ 640 ○ ※ 100 ○ C種 ○ E種 ※ 有り(時間) ○ D種 ○ 無し ○ 屋根ハ種 ※ 980 ○ ※ 100 ※ F種 ※ 有り(時間) ○ 無し ○ 床ハ種 ○ 2350 ○ 3530 ○ 100 ※ F種 ※ 有り(時間) ○ 150 ○ 無し パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 ○ 図示による ○ 外壁ハ種の工法 ※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 パネル幅の最小限度 ※ 300 mm ○ ハ種の出隅及び入隅のハ種接合部並びにハ種と他部材との取り合い部の目地幅 mm 伸縮目地への耐火目地材の充填 ○ 適用する ○ 適用しない 外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 ○ 種類 ※ 無石棉タイプ (タイプII) 施工箇所 表面形状 厚さ(mm) 工法 耐火性能 ○ 外壁 ※ フラットパネル ○ 35 ○ A種 ※ 有り ○ デザインパネル(図示) ○ 50 ○ B種 (時間) ○ タイルベースパネル ○ 60 ○ 無し ○ 間仕切り ※ フラットパネル ○ 35 ○ B種 ○ 有り ○ デザインパネル(図示) ○ 50 ○ C種 (時間) ○ タイルベースパネル ○ 60 ※ 無し 外壁ハ種の工法 ※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 パネル幅の最小限度 ※ 300 mm ○ ハ種相互の目地幅 ○ 図示による ○ 出隅及び入隅のハ種接合部目地の目地幅 ※ 15 mm ○ 外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 ○ やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認 した資料を提出すること。 孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のハ種の残り部分の幅 ハ種に孔あけを 設ける場合 短辺 長辺 ハ種に欠き込み を設ける場合 短辺 長辺	2 改質アスファルト シート防水 (9.3.2) ～(9.3.4) 3 合成高分子系 ルーフシート防水 (9.4.2) ～(9.4.4)	種別 (表9.3.1)～(表9.3.3) 種別 防水層 施工箇所 種類 仕上塗料 使用量 ○ AS-T1 ○ AS-T2 表9.3.1 ○ AS-T3 ○ AS-T4 ○ AS-J1 表9.3.2 ○ AS1-T1 ○ AS1-J1 表9.3.3 断熱材（露出防水断熱工法） 厚さ ○ mm 種類 ○ 脱気装置（絶縁工法） ※ 設ける 材種（ ）設置数量（1箇所/㎡） 防湿層（露出防水絶縁断熱工法） ○ 設ける ○ 設けない 押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 種別 (表9.4.1)(表9.4.2) 種別 防水層 施工箇所 種類 仕上塗料 使用量 ○ S-F1 表9.4.1 ○ S-F2 PC部材入隅増張(※有り○無し) ○ S-F3 ○ S-M1 ○ S-M2 表9.4.2 ○ S1-F1 PC部材入隅増張(※有り○無し) ○ S1-F2 ○ S1-M1 ○ S1-M2 表9.4.3 ○ S-C1 S-F1, S-M1, S-F2, S-M2 ※ 非歩行仕様 ○ 軽歩行仕様 平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ○ mm ○ 断熱材（機械的固定工法） 厚さ mm 種類 ○ 断熱材（接着工法） 厚さ mm 種類 ○ 防湿用フィルムを設置する（断熱工法）	10 石工事 1 天然石張り (10.2.1) 石の種類・表面仕上げ (表10.2.1) 施工箇所 種類(産地、名称、形状、寸法) 表面仕上げの種類 ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げ ○ あり ○ なし 2 テラゾ張り (10.2.1) 施工箇所 種石の種類 種石の大きさ 形状・寸法等 表面仕上げ ※ 大理石 ○ ※ 1.5～12mm ○ 3 壁の石張り工法 (10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3) (10.4.2) (10.4.3) (10.4.4) (10.5.2) (10.5.3) 外壁石張り 工法 ○ 外壁湿式工法（○ 流し工法 ○ あと施工アンカー工法 ※ あと施工アンカー横筋流し工法） 受金物の材質、形状及び寸法 ○ ○ 外壁乾式工法 ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 金物の種類、形状、寸法等 ○ スライド方式 ○ ロッキング方式 ○ 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤 ※ 専門工事業者の指定 表面及び裏打ち処理 ※ 行わない ○ 行う（表面処理の場合小口共） ドレンパイプ ※ ステンレスSUS304 ○ 目地 ○ 一般目地幅 mm ○ 伸縮調整目地位置 ○ シーリング材の目地寸法 mm



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称  
図名

令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
建築工事特記仕様書-3

設計  
縮尺

柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号  
A2: -  
A3: -

設計年月  
図面番号  
令和8年2月  
A-04



章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項			
15	ラス系下地 (15.2.4)	下地の種類 ○ 二層下地通気構法 ○ 単層下地通気構法 換気口部の措置 (※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3(2)(7)) ○ 直張りラスモルタル下地 ○ 直張りラスシートモルタル下地  ラスの材料 種類及び記号 ( ) 単位面積当たりの質量 ( ) ラスシートの材料 ラス目による区分 (※M ) 山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分 (OLS4 (建築基準法に基づく耐力壁) ) ステーブルの形状及び寸法 ( ) 直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシート施工 ( )	15	左官工事	複層仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1) 種類 (呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○ 複層塗材 C E ○ 凸部処理 吹付け ○ 複層塗材 R E ○ 凹凸状 ○ 複層塗材 S i ○ 複層塗材 E ○ ゆず肌状 ローラー ○ 可とう形複層塗材 C E ○ 凸部処理 凹凸状 吹付け ○ 可とう形複層塗材 E ○ ゆず肌状 ローラー ○ 防水形複層塗材 C E ○ 凸部処理 吹付け (増塗材) ○ 防水形複層塗材 E ○ 凹凸状 ○ 防水形複層塗材 R E ○ ゆず肌状 ローラー  複層仕上塗材の耐候性 ○ 耐候形1種 ○ 耐候形2種 ○ 耐候形3種 複層仕上塗材の上塗材 溶媒 ○ 水系 ○ 弱溶剤系 ○ 溶剤系 樹脂 ○ アクリル系 ○ 外観 ○ つや有 ○ つやなし ○ メタリック	16	建具工事	①性能 ※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 2 防火戸 (16.1.3) ※ 図示による ○ 3 見本の製作等 (16.1.4) 建具見本の製作 ○ 行う (建具番号 ) 特殊な建具の仮組 ○ 行う (建具番号 ) 4 防犯建物部品 (16.1.6) 開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ ドア 適用箇所 ( ) ・ サッシ 適用箇所 ( ) ・ シャッター 適用箇所 ( ) 5 アルミニウム製建具 (16.2.2) ~ (16.2.5) 外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (コック下地、鉄骨下地) (表16.2.1) 性能等級 ○ A種 ● B種 ○ C種 耐風圧性 ※ S-4 ○ ※ S-5 ○ ※ S-6 ○ 気密性 ※ A-3 ○ ※ A-4 ○ 水密性 ※ W-4 ○ ※ W-5 ○ 枠見込み(mm) ※ 図示 ○ 70 ○ 100 ※ 図示 ○ 外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (木下地) (表16.2.2) 性能等級 ○ D種 ○ E種 耐風圧性 ※ S-2 ○ ※ S-3 ○ 気密性 ※ A-3 ○ 水密性 ※ W-3 ○ 枠見込み(mm)	16	建具工事	8 鋼製建具 (16.4.2) ~ (16.4.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表16.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表16.4.1) ○ 防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ) ○ 断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ) ○ 耐震ドアの適用 (面内変形追随性の等級 ) ○ 点検口の類のくつずりの材料 ○ ○ 標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※ 図示による ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○ JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による) ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板類の厚さ ※ 表16.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 9 鋼製軽量建具 (16.5.2) ~ (16.5.4) 簡易気密型ドアセットの気密性 ※ 適用する (A-3) ○ 適用しない ○ 防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ) ○ 断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ) ○ 耐震ドアの適用 (面内変形追随性の等級 ) 鋼板 ○ 表面処理亜鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板 ○ カラー鋼板 ○ ステンレス鋼板 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○ 鋼板類の厚さ ※ 表16.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 召合せ、縦小口包み板等 ※ 鋼板 ○ ステンレス鋼板 ○ アルミニウム合金の押出形材			
		②モルタル塗り (15.3.2) ~ (15.3.5)			材料 ● 現場調合材料 ○ 既調合材料 既製目地材 ○ 適用する (形状 ) 床塗り 目地の設置 ※ 有り (種類 ※ 押目地 ) (目地割 ※ 2m程度 最大目地間隔 3m ) ○ 無し 屋外のタイル張り下地及び屋内の吹き抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗及び下地調整塗材塗りの接着剤試験 浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う 接着剤試験 ○ 行う ○ 行わない			7 マスチック塗材塗り (15.7.2)			種別 ○ A種 ○ B種 (表15.7.1)	⑤アルミニウム製建具 (16.2.2) ~ (16.2.5)	10 ステンレス製建具 (16.6.2) ~ (16.6.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表16.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表16.4.1) ○ 防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ) ○ 断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ) ○ 耐震ドアの適用 (面内変形追随性の等級 ) ステンレス鋼板 ※ JIS G 4305 種類 ○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○ JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による) ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※ HL ○ 鏡面 曲げ加工 ※ 普通曲げ ○ 角出し曲げ	
15	③石こうボードその他のボード下地	せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ 種類 (●GB-R ○GB-L ) 厚さ ( mm) 木質系セメント板の種類及び厚さ 種類 ( ) 厚さ ( mm)	15	左官工事	8 しっくい塗り (15.10.1) ~ (15.10.3)	下地 ○ せっこうボード ○ せっこうラスボード ○ モルタル塗り ○ 木ずり ○ こまい ○ 下塗りをせっこうラスボードとして上塗りに使用する場合 ○ 材料 ○ 現場調合材料 ○ 既調合材料 色しっくい ○ 適用する ○ 適用しない 既調合しっくいの調合 ○ せっこうボード下地 ※ (表15.10.1) ○ ○ モルタル塗り下地 ※ (表15.10.2) ○ ○ せっこうラスボード下地 ※ (表15.8.2) ○ 現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚 ○ 木ずり下地 ※ (表15.10.3) ○ ○ せっこうプラスター下地、こまい下地 ※ (表15.10.4) ○ 既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 ○ なで切り仕上げ ○ パターン	16	建具工事	⑥網戸等 (16.2.3) (16.3.3)	16	建具工事	10 ステンレス製建具 (16.6.2) ~ (16.6.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表16.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表16.4.1) ○ 防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ) ○ 断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ) ○ 耐震ドアの適用 (面内変形追随性の等級 ) ステンレス鋼板 ※ JIS G 4305 種類 ○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○ JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による) ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※ HL ○ 鏡面 曲げ加工 ※ 普通曲げ ○ 角出し曲げ 建具材の含水率の種別 ※ A種 ● B種 ○ C種 フラッシュ戸 表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※ 標仕16.7.2(2)(イ)による 表面材の合板の種類 合板の種類 規格等 備考 ○ 普通合板 表面の樹脂 ○ 板面の品質 (※ 広葉樹 1種 ○ ) 接着の程度 (○ 1種 ○ 2種 ) ● 天然木化粧合板 樹種名 ( ) 接着の程度 (○ 1種 ○ 2種 ) ○ 特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 ※ プリント ○ ポリエステル化粧合板 ○ メラミン化粧合板 ○ 接着の程度 (○ 1種 ○ 2種 ) ○ MDF 表面材の合板の種類及び品質等 ○ 表面板の厚さ ※ 図示による ○ 引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用 ○ 適用する ○ 適用しない かまち戸 かまち及び鏡板の樹種 ※ 図示による ○ 見込み寸法 ※ 36mm ○ ふすま 材料の種別 ○ I型 ○ II型 上張りの種類 ※ 図示による ○ 見込み寸法 ※ 19.5mm ○ 戸ぶすま 上張りの種類 ※ 図示による ○ 見込み寸法 ※ 30mm ○ 紙張り障子 見込み寸法 ※ 30mm ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ 枠及びくつずりの材料 ※ 図示による		
		④こまい下地			建築基準法に基づく耐力壁の指定 (○あり ○なし)	9 こまい壁塗り (15.11.2) ~ (15.11.8)			土壁用のり ※ つのまた ○ ふのり ○ ぎんなんそう ○ 粉末海藻 ○ 砂壁用のり ※ ふのり ○ つのまた ○ こんにやくのり ○ にかわ ○ 合成樹脂系混和剤 ○ 色土の種類 ○ 土物仕上げ ○ 大津仕上げ 色砂の種類 ○ 天然砂と岩石の砕砂 ○ 人工的に着色・製造したもので 下塗りの調合 ※ 表15.11.2 ○ 塗厚 ※ 表15.11.8 ○ ○ 耐力壁の指定がある場合 ( mm ) ※ A種 ○ B種 工程 ○ 土物 仕上げ 種類 ○ 土もの仕上げ工法 ○ 水ごね土物1工法 ○ 水ごね土物2工法 ○ のりさし土物工法 ○ のりごね土物工法 ○ 砂壁仕上げ工法 ○ 切返し仕上げ工法 ちりじゃくり ○ 大津 仕上げ 種類 ○ 普通大津仕上げ工法 ○ 大津みがき仕上げ工法 ちりじゃくり			⑦樹脂製建具 (16.3.2) ~ (16.3.4)	7 樹脂製建具 (16.3.2) ~ (16.3.4) 外部に面する樹脂製建具の性能等級 (コック下地、鉄骨下地) (表16.3.1) 性能等級 ○ A種 ○ B種 ○ C種 耐風圧性 ※ S-4 ○ ※ S-5 ○ ※ S-6 ○ 気密性 ※ A-4 ○ 水密性 ※ W-4 ○ ※ W-5 ○ 枠見込み(mm) ※ 図示 ○ 外部に面する樹脂製建具の性能等級 (木下地) (表16.3.2) 性能等級 ○ D種 ○ E種 耐風圧性 ※ S-2 ○ ※ S-3 ○ 気密性 ※ A-4 ○ 水密性 ※ W-3 ○ 枠見込み(mm) ※ 図示 ○ 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 ○ ガラス ※ 複層ガラス ○ 単板ガラス ○ 三重ガラス ○ 表面色 ○ 標準色 ○ 特注色 ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○ 水切り、ぜん板等 ※ 図示による ○ 木下地の場合の外部に面する内付け建具の止水処理 ○ 行う	
15	5 木ずり下地	木ずり用小幅板の種類 (※すぎ (心去り材) )	15	左官工事	10 ロックウール吹付け (15.12.2) (15.12.3)	ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○	16	建具工事	16	建具工事	16	建具工事		
		⑤木仕上げ			薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1) 種類 (呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○ 外装薄塗材 S i ○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 吹付け ○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ローラー ○ 可とう形外装薄塗材 S i ○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 吹付け ○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ローラー ○ 外装薄塗材 E ○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 吹付け ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ローラー ○ 着色骨材砂壁状 ○ 吹付け ○ こて塗 ○ 可とう形外装薄塗材 E ○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 吹付け ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ローラー ○ 防水形外装薄塗材 E ○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ローラー (増塗材) ○ 凹凸状 吹付け ○ 外装薄塗材 S 砂壁状 吹付け ○ 内装薄塗材 C ○ 凹凸状 吹付け ○ 調湿形 ○ 内装薄塗材 L ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ローラー ○ 内装薄塗材 S i ○ 砂壁状じゅらく ○ ゆず肌状 吹付け ○ 内装薄塗材 E ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ローラー ○ 内装薄塗材 W ○ 京壁状じゅらく ○ ゆず肌状 吹付け ○ 調湿形 ○ 耐アルカリ性 ○ かび抵抗性 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗									
15	6 仕上塗材仕上げ (15.6.2)	内装塗材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ 薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1) 種類 (呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○ 外装厚塗材 C ○ 吹放し ○ 凸部処理 吹付け ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 (上塗材) ○ ひき起し ○ かき落とし ○ 外装厚塗材 S i ○ 吹放し ○ 凸部処理 吹付け ○ 外装厚塗材 E ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ こて塗 (上塗材) ○ ひき起し ○ ローラー ○ 内装厚塗材 C ○ 吹放し ○ 凸部処理 吹付け ○ 調湿形 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ひき起し ○ かき落とし ○ 内装厚塗材 L ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ひき起し ○ かき落とし ○ 内装厚塗材 G ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ひき起し ○ かき落とし ○ 内装厚塗材 S i ○ 吹放し ○ 凸部処理 吹付け ○ 内装厚塗材 E ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ こて塗 ○ ひき起し ○ ローラー	15	左官工事	10 ロックウール吹付け (15.12.2) (15.12.3)	ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○	16	建具工事	16	建具工事	16	建具工事	16	建具工事
		⑥木仕上げ			厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1) 種類 (呼び名) 仕 上 げ 工 法 備 考 ○ 外装厚塗材 C ○ 吹放し ○ 凸部処理 吹付け ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 (上塗材) ○ ひき起し ○ かき落とし ○ 外装厚塗材 S i ○ 吹放し ○ 凸部処理 吹付け ○ 外装厚塗材 E ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ こて塗 (上塗材) ○ ひき起し ○ ローラー ○ 内装厚塗材 C ○ 吹放し ○ 凸部処理 吹付け ○ 調湿形 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ひき起し ○ かき落とし ○ 内装厚塗材 L ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ひき起し ○ かき落とし ○ 内装厚塗材 G ○ 平たん状 ○ 凹凸状 こて塗 ○ ひき起し ○ かき落とし ○ 内装厚塗材 S i ○ 吹放し ○ 凸部処理 吹付け ○ 内装厚塗材 E ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ こて塗 ○ ひき起し ○ ローラー									



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
図名 建築工事特記仕様書-5

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号  
縮尺 A2: -  
A3: -

設計年月 令和8年2月  
図面番号 A-06

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項			
16 16 器具 16	⑫ 建具用金物 (16.8.2) ~ (16.8.4)	マスターキーの製作 ※作成する (グループ、各グループ 個) ●作成しない ○在来マスターキーに合わせる 鍵の製作本数 ※各室3本 1組 ○ 開き戸 (表16.8.1)	13 自動ドア開閉装置 (16.9.2) ~ (16.9.3)	駆動装置及び検出装置の性能 ○引き戸用駆動装置性能値 ※標仕 表16.9.1による (○SSLD-1 ○SSLD-2 ○DSL-1 ○DSL-2) ○種類・開閉方式 耐電圧 温度上昇 耐久性(サイクル) 防錆 電源 ○車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置性能値 ※標仕 表16.9.2による ○耐電圧 温度上昇 耐久性(サイクル) 防錆 電源 ○引き戸用検出装置性能値 ※標仕 表16.9.3による ○放射無線周波数 電磁界耐性 耐電圧 防錆 防滴 電源 戸の開閉方式 ※建具表による ○ 引き戸検出装置の種類 ○表16.9.4 ( ) による ※建具表による タッチスイッチの種類 ○無線式タッチスイッチ ○光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用便房スイッチの種類 ○大型押しボタンスイッチ ○非接触スイッチ 凍結防止措置 ○行う 性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) ○40以下 ○40を超えるもの 手動開き力(N) ※15以下 ○ ※20以下 ○ 手動閉じ力(N) ※15以下 ○ ※20以下 ○ 性能等 品質・規格 種類 ○管理用シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 ○外壁用防火シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 ○屋内用防火シャッター (シャッターケース設ける) ○屋内用防煙シャッター (シャッターケース設ける) 開閉方式 ※電動式(手動併用) ○手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※図示による ○ 管理用シャッターのシャッターケース ○設ける ○設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 材質 めっきの付着量 ○JIS G 3302 ○Z12又はF12を満足するもの ○ ○JIS G 3312 ○Z12又はF12を満足するもの ○ 開閉方式 ○電動式(手動併用) ※手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※図示による ○ 耐風圧強度 スラット 材質 めっきの付着量 形状 ○JIS G 3312 ○Z06又はF06を満足するもの ○ インターロッキング形 ○JIS G 3322 ○AZ90を満足するもの ○ オーバーラッピング形 セクション材 ※スチール ○アルミ ○ファイバーグラス 耐風圧性能 開閉方式 ※バランス式 ○チェーン式 ○電動式 電動式には保護装置を設ける 設置箇所 ※図示による ○ 収納形式 ○スタンダード型 ○ローヘッド型 ○ハイリフト型 ○パーチカル型 ガイドレール等 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ○ステンレス鋼板 材料 種 別 種 類 等 種 別 種 類 等 ○70ト板ガラス ○強化ガラス ●型板ガラス 厚4mm ○熱線吸収板ガラス ○網入板ガラス ○複層ガラス ○線入板ガラス ○熱線反射ガラス ○合わせガラス ○倍強度ガラス ○ ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 ○シーリング材 ※建具製造所の仕様による ○グレイジングチャンネル ○図示による 鋼製及び鋼製軽量建具 ○シーリング材 ※建具製造所の仕様による ○ ○図示による ステンレス製建具 ○シーリング材 ※建具製造所の仕様による ○ ○図示による 樹脂製建具 ○グレイジングガスケット ※建具製造所の仕様による ○ ○図示による ※防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 ※防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	14 自閉式上吊り 引戸装置(16.10.3)	15 重量シャッター (16.11.2) ~ (16.11.4)	16 19 ガラスブロック (16.14.5)	17 1 性能 (17.1.3) ※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 耐風圧性 ○S4 ○S5 ○S6 ○ 耐震性 水平方向(KH) ※1.0 ○ 鉛直方向(KV) ※0.5 ○ 水密性 ○W1 ○W2 ○W3 ○W4 ○W5 気密性 ○A1 ○A2 ○A3 ○A4 ○ 耐火性 ※図示 ○30分 ○1時間 ○ 耐温度差性(℃) ○80 ○70 ○60 ○ 遮音性 ○T1 ○T2 ○T3 ○T4 ○ 断熱性 ○H1 ○H2 ○H3 ○H4 ○H5 2 メタルカーテン ウォール (17.2.2) ~ (17.2.3) (17.2.5) 材料 ○70ト板ガラス ○鋼材 ○ステンレス鋼材 形状・寸法 ※図示による 断熱材 ※図示による 見え掛り仕上げ 70ト板ガラスの場合 ○ (標仕16.2.3) 鋼材及びステンレス鋼材の場合 ○ 製品の寸法許容差 ○表17.2.1による ○ 3 PCカーテン ウォール (17.3.2) ~ (17.3.5) コンクリート ○種類 ○品質 鉄筋 ※SD295 ○ 補強鉄線 径 網目寸法 耐火目地材 断熱材 仕上げ 仕上げ材、建具枠、ゴンドラ用ガイドレール等 ※図示による 4 シーリング材及び ガラス取付材料 (17.2.2) (17.3.2) ※表9.7.11による ○ ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法 ※4辺支持 5 構造用ガスケット (17.2.2) (17.3.2) 材質 ※図示による ○ 形状 ※図示による ○ 寸法 ※図示による ○	18 ① 塗装材料 (18.1.3) ② 素地ごしらえ (18.2.2) ~ (18.2.7) ③ 錆止め塗料塗り (18.3.2) (18.3.3) ④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	塗料のホルムアルデヒド等の放散量 ※F☆☆☆☆ ○ (表18.2.1)~(表18.2.7) 下地面等 種 別 木部 不透明塗料塗りの場合 ※A種 ○B種 透明塗料塗りの場合 ○A種 ※B種 鉄鋼面(DP以外) ○A種 ○B種 ※C種 鉄鋼面(DPのみ) ○A種 ※B種 ○C種 亜鉛めっき鋼面 ○A種 ○B種 モルタル面及びせつこうプラスター面 ○A種 ※B種 コンクリート面(DP以外)及びALCパネル面 ○A種 ※B種 押出成形セメント板面 ○A種 ○B種 コンクリート面(DPのみ) ※A種 ○B種 せつこうボード面及び 目地:継目処理工法 ※A種 ○B種 その他ボード面 目地:継目処理工法以外 ○A種 ※B種 (表18.3.1)~(表18.3.4) 下地面 塗料の種類 錆止め塗料の種類 錆止め塗料塗りの工程 鉄鋼面 SOP A種 見え掛り:A種 見え隠れ:B種 DP C種及びD種 表18.3.4 EP-G ○A種 ※B種 見え掛り:A種 見え隠れ:B種 亜鉛めっき鋼面 SOP ※A種 ○B種 鋼製建具等:A種 ○A種 ※B種 上記以外:B種 DP B種 表18.3.6 EP-G C種 鋼製建具等:A種 上記以外:B種 工程の種類 (表18.4.1)~(表18.4.14) 記号 名 称 種 別 SOP 合成樹脂調合ペイント塗り 木部 屋内 ○A種 ※B種 屋外 ※A種 ○B種 鉄鋼面 ○A種 ※B種 亜鉛めっき鋼面 ※表18.4.3による CL クリヤラッカー塗り ○A種(着色塗料種類) ※B種 NAD 70ト樹脂系非水分散形塗料塗り ○A種 ※B種 DP 耐候性塗料塗り 鉄鋼面 ※表18.7.11による 亜鉛めっき鋼面 ※表18.7.21による コンクリート及び押出成形セメント板面 ○A種 ○B種 ○C種 上塗り ○1級 ふつ樹脂系等 ○2級 シリコン系等 ○3級 珪酸系等 EP-G つや有合成樹脂70トペイント塗り コンクリート、モルタル、せつこうプラスター、せつこうボード、その他ボード面 木部 ※表18.8.2による 鉄鋼面 屋内 ○A種 ※B種 亜鉛めっき鋼面 屋内 ※表18.8.4による EP 合成樹脂70トペイント塗り ○A種 ※B種 UC ウレタン樹脂ワニス塗り ○A種 ※B種 ステン塗り ○ビグメントステイン塗り(表18.11.1) ○オイルステイン塗り(OS) WP 木材保護塗料塗り ○A種 ※B種 クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用 ○適用しない ○適用する(着色剤:○溶剤系着色剤 ○油性染料着色剤) ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用 ○適用する ○適用しない オイルステイン塗りの工程等 ○
	17 ⑬ ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	18 ① 揮発性有機化合物 対策 (19.2.2) (19.3.3) (19.4.2) (19.5.2) (19.5.4) (19.5.5) (19.7.2) (19.8.2) (19.9.2) 2 ビニル床シート 張り (19.2.2) 3 ビニル床タイル 張り (19.2.2)	ビニル床シート、タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○ 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○ 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類 ○図示による ○ 区分 種 類 記号 厚さ(mm) 色 柄 工 法 施工箇所 発泡層無 ○単層ビニル床シート T S ○2.5 ※無地 ※熱溶接 ※仕上による ※複層ビニル床シート F S ※2.0 発泡層有 ○発泡複層ビニル床シート H S ○ ○マーブル ○ ○クッションフロア K S 区分 種 類 記号 厚さ(mm) 色 柄 寸 法 施工箇所 接着形 ※コンクリート上ビニル床タイル K T ○2.5 ○単層ビニル床タイル T T ○2.5 ○複層ビニル床タイル F T ※2.0 置敷形 ○置敷きビニル床タイル F O A ○ 敷敷形 ○薄型置敷きビニル床タイル F O B ○							




株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

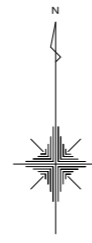
管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
図名	建築工事特記仕様書-6	縮尺	A2: - A3: -	図面番号	A-07



章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																																																																																																																																																																																							
ユニット及びその他の工事	29 旗ポール	<table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>形式</th> <th>地上高さ (m)</th> <th>操作方法</th> <th>固定方法</th> </tr> <tr> <td>※アルミニウム合金</td> <td>※テーパー型</td> <td>○ 6 ○ 10</td> <td>※ハンドル式</td> <td>○埋込式</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○同一断面型</td> <td>○ 8 ○</td> <td>○ロープ式</td> <td>○ベース式</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○バンド式</td> <td>○バンド式</td> </tr> </table> <p>品質・規格 _____</p>	材質	形式	地上高さ (m)	操作方法	固定方法	※アルミニウム合金	※テーパー型	○ 6 ○ 10	※ハンドル式	○埋込式	○	○同一断面型	○ 8 ○	○ロープ式	○ベース式	○			○バンド式	○バンド式	舗装工事	●路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	<p>路床の構成</p> <p>○凍上抑制層 厚さ ● 図示による ○ _____</p> <p>○凍上抑制層に用いる材料 ○ 砂 (○ 砂の粒度試験) ○ _____</p> <p>○透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○ _____</p> <p>歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○ _____</p> <p>盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表3.2.1)</p> <p>路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表22.2.2)</p> <p>種類 ○ 地盤改良材 ( ) ○ 高炉セメントB種 ○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号 ○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号</p> <p>添加量 _____ kg/m<sup>3</sup> (CBR ○3以上 ○ _____)</p> <p>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ○ 行う (※ 乱した土 ○ 乱さない土)</p> <p>路床締固め度の試験 ※ 行う (埋戻し部、盛土部) ○ 行わない</p>	舗装工事	7ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)	<p>○コンクリート平板舗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>目地</th> </tr> <tr> <td>※普通平板 (N)</td> <td>○カラー平板 (C)</td> <td>○ 300角</td> <td>※ 60</td> <td>※ 砂</td> </tr> <tr> <td>○洗出平板 (W)</td> <td>○擬石 (S)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○モルタル</td> </tr> <tr> <td>○透水性平板 (P)</td> <td>○保水性平板 (M)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>品質・規格 _____</p> <p>クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル</p> <p>○インターロッキングブロック舗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>類</th> <th>部位</th> <th>形状寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>曲げ強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>色彩及び表面加工等</th> </tr> <tr> <td>※普通ブロック (N)</td> <td></td> <td>車路</td> <td></td> <td>※ 80</td> <td>※ 5.0</td> <td>※標準品</td> </tr> <tr> <td>○透水性ブロック (P)</td> <td></td> <td>歩行者用通路</td> <td></td> <td>※ 60</td> <td>※ 3.0</td> <td>○ _____</td> </tr> <tr> <td>○保水性ブロック (M)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 80</td> <td>○ _____</td> <td>○ _____</td> </tr> <tr> <td>○植生ブロック</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 60</td> <td></td> <td>○ _____</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 80</td> <td></td> <td>○ _____</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 100</td> <td></td> <td>○ _____</td> </tr> </table> <p>品質・規格 _____</p> <p>クッション材 ※ 砂 _____</p> <p>○鋪石舗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>類</th> <th>形状寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>工法</th> <th>基層</th> <th>基層の厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>○花崗岩</td> <td></td> <td></td> <td>○ 80~100</td> <td>○うろこ張り</td> <td>○コンクリート版</td> <td>※ 70</td> </tr> <tr> <td>○ _____</td> <td></td> <td></td> <td>○ _____</td> <td>○ _____</td> <td>○アスファルト混合物</td> <td>※ 50</td> </tr> </table> <p>品質・規格 _____</p> <p>クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル</p>	種類	類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地	※普通平板 (N)	○カラー平板 (C)	○ 300角	※ 60	※ 砂	○洗出平板 (W)	○擬石 (S)	○	○	○モルタル	○透水性平板 (P)	○保水性平板 (M)				種類	類	部位	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )	色彩及び表面加工等	※普通ブロック (N)		車路		※ 80	※ 5.0	※標準品	○透水性ブロック (P)		歩行者用通路		※ 60	※ 3.0	○ _____	○保水性ブロック (M)				○ 80	○ _____	○ _____	○植生ブロック				○ 60		○ _____					※ 80		○ _____					○ 100		○ _____	種類	類	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	工法	基層	基層の厚さ (mm)	○花崗岩			○ 80~100	○うろこ張り	○コンクリート版	※ 70	○ _____			○ _____	○ _____	○アスファルト混合物	※ 50	植栽及び屋上緑化工事	1 植栽基盤整備 (23.2.2) (23.2.3)	<p>※ 行う</p> <table border="1"> <tr> <th>樹木の樹高</th> <th>有効土層の厚さ (cm)</th> <th>工法</th> <th>整備範囲</th> </tr> <tr> <td>12m以上</td> <td>※ 100 ○ 120 ○ 150</td> <td>※ A種</td> <td>※ 植込み部分</td> </tr> <tr> <td>7~12m未満</td> <td>※ 80 ○ 100</td> <td>○ B種</td> <td>○ 葉張りの範囲</td> </tr> <tr> <td>3~7m未満</td> <td>※ 60 ○ 80</td> <td>○ C種</td> <td>○ C種 (樹高7m以上)</td> </tr> <tr> <td>3m未満</td> <td>※ 50 ○ 60</td> <td>○ D種</td> <td>○ 図示</td> </tr> <tr> <td>芝、地被類</td> <td>※ 20</td> <td>※ B種 ○</td> <td>※ 植栽範囲 ○</td> </tr> </table> <p>※ 工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。</p> <p>植込み用土 ※ 現場発生土の良質土 ○ 客土 (○ 畑土 ○ 黒土)</p> <p>土壌改良材 ○ 行う (○ バーク堆肥 ○ 下水汚泥コンポスト)</p> <p>施工箇所 ※ 植込み部分 ○ 図示による</p> <p>使用量 植栽基盤 1㎡あたり ○ _____</p> <p>植栽基盤に浸透した雨水の排水</p> <p>○暗きよ ○開きよ ○排水層 ○堅穴排水 ○ _____</p>	樹木の樹高	有効土層の厚さ (cm)	工法	整備範囲	12m以上	※ 100 ○ 120 ○ 150	※ A種	※ 植込み部分	7~12m未満	※ 80 ○ 100	○ B種	○ 葉張りの範囲	3~7m未満	※ 60 ○ 80	○ C種	○ C種 (樹高7m以上)	3m未満	※ 50 ○ 60	○ D種	○ 図示	芝、地被類	※ 20	※ B種 ○	※ 植栽範囲 ○	2 樹木の種類等 (23.3.2)	<p>樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類	寸法	数量	備考									3 支柱材、幹巻き用材料 (23.3.2)	<p>支柱材 ※ 杉(焼き丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ)</p> <p>形式 ※ 図示による ○ _____</p> <p>防腐処理方法 ※ 加圧式防腐処理丸太 ○ _____</p> <p>幹巻き用材料 ※ 幹巻き用テープ ○ わら ○ こも</p>	4 芝等 (23.4.2) (23.4.3)	<p>芝</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="3">芝張りの工法</th> </tr> <tr> <th>平地</th> <th>切土法面</th> <th>盛土法面</th> </tr> <tr> <td>※コウライシバ</td> <td>※ 目地張り</td> <td>※ べた張り</td> <td>○ 筋芝張り</td> </tr> <tr> <td>○ノシバ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>吹付けは種</p> <p>種子の種類 ※ 洋芝類 ○ _____</p> <p>種子の量 _____</p> <p>地被類</p> <p>種類 _____</p> <p>芽立数 _____ 株</p> <p>単位面積当たりの株数 _____ 株/㎡</p>	種別	芝張りの工法			平地	切土法面	盛土法面	※コウライシバ	※ 目地張り	※ べた張り	○ 筋芝張り	○ノシバ	○	○	○	5 屋上緑化 (23.5.2) ~ (23.5.4)	<p>○ 屋上緑化システム</p> <p>排水層 ○ 軽量骨材 (厚さ _____) ○ 板状成形品</p> <p>土壌層 ※ 改良土 (厚さ _____) ○ 人工軽量土 (厚さ _____)</p> <p>○ 屋上緑化軽量システム</p> <p>樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>芝・地被類の種類</p> <p>※ 図示による</p> <p>○コウライシバ (※ 目地張り ○ _____)</p> <p>○ノシバ (※ 目地張り ○ _____)</p> <p>○セダム類 (○ カット ○ ふるい ○ プラグ苗 ○ _____)</p> <p>材料 ○ 見切り材 _____ ○ 舗装材 _____</p> <p>○ 排水孔 _____ ○ 排水材 _____</p> <p>かん水装置 ○ 設置する ( _____ )</p> <p>○ 設置しない</p> <p>支柱材 ○ 設置する</p> <p>※ 杉(焼き丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ)</p> <p>形式 ※ 図示による ○ _____</p> <p>防腐処理方法 ※ 加圧式防腐処理丸太 ○ _____</p> <p>○ 設置しない</p> <p>「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造体力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1458号)に基づく風圧力に対応した工法</p> <p>○ 図示による ○ _____</p>	種類	寸法	数量	備考									6 新植、移植樹木、芝等の枯補償 (23.3.4) (23.3.6) (23.4.7) (23.5.5)	<p>※ 引渡しの日から 1年 ○ 引渡しの日から _____ 年</p>
	材質	形式	地上高さ (m)	操作方法	固定方法																																																																																																																																																																																													
	※アルミニウム合金	※テーパー型	○ 6 ○ 10	※ハンドル式	○埋込式																																																																																																																																																																																													
	○	○同一断面型	○ 8 ○	○ロープ式	○ベース式																																																																																																																																																																																													
○			○バンド式	○バンド式																																																																																																																																																																																														
種類	類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地																																																																																																																																																																																														
※普通平板 (N)	○カラー平板 (C)	○ 300角	※ 60	※ 砂																																																																																																																																																																																														
○洗出平板 (W)	○擬石 (S)	○	○	○モルタル																																																																																																																																																																																														
○透水性平板 (P)	○保水性平板 (M)																																																																																																																																																																																																	
種類	類	部位	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )	色彩及び表面加工等																																																																																																																																																																																												
※普通ブロック (N)		車路		※ 80	※ 5.0	※標準品																																																																																																																																																																																												
○透水性ブロック (P)		歩行者用通路		※ 60	※ 3.0	○ _____																																																																																																																																																																																												
○保水性ブロック (M)				○ 80	○ _____	○ _____																																																																																																																																																																																												
○植生ブロック				○ 60		○ _____																																																																																																																																																																																												
				※ 80		○ _____																																																																																																																																																																																												
				○ 100		○ _____																																																																																																																																																																																												
種類	類	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	工法	基層	基層の厚さ (mm)																																																																																																																																																																																												
○花崗岩			○ 80~100	○うろこ張り	○コンクリート版	※ 70																																																																																																																																																																																												
○ _____			○ _____	○ _____	○アスファルト混合物	※ 50																																																																																																																																																																																												
樹木の樹高	有効土層の厚さ (cm)	工法	整備範囲																																																																																																																																																																																															
12m以上	※ 100 ○ 120 ○ 150	※ A種	※ 植込み部分																																																																																																																																																																																															
7~12m未満	※ 80 ○ 100	○ B種	○ 葉張りの範囲																																																																																																																																																																																															
3~7m未満	※ 60 ○ 80	○ C種	○ C種 (樹高7m以上)																																																																																																																																																																																															
3m未満	※ 50 ○ 60	○ D種	○ 図示																																																																																																																																																																																															
芝、地被類	※ 20	※ B種 ○	※ 植栽範囲 ○																																																																																																																																																																																															
種類	寸法	数量	備考																																																																																																																																																																																															
種別	芝張りの工法																																																																																																																																																																																																	
	平地	切土法面	盛土法面																																																																																																																																																																																															
※コウライシバ	※ 目地張り	※ べた張り	○ 筋芝張り																																																																																																																																																																																															
○ノシバ	○	○	○																																																																																																																																																																																															
種類	寸法	数量	備考																																																																																																																																																																																															
排水工事	① 屋外雨水排水 (21.2.1) (21.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>材種 (表21.2.1)</th> <th>管の種類</th> <th>呼び径</th> <th>基床の厚さ</th> </tr> <tr> <td>○遠心力鉄筋コンクリート管</td> <td>※ 外圧管 (1種)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>●硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>● V P ○ V U ○ R S - V U</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○硬質ポリ塩化ビニル管継手</td> <td>○ D V ○ V U継手</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※ 接着剤 ○ _____</p> <p>側溝の形状及び寸法 ○ 図示による ○ _____</p> <p>排水溝の種類 ○ 図示による</p> <p>砂地業に用いる材料 ○ シルト ○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂</p> <p>砂利地業に用いる材料 ○ 再生クラッシュラン ○ 切込砂利または切込砕石</p> <p>○現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 ※ 18N/mm<sup>2</sup> ○ _____</p> <p>スランブ ※ 15cm 又は 18cm ○ _____</p> <p>○現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ SD295</p> <p>○現場打ちの場合の足掛け金物 ※ (21.2.2(6)(ウ))</p> <p>材質 ○ ステンレス製 ○ 鋼製 ○ 合成樹脂被覆加工されたもの</p> <p>○凍上抑制層に用いる材料 ○ 砂 (○ 砂の粒度試験) ○ _____</p>	材種 (表21.2.1)	管の種類	呼び径	基床の厚さ	○遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管 (1種)			●硬質ポリ塩化ビニル管	● V P ○ V U ○ R S - V U			○硬質ポリ塩化ビニル管継手	○ D V ○ V U継手			5 カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4)	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>配合その他</th> </tr> <tr> <td>※ 加熱系アスファルト混合物</td> <td>○ 車路 ○ 歩行者用通路</td> <td></td> </tr> <tr> <td>添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 _____)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アスファルト混合物等の抽出試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 適用する ※ 適用しない</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>舗装の厚さ _____ mm</p> <p>○ 常温系ニート工法</p> <p>○ 常温系塗布工法</p> <p>着色部の下部 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装</p>	種類	部位	配合その他	※ 加熱系アスファルト混合物	○ 車路 ○ 歩行者用通路		添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石			結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 _____)			アスファルト混合物等の抽出試験			○ 適用する ※ 適用しない			6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)	<p>舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ _____</p> <p>表層の厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない</p> <p>開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない</p>	2 鋳鉄製ふた (21.2.1)	<p>鋼鉄製マンホールふたの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用荷重 (安全荷重)</th> </tr> <tr> <td>○水封形 ○ 密閉形 (テーパーハッチ式)</td> <td>○ T-2用 (5KN) ○ T-6用 (115KN)</td> </tr> <tr> <td>○中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (ハッチ式)</td> <td>○ T-20用 (50KN)</td> </tr> </table>	種類	適用荷重 (安全荷重)	○水封形 ○ 密閉形 (テーパーハッチ式)	○ T-2用 (5KN) ○ T-6用 (115KN)	○中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (ハッチ式)	○ T-20用 (50KN)	3 グレーチング (21.2.1)	<p>グレーチングふた</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>形式</th> <th>適用荷重</th> <th>タイプ</th> <th>上面形状</th> </tr> <tr> <td>○溝ふた用</td> <td>○鋼製</td> <td>受枠 ※ なし</td> <td>○歩行用</td> <td>○普通目</td> <td>○平形</td> </tr> <tr> <td>○樹ふた用</td> <td>○ステンレス製</td> <td>○あり</td> <td>○T-2用</td> <td>※細目</td> <td>※凹凸形</td> </tr> <tr> <td>○嵩上げ用</td> <td></td> <td>○図示</td> <td>○T-6用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○U字溝用</td> <td></td> <td>ボルト固定 ※ なし</td> <td>○T-14用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○図示</td> <td>○T-20用</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類	材質	形式	適用荷重	タイプ	上面形状	○溝ふた用	○鋼製	受枠 ※ なし	○歩行用	○普通目	○平形	○樹ふた用	○ステンレス製	○あり	○T-2用	※細目	※凹凸形	○嵩上げ用		○図示	○T-6用			○U字溝用		ボルト固定 ※ なし	○T-14用					○図示	○T-20用			4 縁石 (21.3.1) (21.3.2)	<p>歩車道境界ブロックのJISによる呼び名 ※ A ○ _____</p> <p>地先境界ブロックのJISによる呼び名 ※ A ○ C ○ _____</p> <p>砂利地業の厚さ ※ 100mm ○ _____</p>	5 コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)	<p>鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____</p> <p>コンクリートL形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____</p> <p>鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 ○ 240 ○ 300A ○ 360A ○ _____</p> <p>現場打ちコンクリートの設計基準強度 <math>F_c(N/mm^2)</math> ※ 1.8 ○ _____</p> <p>スランブ (cm) ○ 1.5 ○ 1.8 ○ _____</p> <p>現場打ち鉄筋 種類の記号 ※ SD295A ○ _____</p>																																																																																																								
	材種 (表21.2.1)	管の種類	呼び径	基床の厚さ																																																																																																																																																																																														
	○遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管 (1種)																																																																																																																																																																																																
	●硬質ポリ塩化ビニル管	● V P ○ V U ○ R S - V U																																																																																																																																																																																																
	○硬質ポリ塩化ビニル管継手	○ D V ○ V U継手																																																																																																																																																																																																
種類	部位	配合その他																																																																																																																																																																																																
※ 加熱系アスファルト混合物	○ 車路 ○ 歩行者用通路																																																																																																																																																																																																	
添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石																																																																																																																																																																																																		
結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 _____)																																																																																																																																																																																																		
アスファルト混合物等の抽出試験																																																																																																																																																																																																		
○ 適用する ※ 適用しない																																																																																																																																																																																																		
種類	適用荷重 (安全荷重)																																																																																																																																																																																																	
○水封形 ○ 密閉形 (テーパーハッチ式)	○ T-2用 (5KN) ○ T-6用 (115KN)																																																																																																																																																																																																	
○中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (ハッチ式)	○ T-20用 (50KN)																																																																																																																																																																																																	
種類	材質	形式	適用荷重	タイプ	上面形状																																																																																																																																																																																													
○溝ふた用	○鋼製	受枠 ※ なし	○歩行用	○普通目	○平形																																																																																																																																																																																													
○樹ふた用	○ステンレス製	○あり	○T-2用	※細目	※凹凸形																																																																																																																																																																																													
○嵩上げ用		○図示	○T-6用																																																																																																																																																																																															
○U字溝用		ボルト固定 ※ なし	○T-14用																																																																																																																																																																																															
		○図示	○T-20用																																																																																																																																																																																															
			 <p>株式会社 東亜設計 一級建築士事務所</p>		<p>管理建築士 柴田 昌孝</p> <p>1級建築士 登録第245376号</p>		<p>工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事</p> <p>図名 建築工事特記仕様書-8</p>	<p>設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号</p> <p>縮尺 A2: - A3: -</p>	<p>設計年月 令和8年2月</p> <p>図面番号 A-09</p>																																																																																																																																																																																									

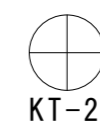
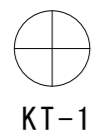
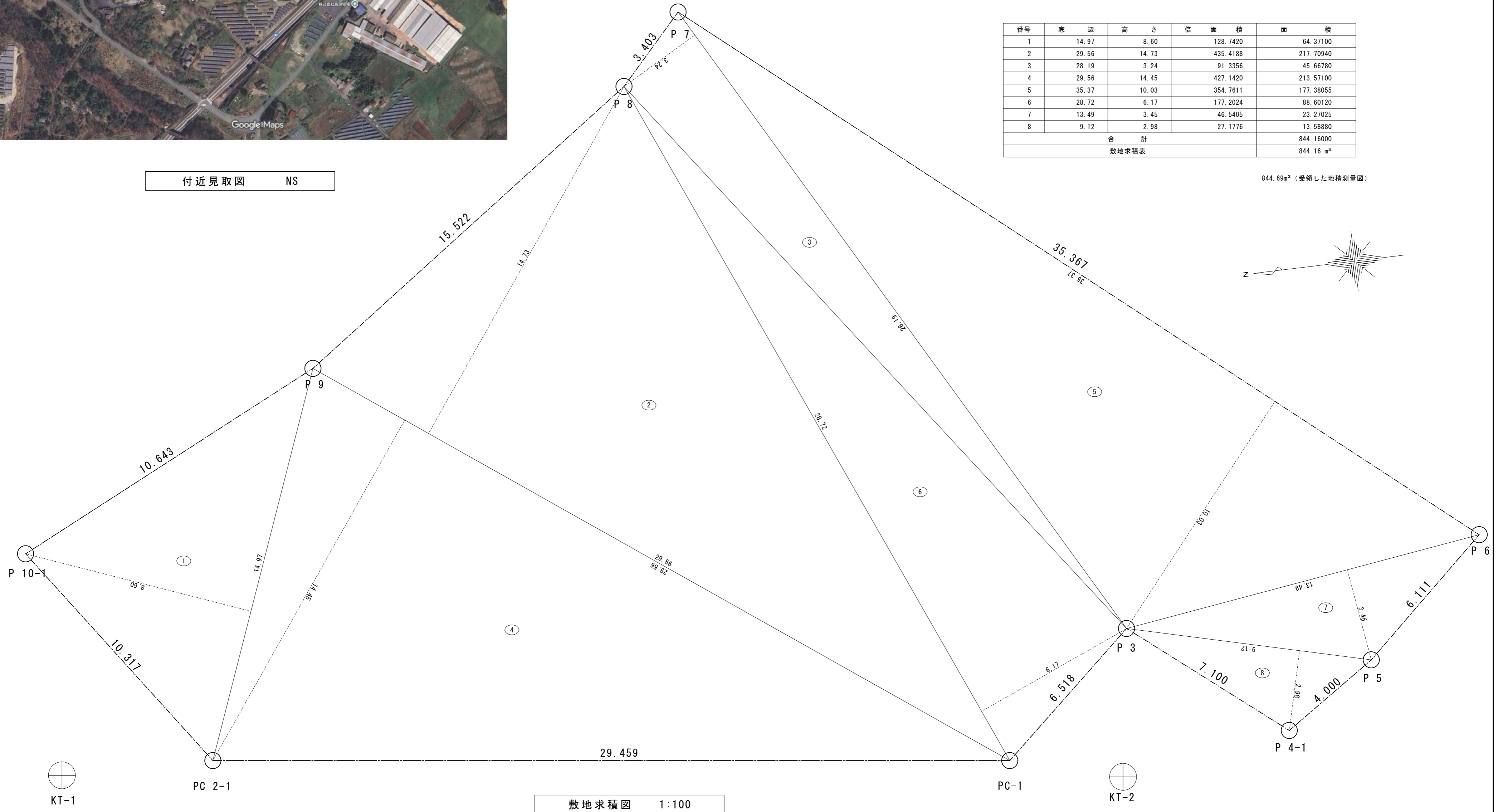
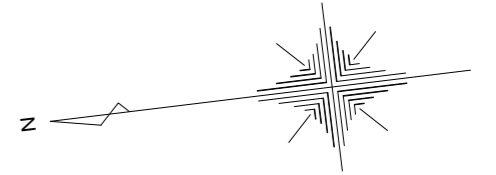
計画地：京都府船井郡京丹波町下山野丸18番地1



番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	14.97	8.60	128.7420	64.37100
2	29.56	14.73	435.4188	217.70940
3	28.19	3.24	91.3356	45.66780
4	29.56	14.45	427.1420	213.57100
5	35.37	10.03	354.7611	177.38055
6	28.72	6.17	177.2024	88.60120
7	13.49	3.45	46.5405	23.27025
8	9.12	2.98	27.1776	13.58880
合 計				844.16000
敷地求積表				844.16 m <sup>2</sup>

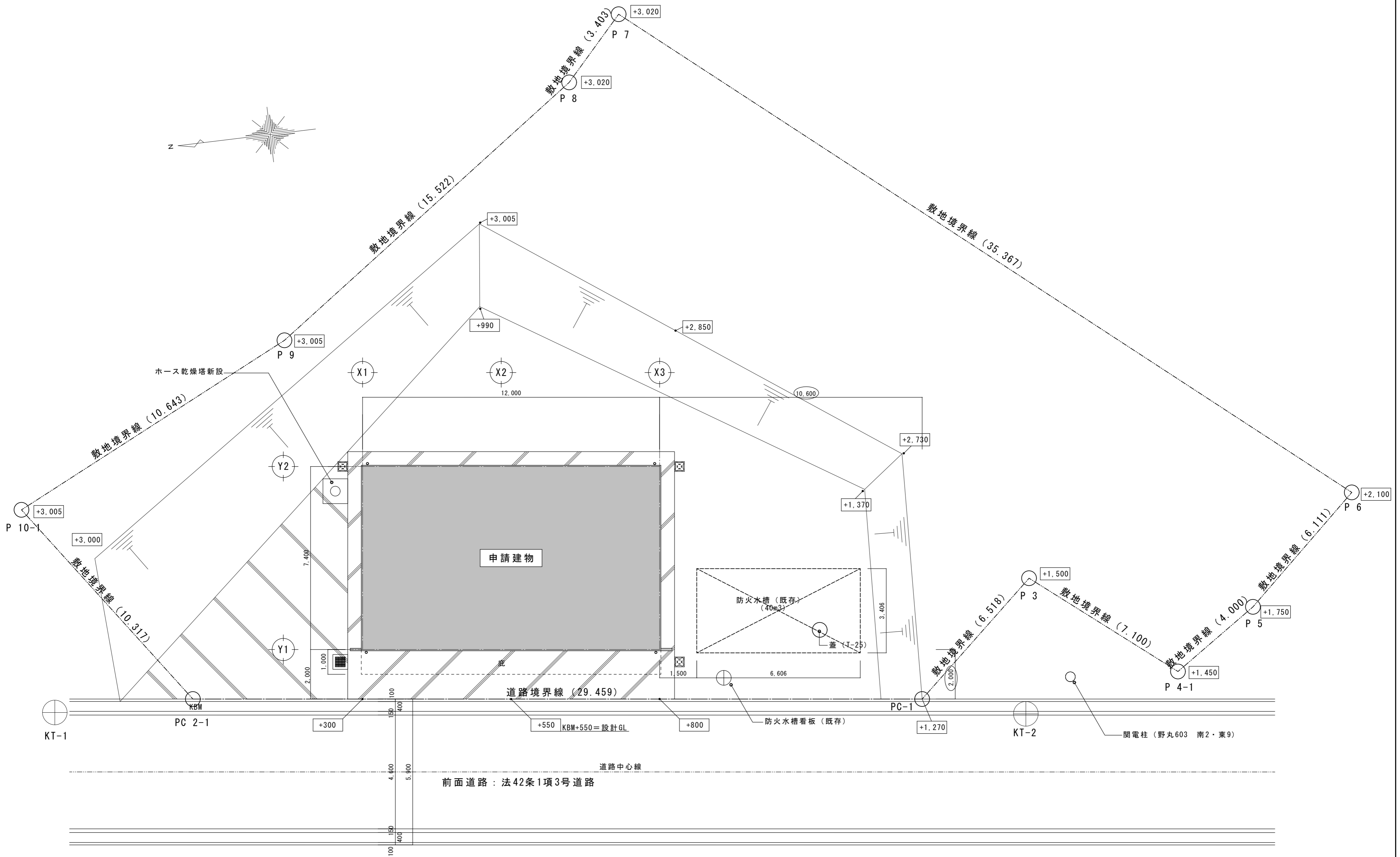
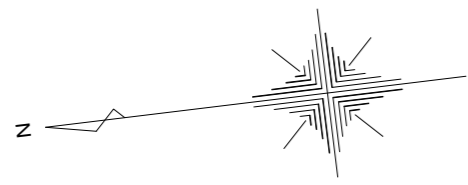
844.69m<sup>2</sup> (受領した地積測量図)

付近見取図 NS




敷地求積図 1:100

	株式会社 東亜設計 一級建築士事務所 管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
		図名	付近見取図 敷地求積図・求積表	縮尺	A2: 1/100 A3: -	図面番号	A-10



配置図 1:100

20251009作成

	 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月
			図名 配置図	縮尺 A2: 1/100 A3: -	図面番号 A-11

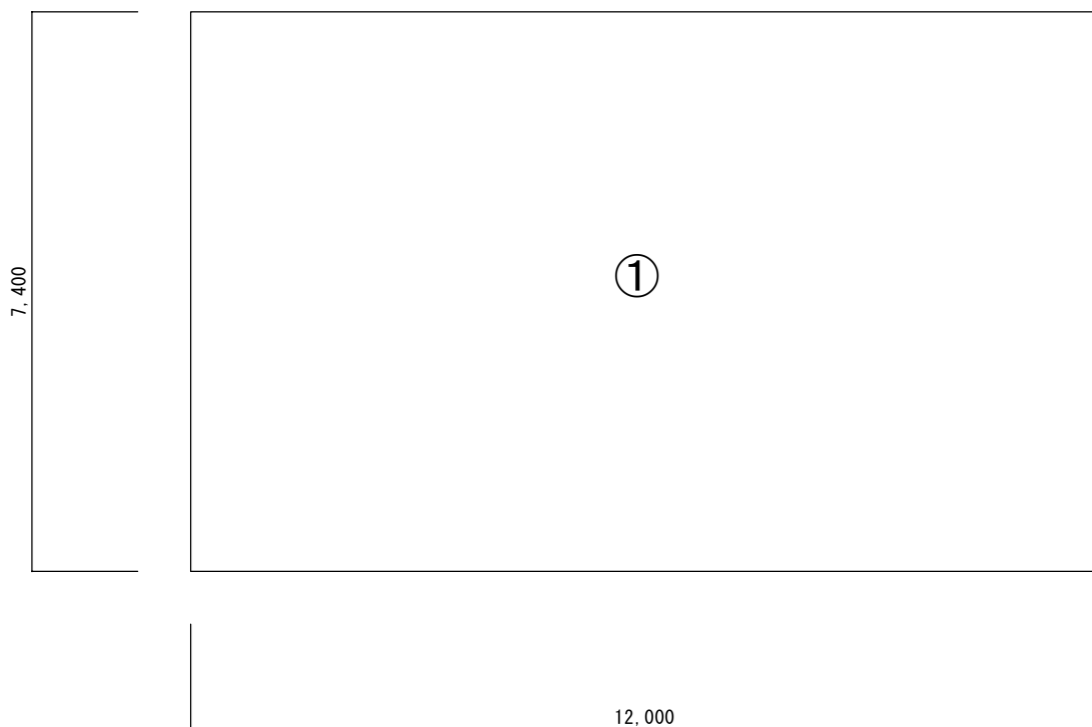
外部仕上表

屋根	塗装溶融55%7μmニム鉛めっき鋼板折版葺きφ0.8 (山高 H=160) へり裏張りφ4	庇	窯業系サイディングφ14「通気工法」塗装品 透湿・防水シート φ0.15 縦胴縁：C-100×50×20×2.3@606	竖樋	硬質塩ビ製 75φ ｶﾗｰ
軒天	LGS天井下地粗 (25形) 珪酸カルシウム板φ6 EP-G塗装	庇屋根	合成高分子系ルーフシート防水 (S-F1: 接着工法) φ1.2 構造用合板φ15 二重張り 根太：米松 45×60@330内外	養生管	硬質塩ビ製 100φ ｶﾗｰ (H=300)
外壁	窯業系サイディングφ14「通気工法」塗装品 透湿・防水シート φ0.15 縦胴縁：C-100×50×20×2.3@606	犬走り	コンクリート直均し仕上げ		
巾木	コンクリート打放補修 (化粧目地：20×20 @600)	軒樋	硬質塩ビ製 (折版用) 120角	塗装	木部 (額縁、建具枠、見切類)：WP塗装 ｶﾞｰﾄﾞ面：素地

内部仕上表


階	区分 室名	床			巾木・腰壁			壁		天井			備考
		下地	仕上	床高	下地	仕上	腰高	下地	仕上	下地	仕上	天井高	
1階	車庫	RC	コンクリート直均し仕上げ (水勾配付)	±0 ↓ 50	RC	薄モルタル塗りφ15	GL+1,200	S LGS	珪酸カルシウム板φ6【不燃：NM-8619】 耐水ラワンベニヤφ12下地 (※以下部分のみ) (X1通り、Y2通り) (横胴縁：杉 20×40@360下地)	LGS	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞφ9.5 (塩ビ製廻り縁：底目)	2,950~ 3,000	棚2段、車止め、消火器(ABC 10単位) 腰見切：米桐 50×25 WP塗装(外壁面) 腰見切：米桐 25×25 WP塗装(内壁面) 壁付レール(L=6,000)、可動フック 30本
	詰所	RC	コンクリート直均し仕上げ	+150	RC	薄モルタル塗りφ15	GL+1,050	S LGS	珪酸カルシウム板φ6【不燃：NM-8619】 (横胴縁：杉 20×40@360下地) 横胴縁は外壁面のみ	LGS	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞφ9.5 (塩ビ製廻り縁：底目)	2,850	腰見切：米桐 50×25 WP塗装(外壁面) 腰見切：米桐 25×25 WP塗装(内壁面) 流し台 (W1,500) レンジフード (W600)、吊戸棚 (W900) IHコンロ (クックナシ) 上部垂れ壁・LGS下地 珪酸カルシウム板φ6
	便所	RC	合成樹脂塗り床 (エポキシ樹脂系)【乾式仕上】 防滑仕上 厚1.2mm (下地)モルタル塗りφ30コテ押え	+130	RC	薄モルタル塗りφ15	GL+1,050	S LGS	珪酸カルシウム板φ6【不燃：NM-8619】 (横胴縁：杉 20×40@360下地) 横胴縁は外壁面のみ	LGS	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞφ9.5 (塩ビ製廻り縁：底目)	2,400	腰見切：米桐 50×25 WP塗装(外壁面) 腰見切：米桐 25×25 WP塗装(内壁面) 棚：FRP化粧板 W1,100×D250×φ20
	畳スペース	RC	畳敷φ55+構造用合板φ12 (木軸床組下地)	+450	RC	畳寄せ (米桐)		S LGS	珪酸カルシウム板φ6【不燃：NM-8619】 (横胴縁：杉 20×40@360下地) 横胴縁は外壁面のみ	LGS	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞφ9.5 (塩ビ製廻り縁：底目)	2,550	框：90×60
	物入	RC	構造用合板φ12 (木軸床組下地)	+450	RC	雑巾摺 (米桐)		S LGS	シナベニヤφ5.5 (横胴縁：杉 20×40@360下地) 横胴縁は外壁面のみ	LGS	シナベニヤφ4 (木製廻り縁：杉 40×40)	2,550	棚2段

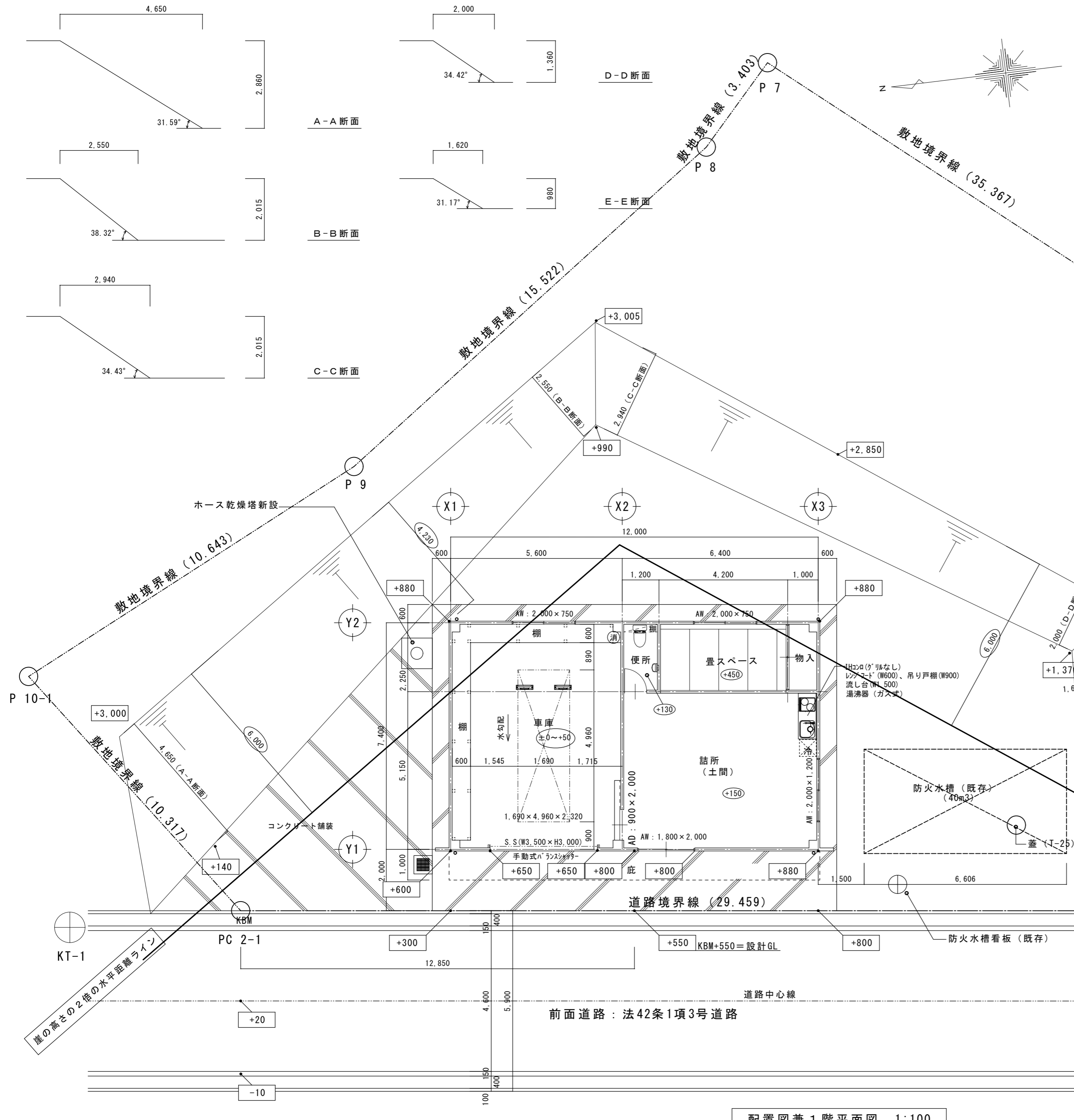
【凡例】 RC：鉄筋コンクリート LGS：軽量鉄骨  
S：鉄骨 W：木



1階求積図 1:100

	符号	計算式	計
	①	12.00 × 7.40	88.80
1階床面積			88.80 m <sup>2</sup>
建築面積			88.80 m <sup>2</sup>

 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所 <small>管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号</small>	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月 図面番号 A-12
	図名 内外仕上表 求積図・求積表	縮尺 A2: 1/100 A3: -	



設計概要		
一般事項	工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団第7分団第2部消防所
	建築場所	京都府船井郡京丹波町下山野丸18番地1
	用途地域	指定なし
	防火地域	指定なし(法22条区域)
	その他	建蔽率: 60% 容積率: 200%
建物概要	主要用途	消防所
	工事種別	新築
	構造・規模	鉄骨造平屋建て
	基礎構造	鉄筋コンクリート構造 直接基礎
	最高の高さ	5.20m
	最高の軒高さ	4.00m
	敷地面積	844.16㎡
設備概要	給水	給水本管より分岐給水
	排水	公共下水道接続
	給湯	ガス湯沸器
	換気	第3種換気方式

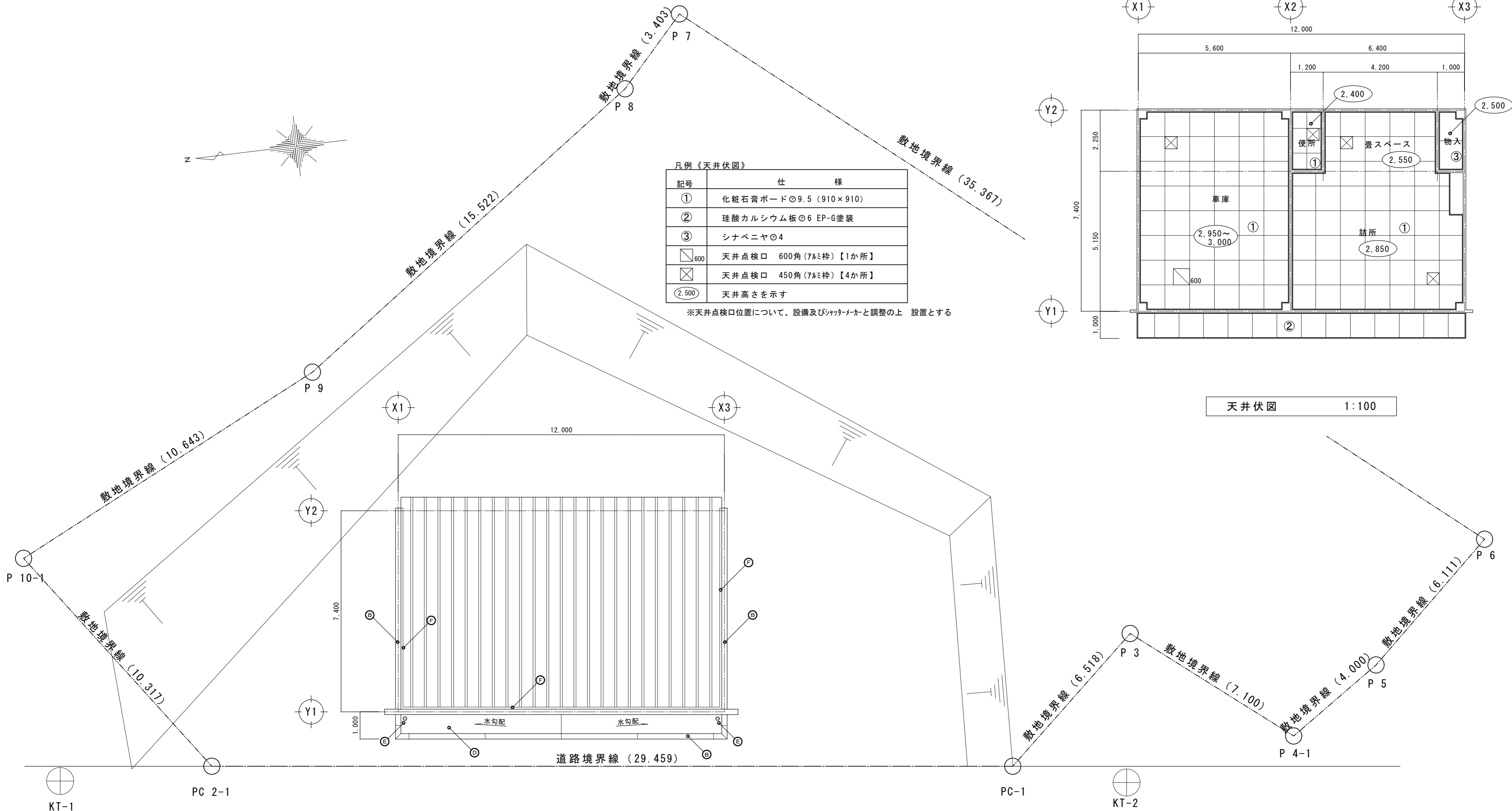
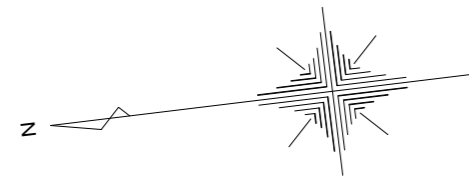
内装制限一覧表					
室名	部分	壁仕上	認定番号	天井仕上	認定番号
詰所	下地				
	仕上	珪酸カルシウム板⑥	NM-8619	不燃	化粧石膏板・F'⑨.5 QM-9824 準不燃
車庫	下地				
	仕上	珪酸カルシウム板⑥	NM-8619	不燃	化粧石膏板・F'⑨.5 QM-9824 準不燃

配置図兼1階平面図 1:100

\*平均地盤面の算定\*

$$(12.0 \times 0.28 \times 1/2 + 7.4 \times 0.28 + 12.0 \times 0.28 + 7.4 \times 0.28 \times 1/2) \div (12.0 \times 2 + 7.4 \times 2)$$

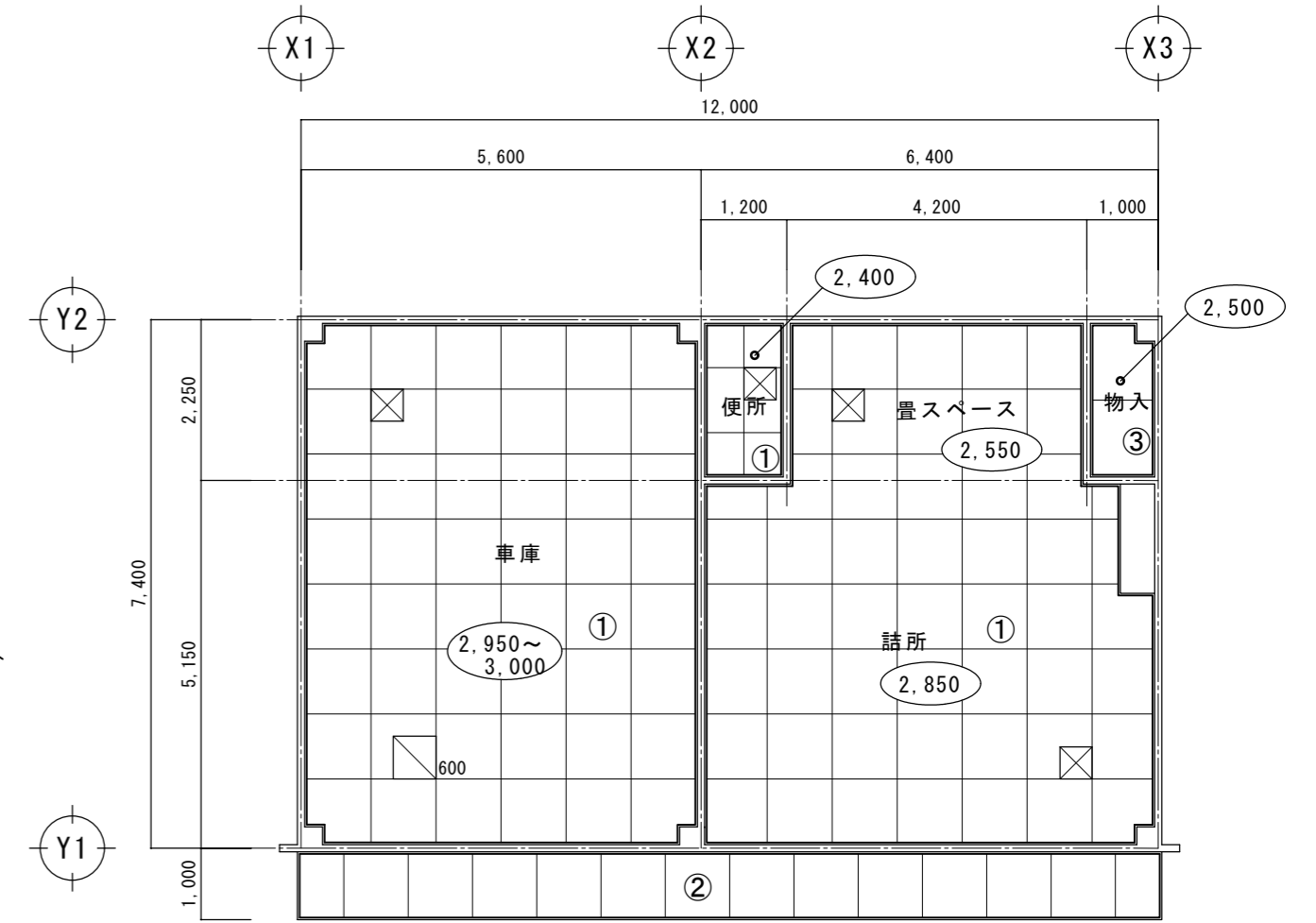
$$= 8.148 \div 38.8 = 0.21m$$



凡例《天井伏図》

記号	仕 様
①	化粧石膏ボードφ9.5 (910×910)
②	珪酸カルシウム板φ6 EP-G塗装
③	シナベニヤφ4
□600	天井点検口 600角(7&#248;枠)【1か所】
⊠	天井点検口 450角(7&#248;枠)【4か所】
○2.500	天井高さを示す

※天井点検口位置について、設備及びシャッターマークと調整の上 設置とする

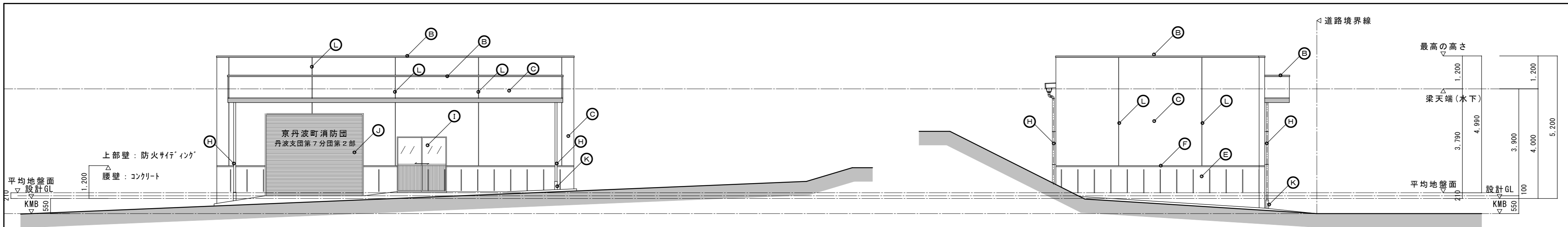


天井伏図 1:100

屋根伏図 1:100

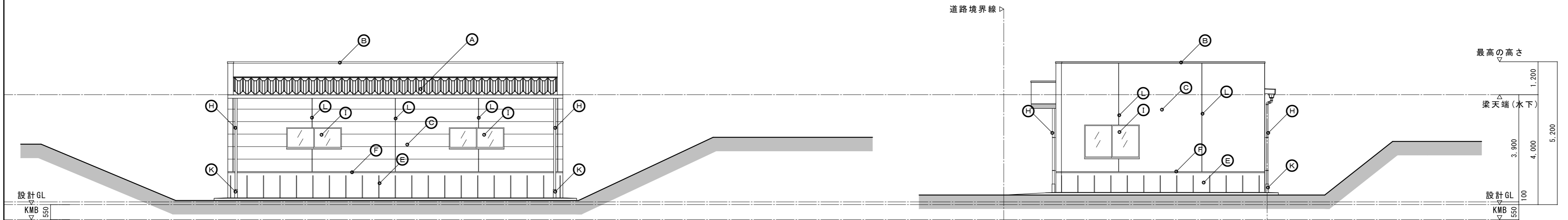
凡例《屋根伏図》

記号	仕 上
A	屋根：塗装溶融55%7&#248;ニ&#248;鉛めっき鋼板折板葺きφ0.8 (山高 H=160) ^7裏張りφ4
B	笠木：塗装溶融55%7&#248;ニ&#248;鉛めっき鋼板φ0.6 W=200
C	雪止め金物：50×50×4 溶融亜鉛めっき品
D	庇：合成高分子系M-Fイン&#248;シート防水 (S-F1：接着工法) φ1.2 構造用合板φ15 二重張り
E	ルー&#248;ドレン (シート防水用 75φ用)
F	壁取合水切：塗装溶融55%7&#248;ニ&#248;鉛めっき鋼板φ0.4



西立面図 1:100

北立面図 1:100

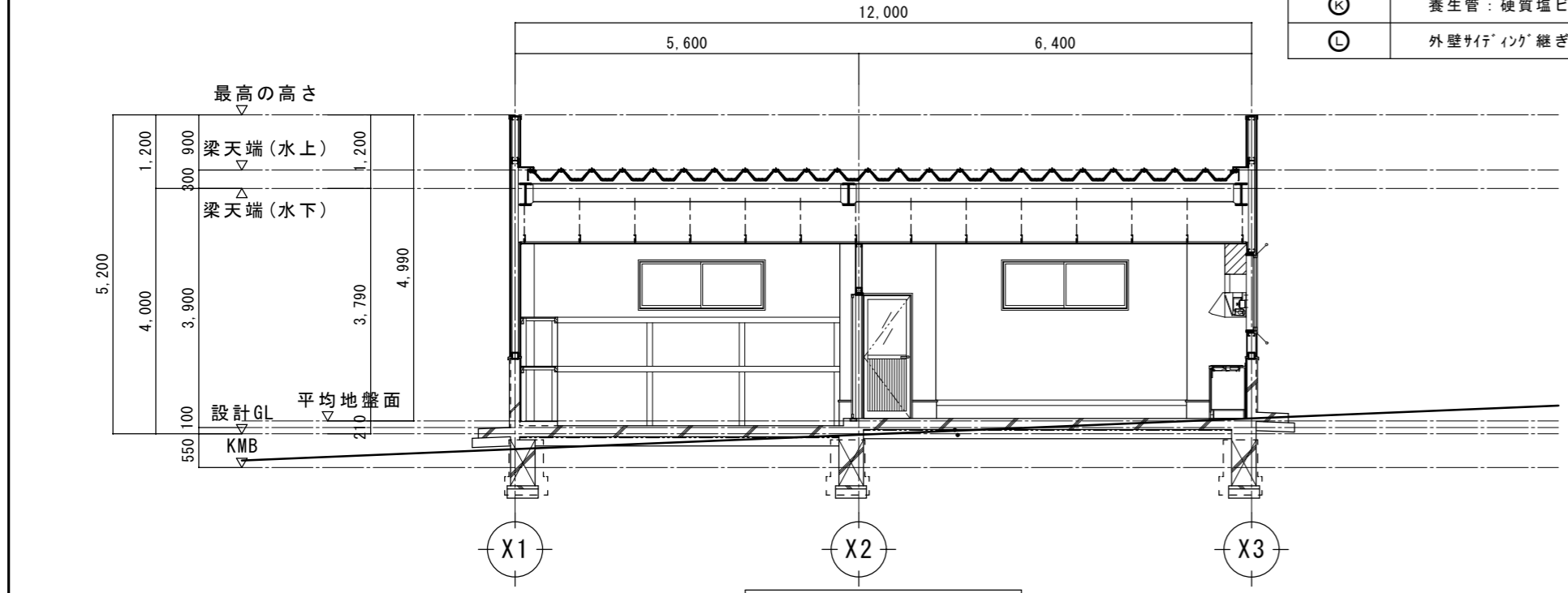


東立面図 1:100

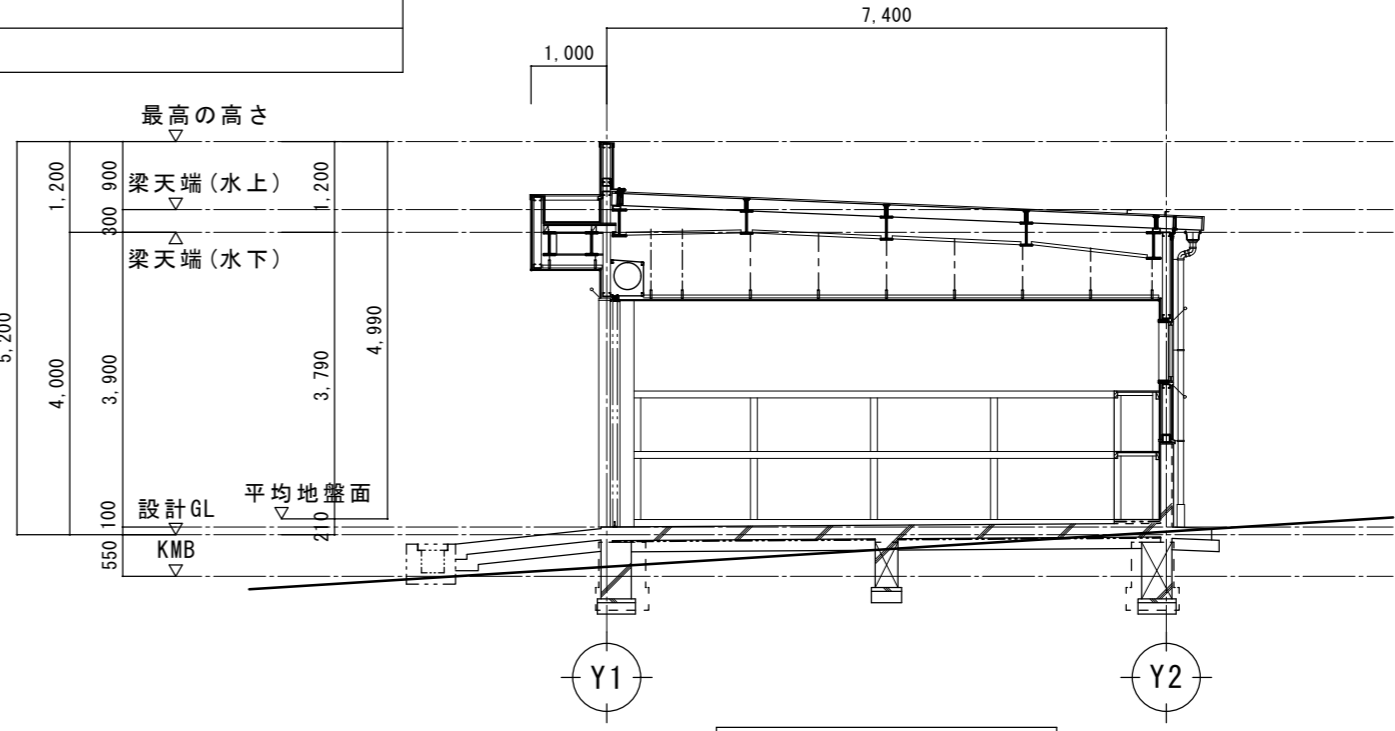
南立面図 1:100

凡例

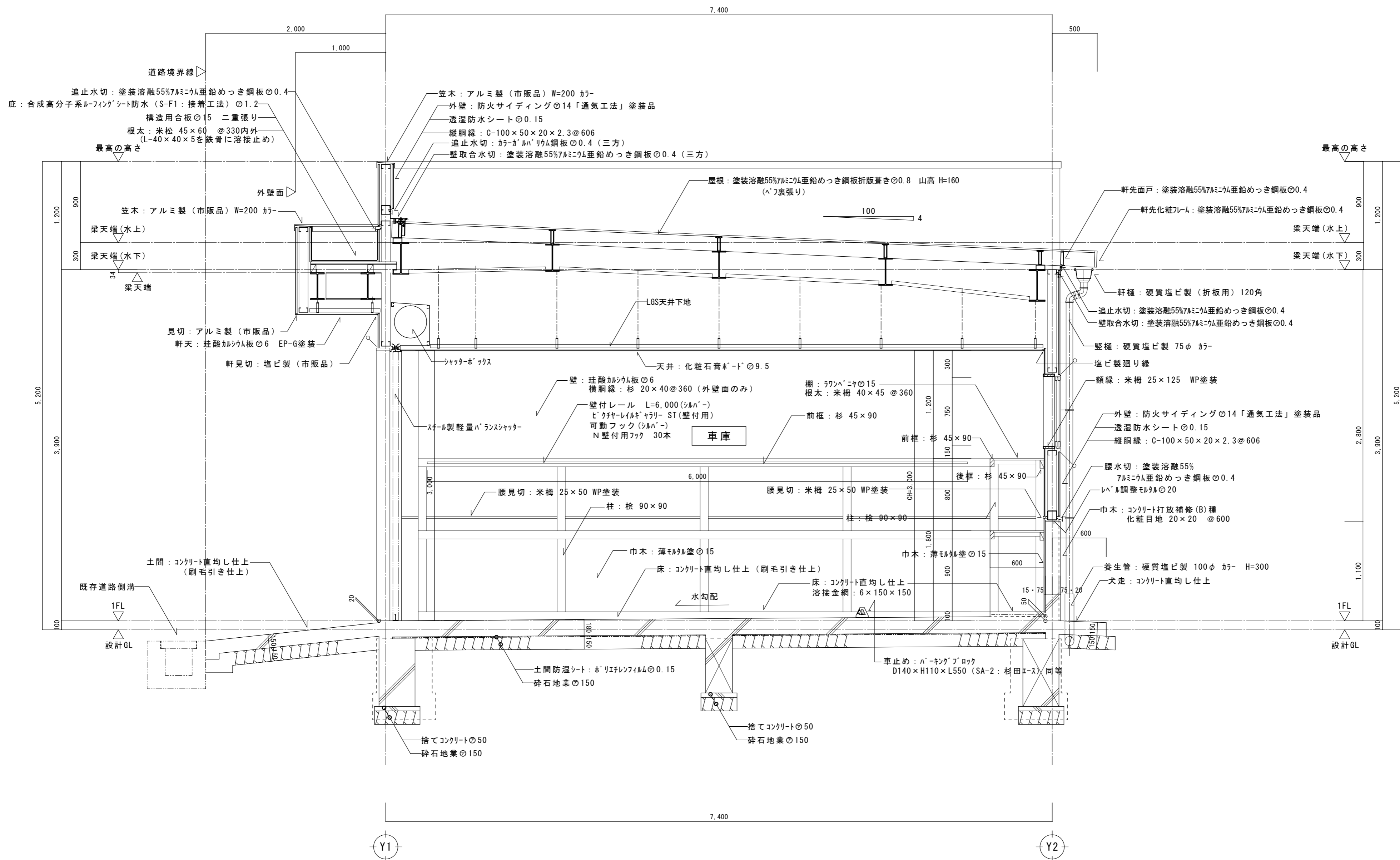
記号	仕上
Ⓐ	屋根：塗装溶融55%7mmミニガル亜鉛めっき鋼板折板葺きφ0.8 (山高 H=160) へ7裏張りφ4
Ⓑ	笠木：塗装溶融55%7mmミニガル亜鉛めっき鋼板φ0.6 W=200
Ⓒ	外壁：窯業系サイディングφ14 「通気工法」 塗装品 透湿防水シートφ0.15 縦胴縁：C-100×50×20×2.3@606 (@3.030ごとにダブル[2C])
Ⓓ	外壁継ぎ目部(縦)：変成シリコン系シーリング (MS-2)
Ⓔ	腰壁：コンクリート打放補修(化粧目地：20×20@600)
Ⓕ	腰水切：塗装溶融55%7mmミニガル亜鉛めっき鋼板φ0.4
Ⓖ	軒樋：硬質塩ビ製(折版用) 120角
Ⓗ	堅樋：硬質塩ビ製 75φ ｶｰ
Ⓘ	アルミ製引違い窓(アルミ製引連扉)
Ⓚ	手動式スチール製バランスシャッター
Ⓛ	養生管：硬質塩ビ製 100φ ｶｰ
Ⓚ	外壁サイディング継ぎ目：変成シリコン系シーリング (MS-2)




Y方向断面図 1:100

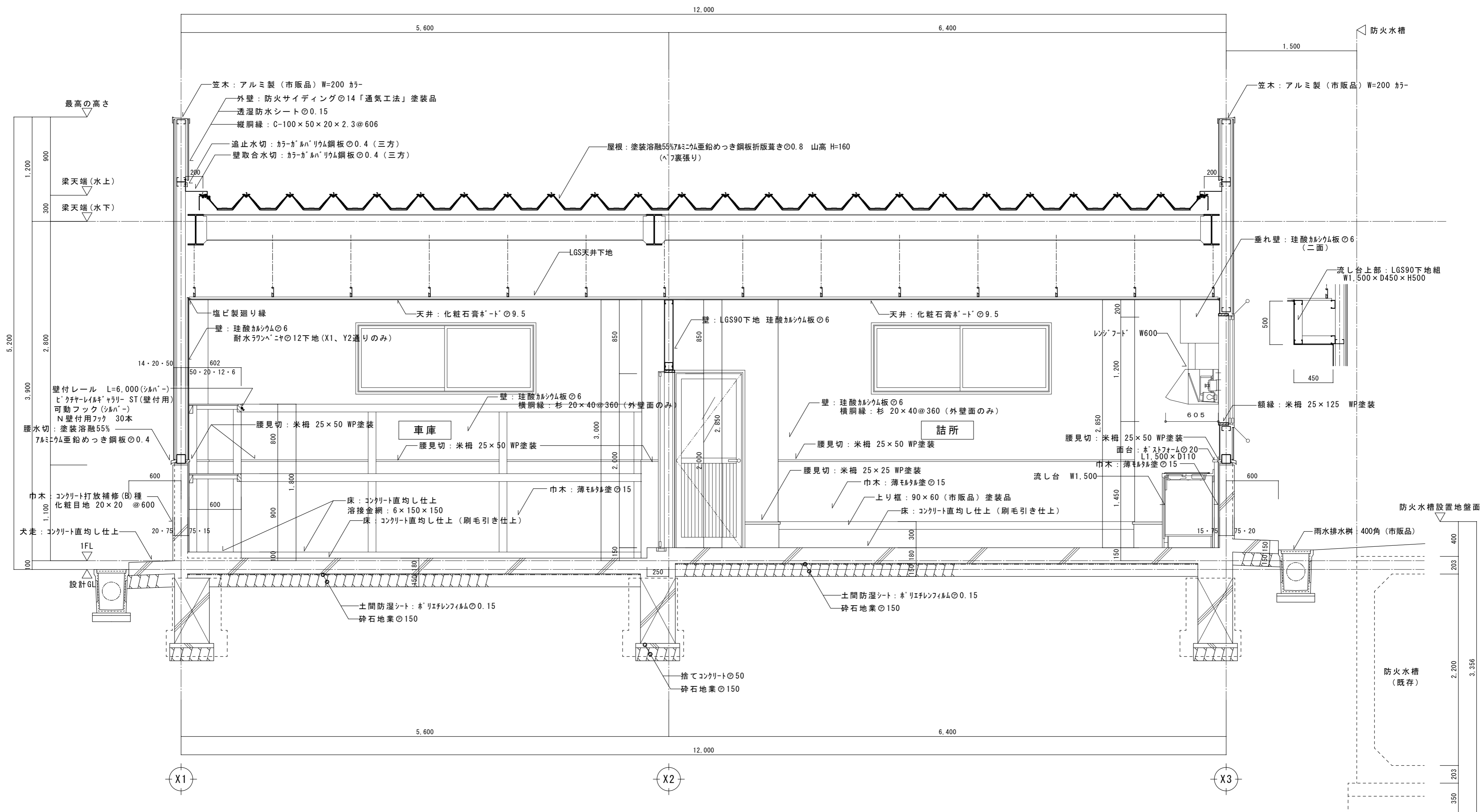


X方向断面図 1:100




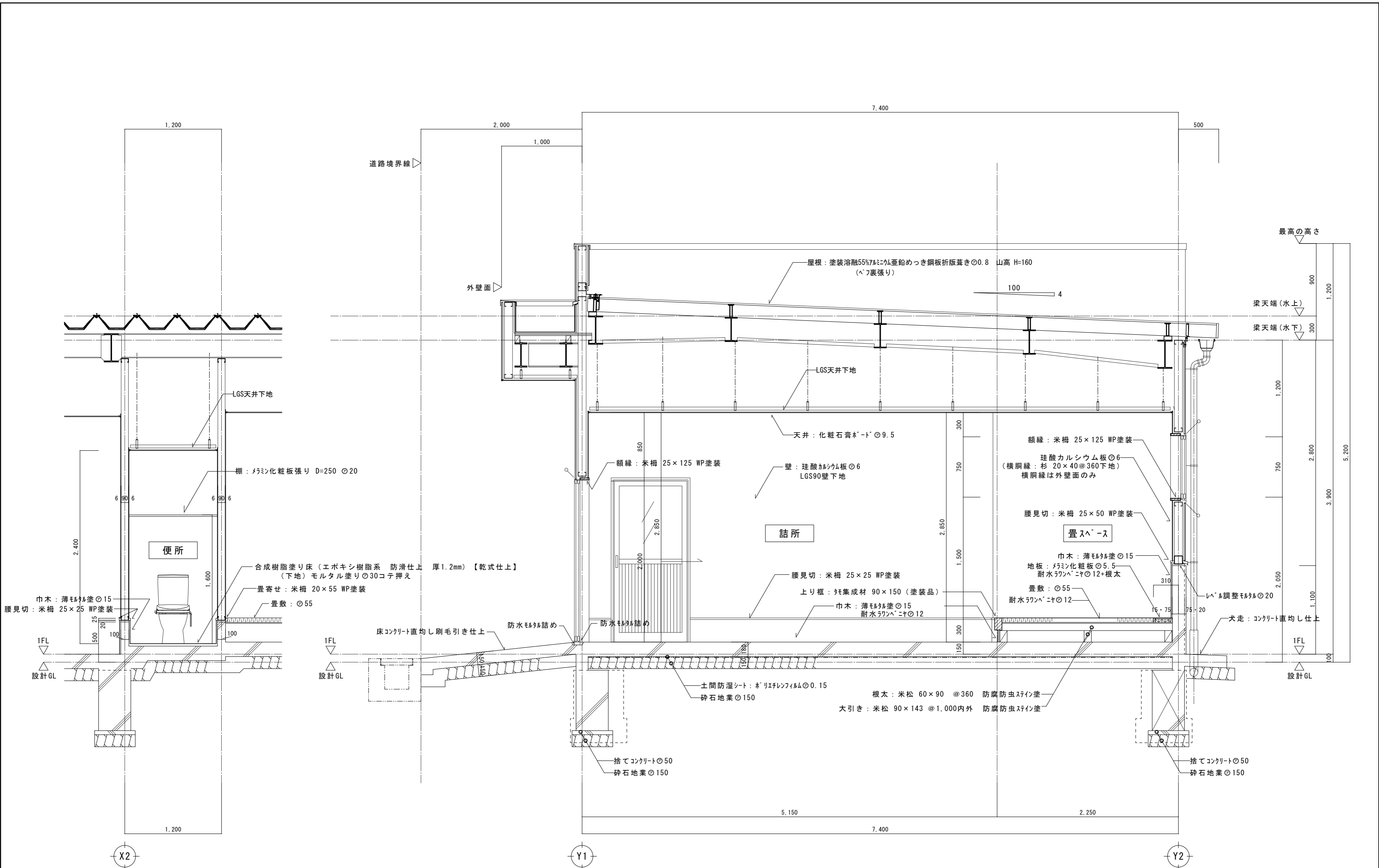
矩計図 - 1 1:30

 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所 管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月
	図名 矩計図 - 1	縮尺 A2: 1/30 A3: -	図面番号 A - 16




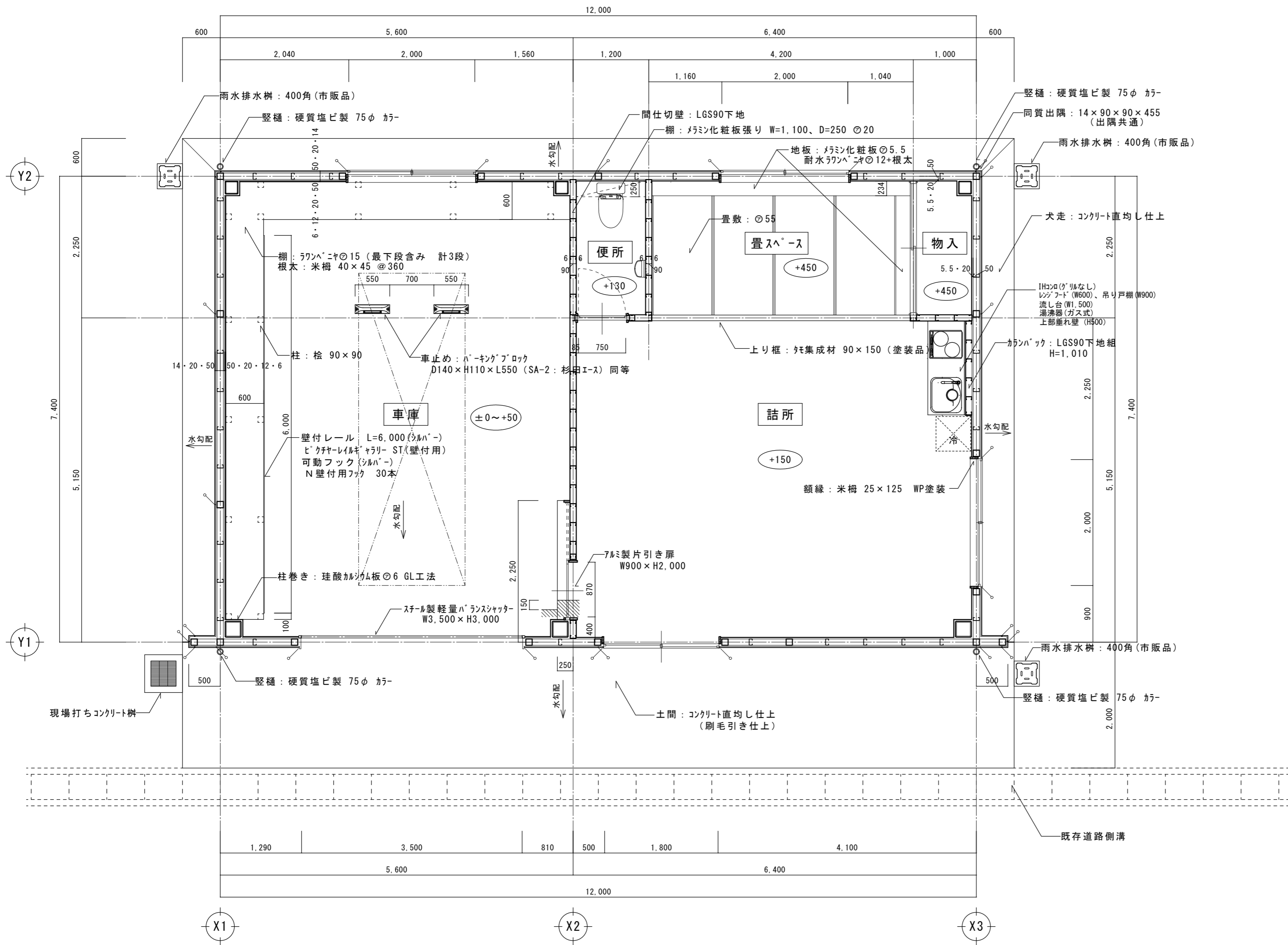
矩計図-2 1:30

 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所 <small>管理建築士 柴田 昌孝          1級建築士 登録第245376号</small>	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月
	図名 矩計図-2	縮尺 A2: 1/30 A3: -	図面番号 A-17



矩計図-3 1:30

 <b>株式会社東園設計</b> 一級建築士事務所 管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月
	図名 矩計図-3	縮尺 A2: 1/30 A3: -	図面番号 A-18



平面詳細図 1:50

車庫	
床	コンクリート直均し仕上げ
巾木	薄め珪酸塗り⑩15
腰壁	-
壁	珪酸カルシウム板⑥ 耐水ラワンベニヤ⑩12下地 (仕上表に示す部分のみ)
天井	化粧石膏ボード⑨.5 LGS天井下地組 塩ビ製廻り縁
備考	棚 (D600×2段)、車止め (2か所) 消火器 (ABC粉末A3単位) ×1台 7&M製シャワーヘッド×7&M製フック金物 30個 7&M製ドアカギハンドル

便所	
床	珪酸樹脂系珪酸床 (防滑仕上 厚1.2mm) 珪酸塗り
巾木	薄め珪酸塗り⑩15
腰壁	-
壁	珪酸カルシウム板⑥
天井	化粧石膏ボード⑨.5 LGS天井下地組 塩ビ製廻り縁
備考	棚: マリニ化粧板張り⑩20 W1,100×D250

詰所	
床	コンクリート直均し仕上げ
巾木	薄め珪酸塗り⑩15
腰壁	-
壁	珪酸カルシウム板⑥
天井	化粧石膏ボード⑨.5 LGS天井下地組 塩ビ製廻り縁
備考	流し台 (W1,500) レンジフード (W600)、吊戸棚 (W900) 湯沸器 (ガス式) 上部垂れ壁 (H900) 7&M製シャワーヘッド (ケリなし) 7&M製ドアカギハンドル 上部垂れ壁: LGS90下地 珪酸カルシウム板⑥ カギロック: LGS90下地 珪酸カルシウム板⑥ EP-G塗装 塩ビ製廻り縁

詰所 (畳スペース)	
床	畳敷: ⑩55 下地板: 耐水ラワンベニヤ⑩12 木軸床組
巾木	畳寄せ
腰壁	-
壁	珪酸カルシウム板⑥
天井	化粧石膏ボード⑨.5 LGS天井下地組 塩ビ製廻り縁
備考	上り框: 60×90 (市販品) 7&M製ドアカギハンドル

詰所物入	
床	耐水ラワンベニヤ⑩12 木軸床組
巾木	雑巾摺
腰壁	-
壁	シナベニヤ⑩5.5
天井	シナベニヤ⑩4 LGS天井下地組 木製廻り縁: 杉 40×40
備考	中棚



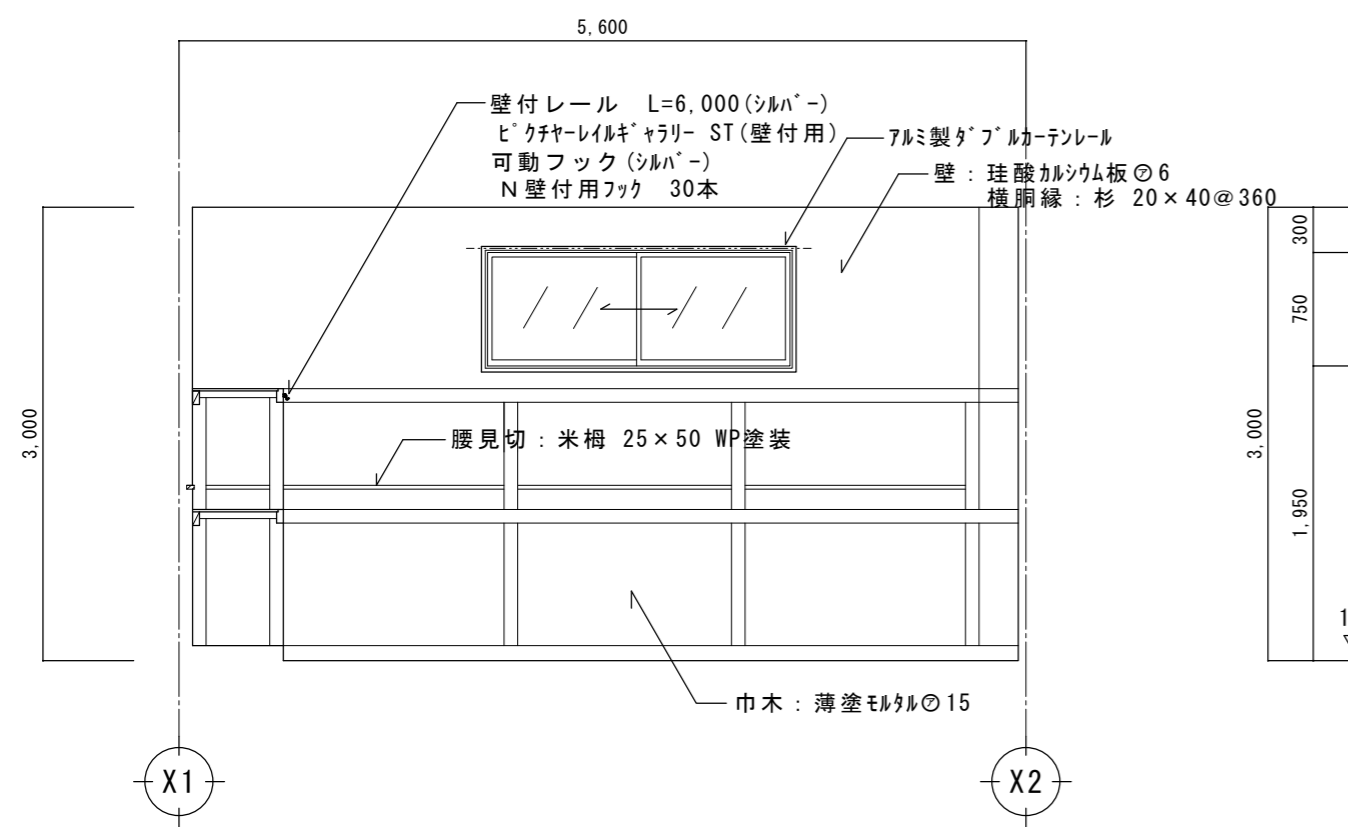
株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

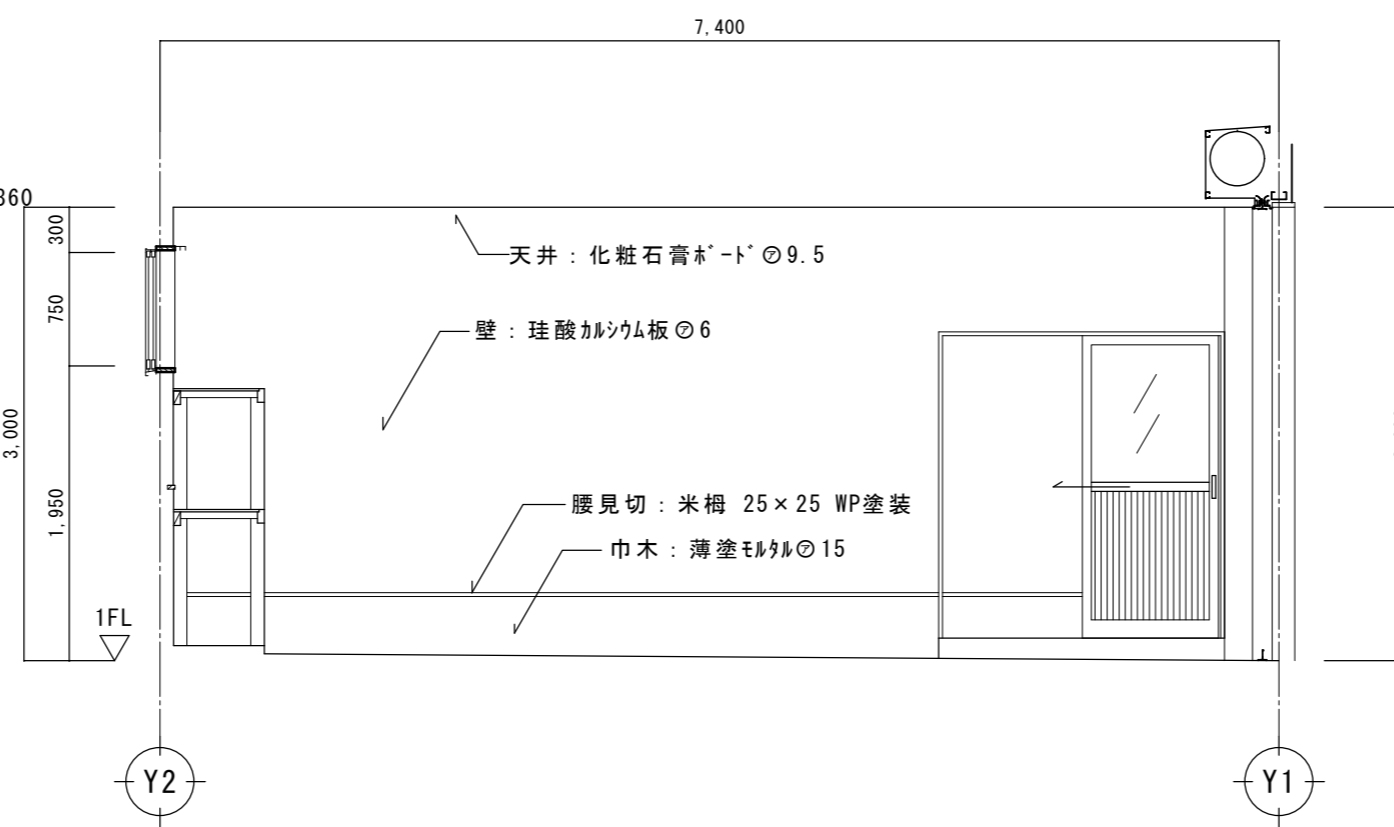
工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
図名 平面詳細図

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号  
縮尺 A2: 1/50  
A3: -

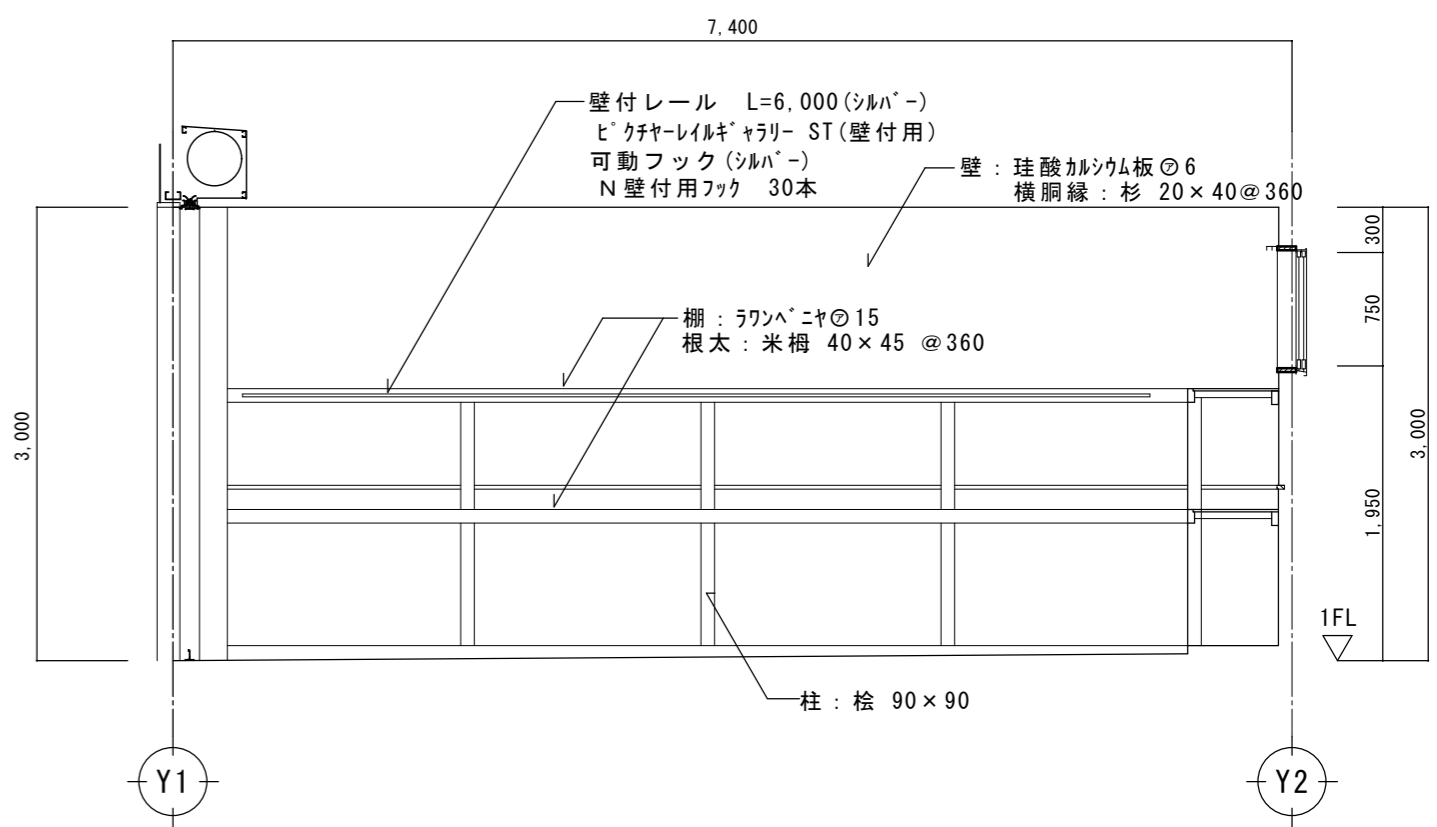
設計年月 令和8年2月  
図面番号 A-19



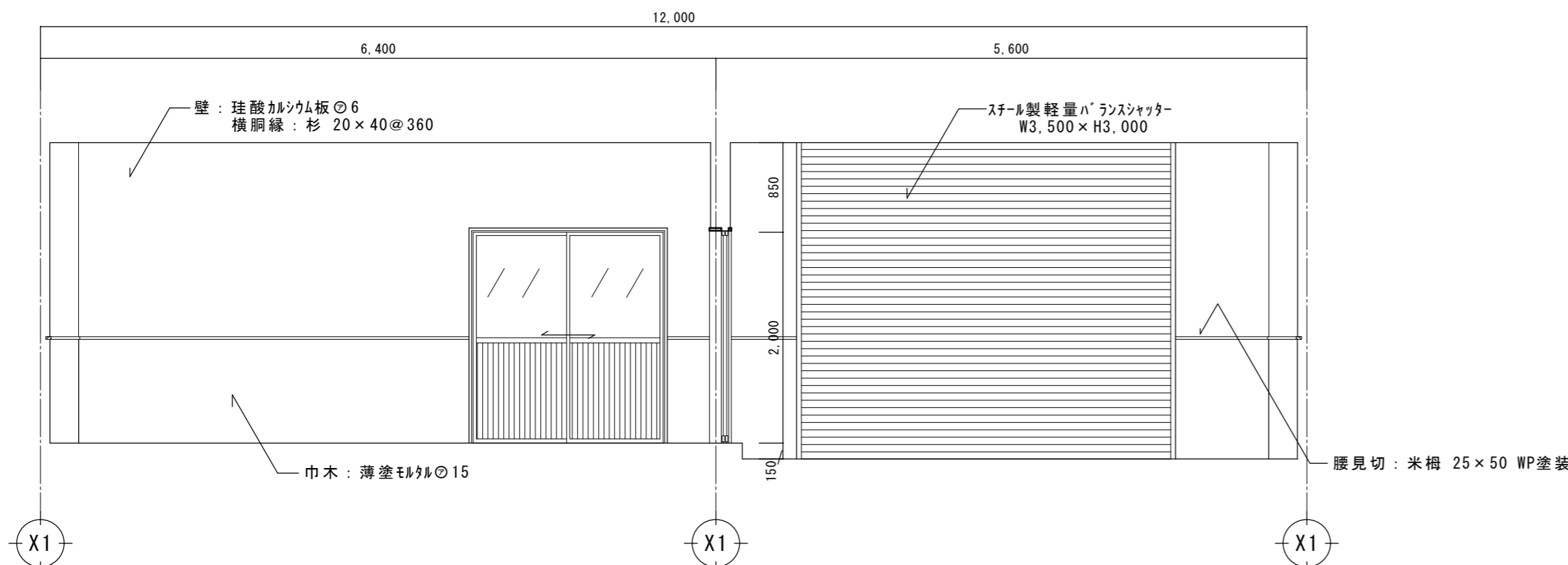
車庫 - A



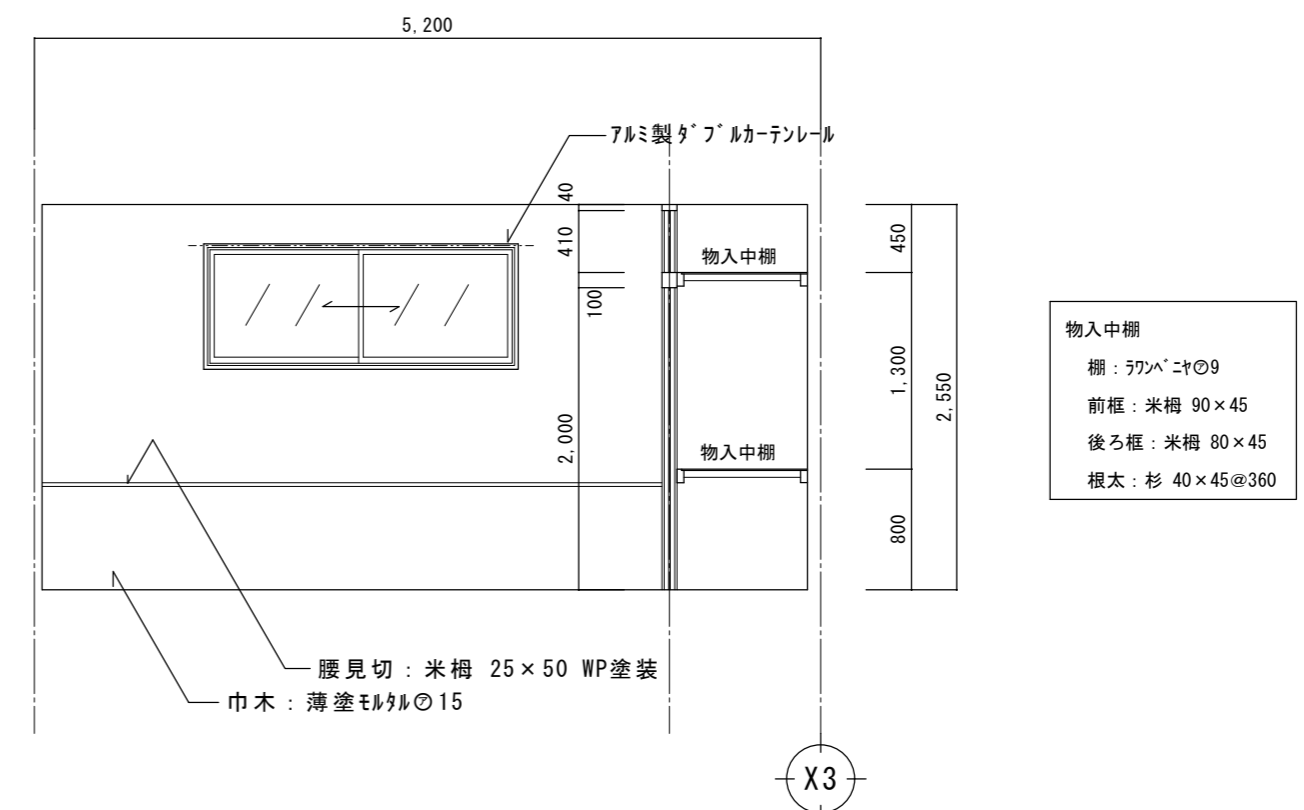
車庫 - B



車庫 - D

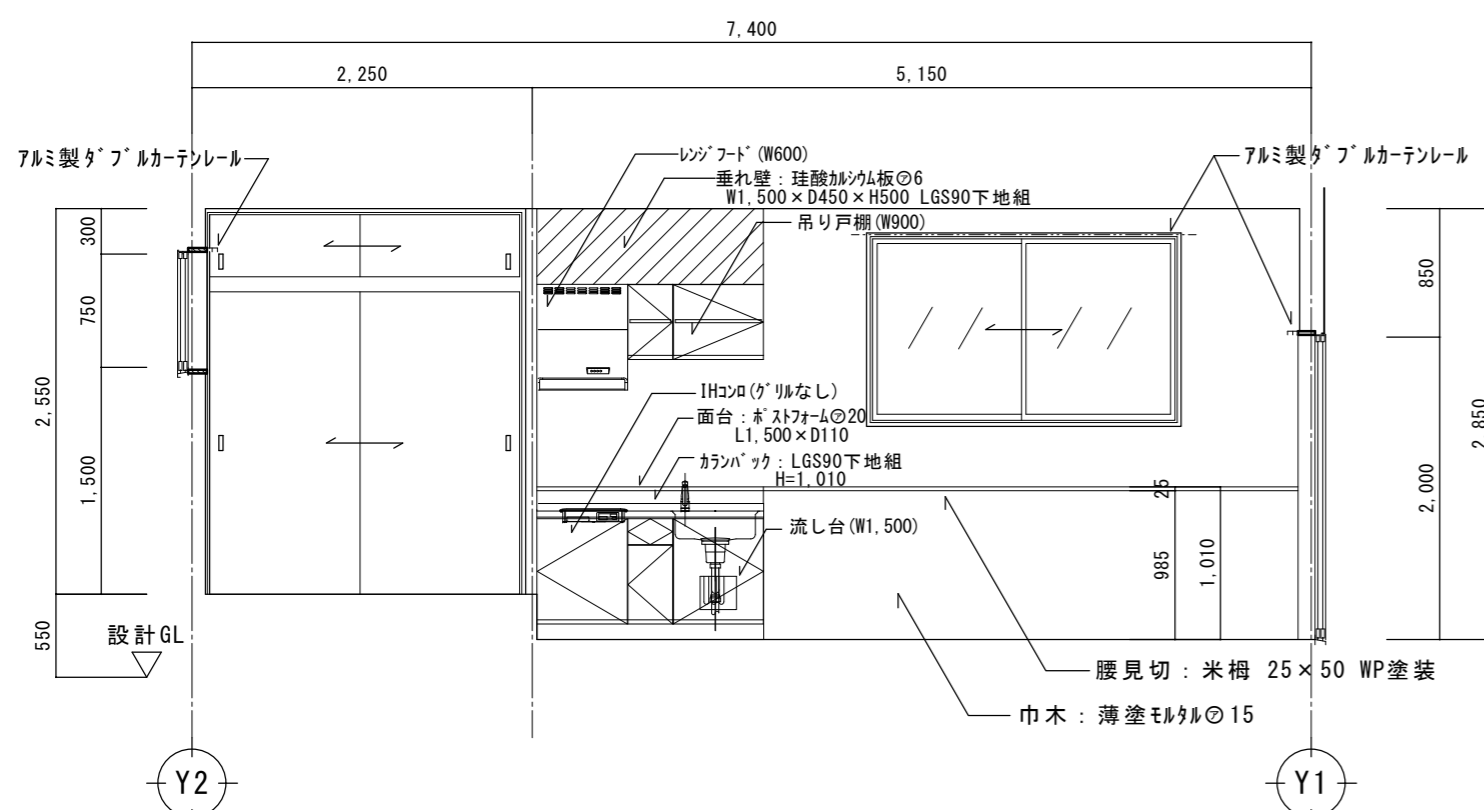


車庫・詰所 - C

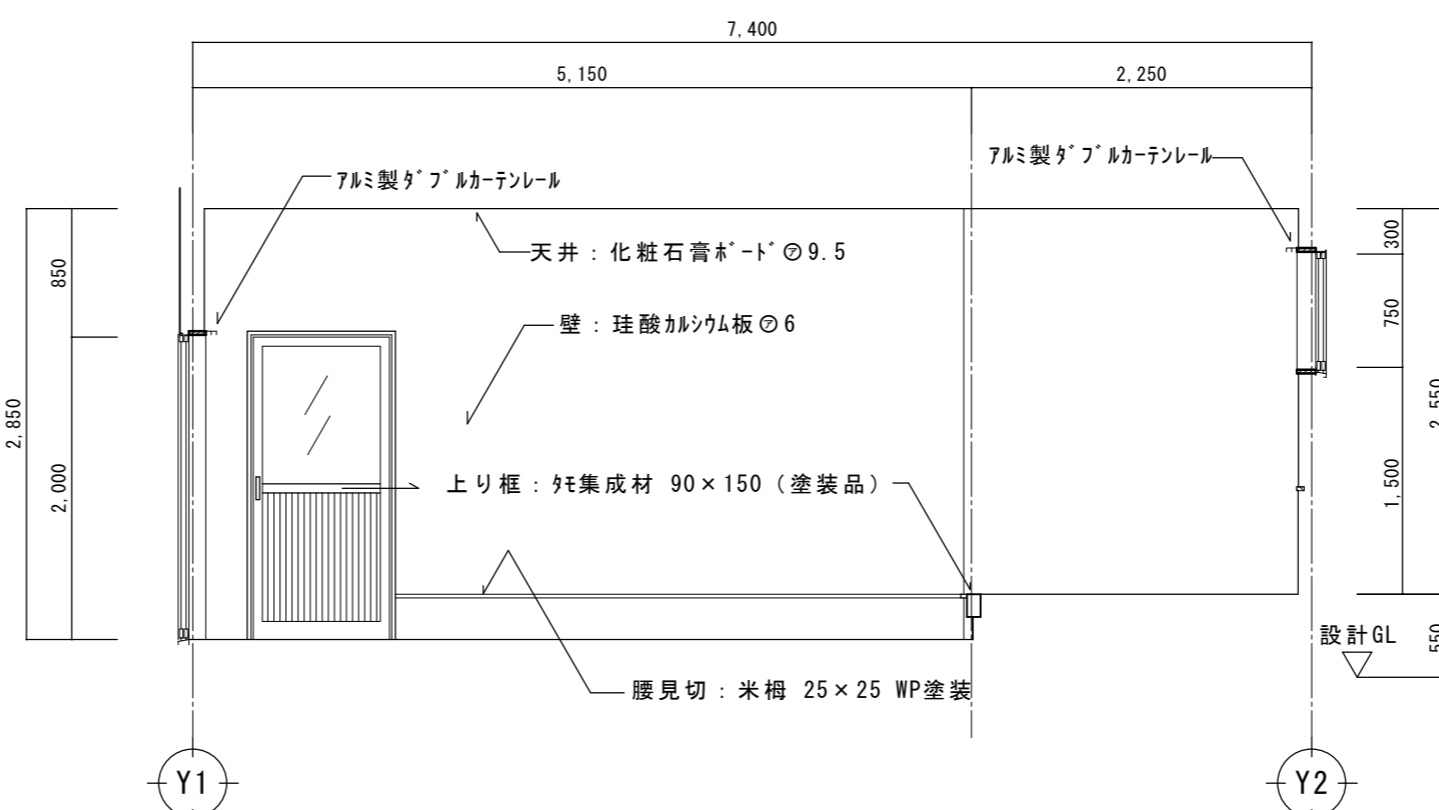


詰所畳スペース - A

物入中棚  
 棚: 57x110x9  
 前框: 米柵 90x45  
 後ろ框: 米柵 80x45  
 根太: 杉 40x45@360



詰所畳スペース - B



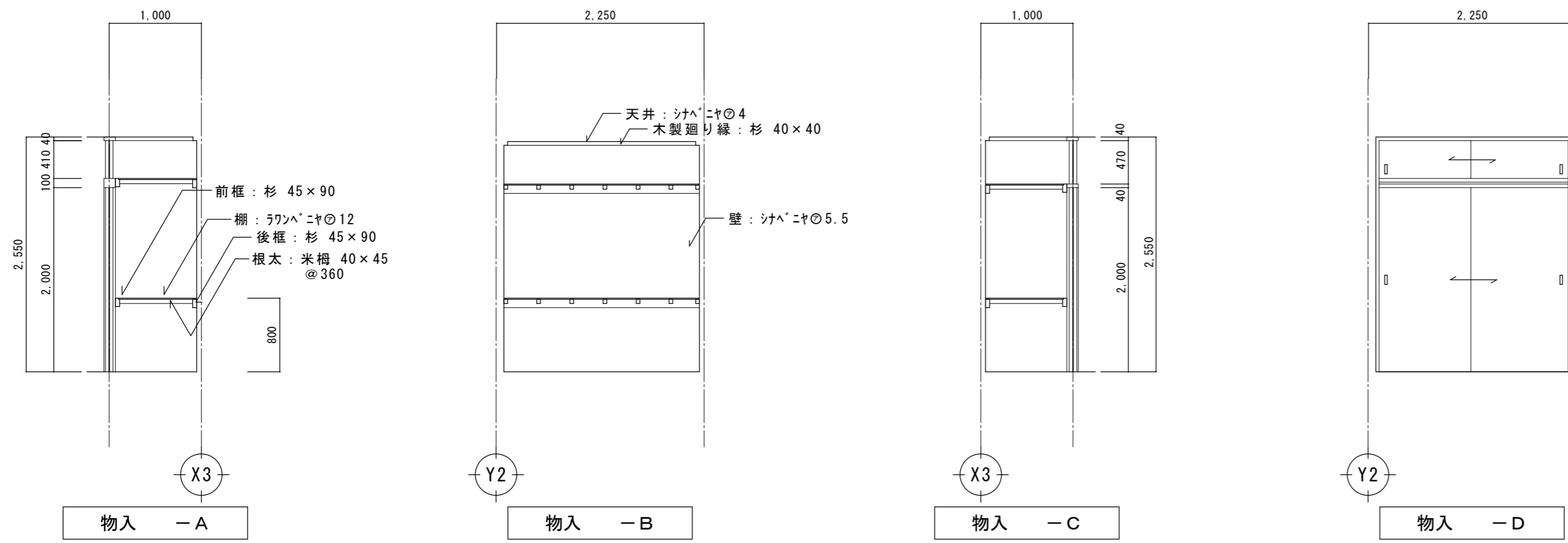
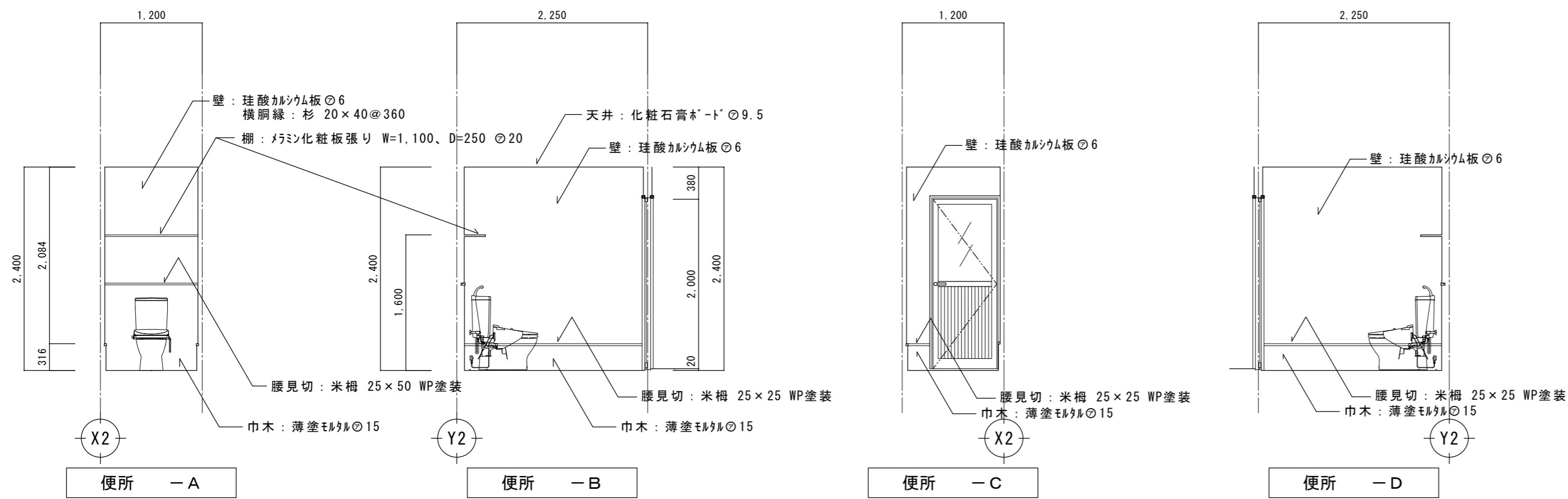
詰所畳スペース - D




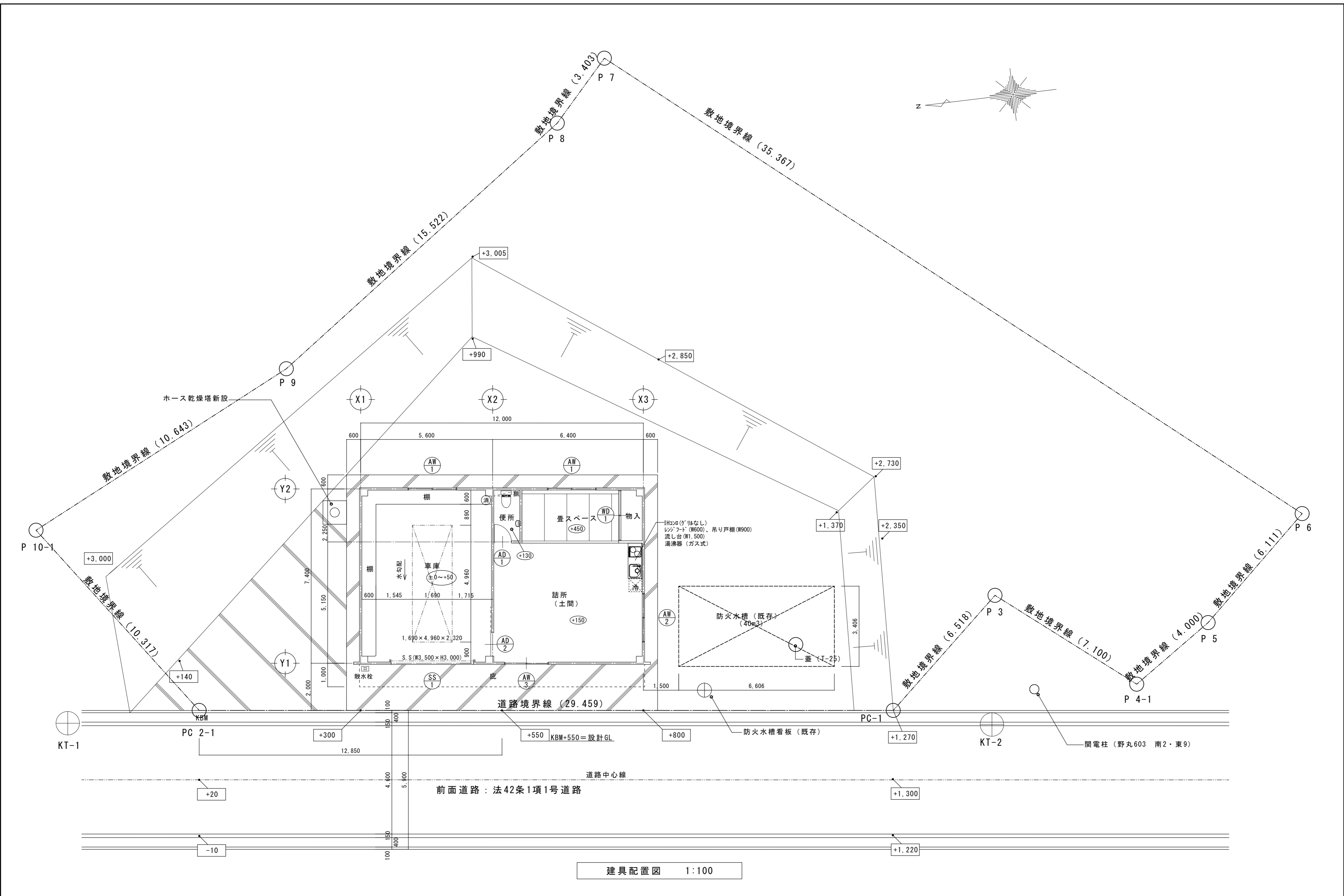
株式会社東亜設計  
 一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
 1級建築士 登録第245376号


工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
図名	展開図-1	縮尺	A2: 1/50 A3: -	図面番号	A-20



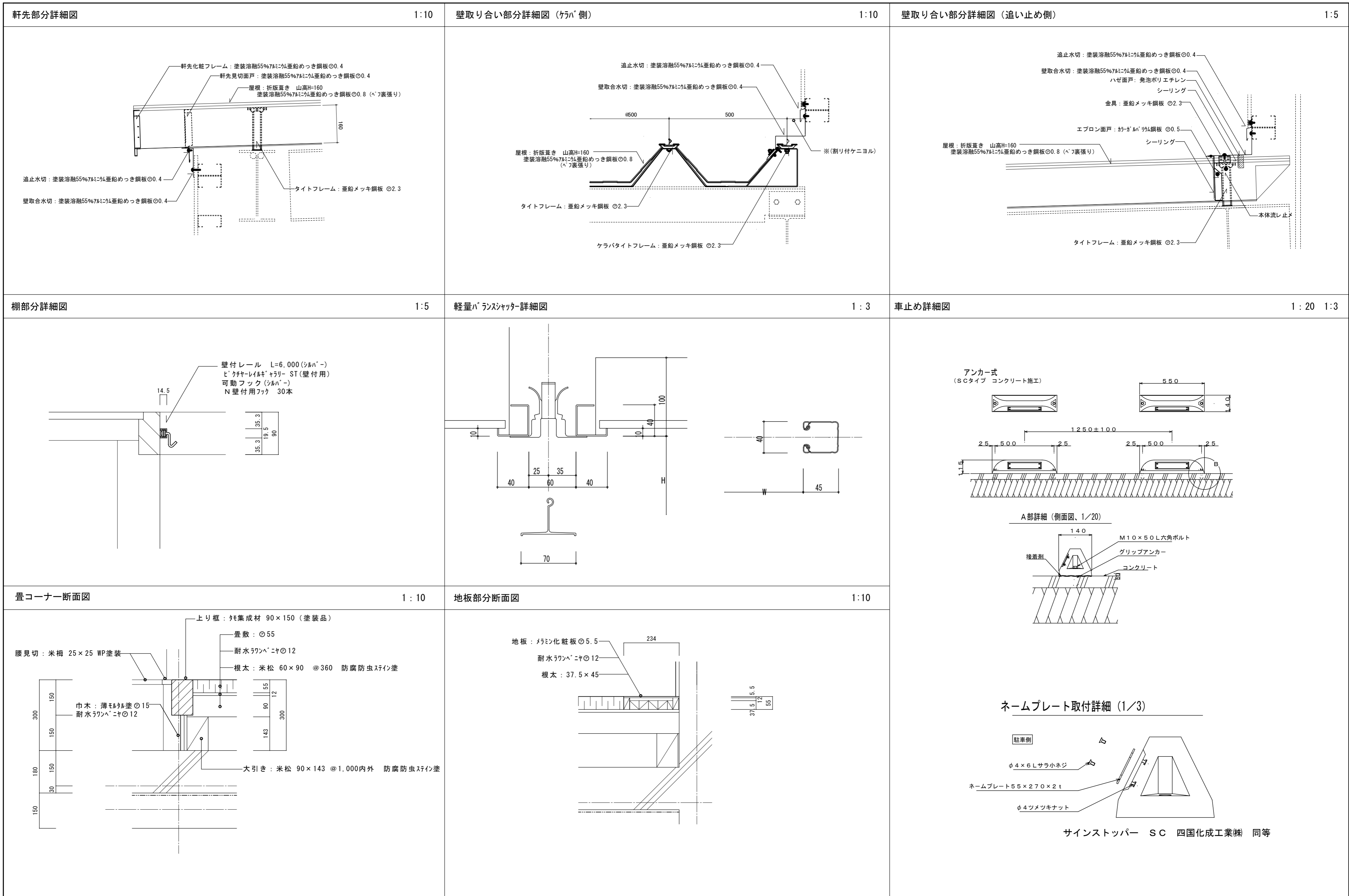
	 <b>株式会社東亜設計</b> <b>一級建築士事務所</b>	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
			図名	展開図-2	縮尺	A2: 1/50 A3: -	図面番号	A-21




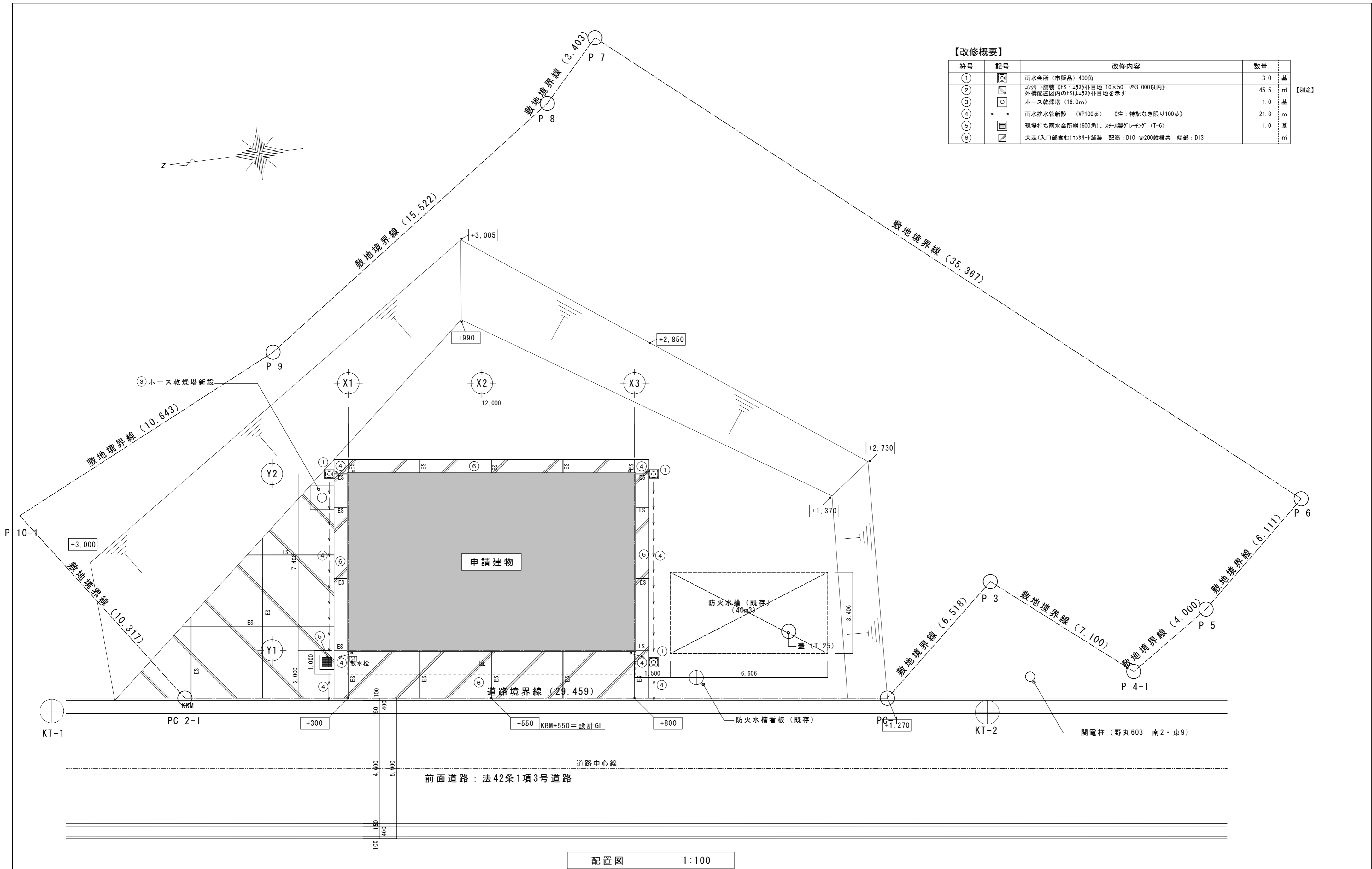
建具配置図 1:100

	 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月 図面番号 A-22
			図名 建具配置図	縮尺 A2: 1/100 A3: -	

符号・名称	AW-1: アルミ製引違い窓		AW-2: アルミ製引違い窓		AW-3: アルミ製引違い扉			
形状及び寸法								
取付位置	1階車庫・詰所畳スペース		1階詰所		1階詰所			
数量	見込	1	70	1	70	1	70	
仕上	硝子	アルミ カラー	型板硝子φ4.0	アルミ カラー	型板硝子φ4.0	アルミ カラー	型板硝子φ4.0	
建具金物	アングルヒール、クレセント、ステンレス鋼 (SUS316) 網戸		アングルヒール、クレセント、ステンレス鋼 (SUS316) 網戸		ステンレスレール、ステンレス鋼 (SUS316) 網戸、引違い戸錠			
その他	汎用サッシ、アルミ製カーテンレール(ﾀﾞﾌﾞﾙ)		汎用サッシ、アルミ製カーテンレール(ﾀﾞﾌﾞﾙ)		汎用サッシ、アルミ製カーテンレール(ﾀﾞﾌﾞﾙ)			
符号・名称	AD-1: アルミ製片開き扉		AD-2: アルミ製片引き扉				SS-1 スチール製軽量バランスシャッター	
形状及び寸法								
取付位置	1階便所		1階車庫-詰所				車庫	
数量	見込	1	70	1	70	1	100	
仕上	硝子	アルミ カラー	型板硝子φ4.0	アルミ カラー	型板硝子φ4.0	ｶﾞﾗ-鋼板 焼付塗装 0.6mm	-	
建具金物	アングルヒール、ステンレス沓摺、レバーハンドル錠、丁番ドアクローザー		アングルヒール、ステンレスレール、ステンレス取手、引き戸錠		ｶﾞｲﾄﾞレール: スチール t=1.5 焼付塗装、ｽﾃｰﾙ製三方枠 焼付塗装		【文字: ｶｯﾃｲﾝｸﾞｼｰﾄ 200角 7文字、150角 11文字】	
その他	汎用サッシ		汎用サッシ					
符号・名称	WD-1: 木製引違い扉							
形状及び寸法								
取付位置	1階物入							
数量	見込	1	30					
仕上	硝子	ｸﾞﾗｽﾞｲﾝﾌﾞﾙｰﾄﾞ	-					
建具金物	V型ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾚｰﾙ、ｽﾃﾝﾚｽ引手、戸車 三方枠: ｽﾌﾟﾗｽ 130x40 WP塗装							
その他								



	 <b>株式会社東亜設計</b> <b>一級建築士事務所</b> 管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
		図名	部分詳細図-1	縮尺	A2: 1/20 1/10 1/5 1/3 A3: -	図面番号	A-24



【改修概要】

符号	記号	改修内容	数量	
①	☒	雨水会所 (市販品) 400角	3.0	基
②	▨	コンクリート舗装 (ES: 巧対巧目地 10×50 @3,000以内) 外構配置図内のESは巧対巧目地を示す	45.5	m <sup>2</sup>
③	○	ホース乾燥塔 (16.0m)	1.0	基
④	←	雨水排水管新設 (VP100φ) 《注: 特記なき限り100φ》	21.8	m
⑤	■	現場打ち雨水会所構 (600角)、スチール製ゲレング (T-6)	1.0	基
⑥	▨	犬走 (入口部含む) コンクリート舗装 配筋: D10 @200縦横共 端部: D13		m

【別途】



株式会社 東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称  
図名

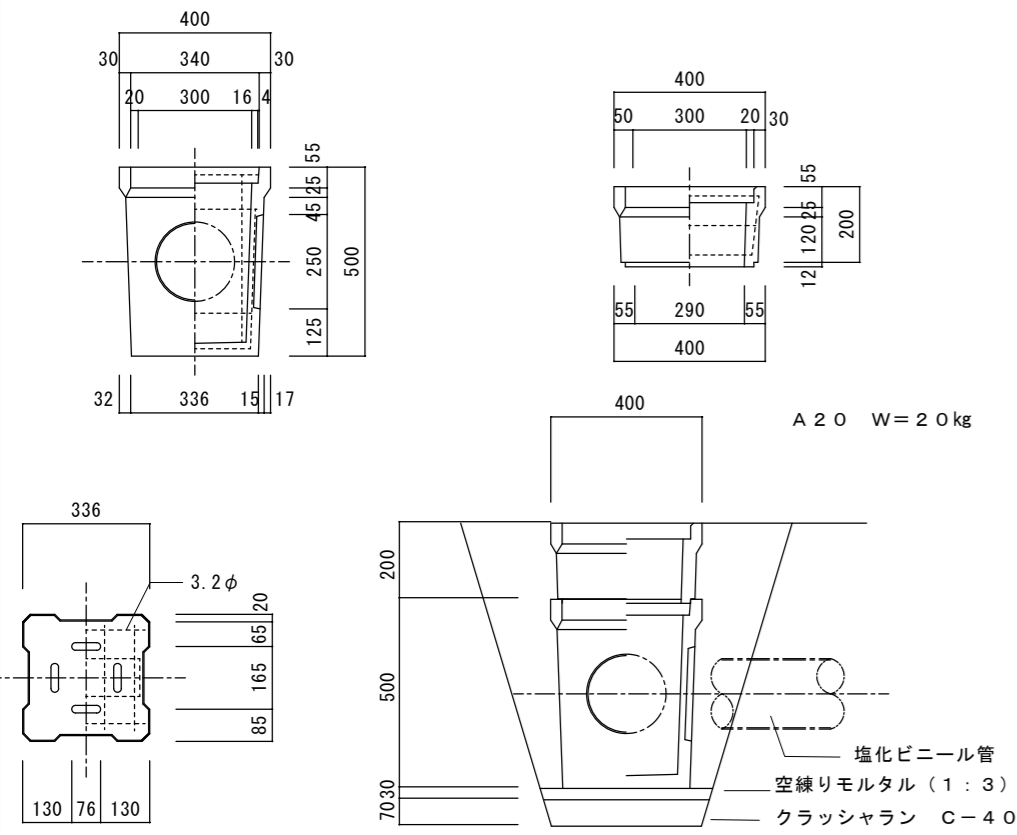
令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
外構配置図

設計  
縮尺

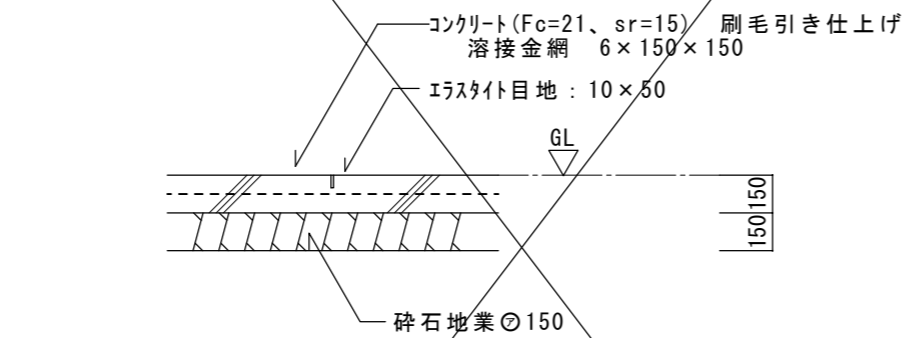
柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号  
A2: 1/100  
A3: -

設計年月  
図面番号  
令和8年2月  
A-25

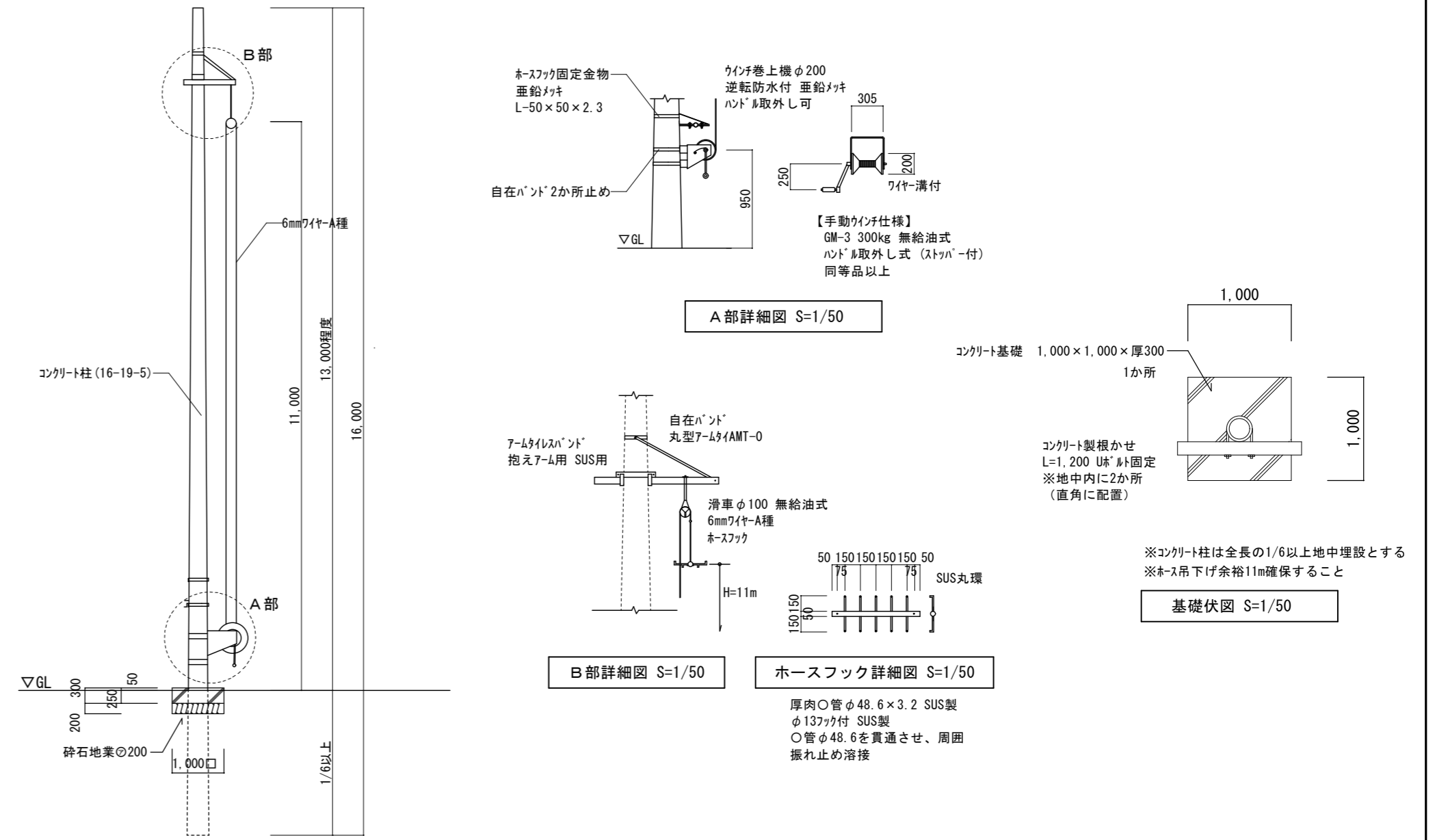
①雨水排水樹 (市販品) 詳細図 (3か所) 1:20



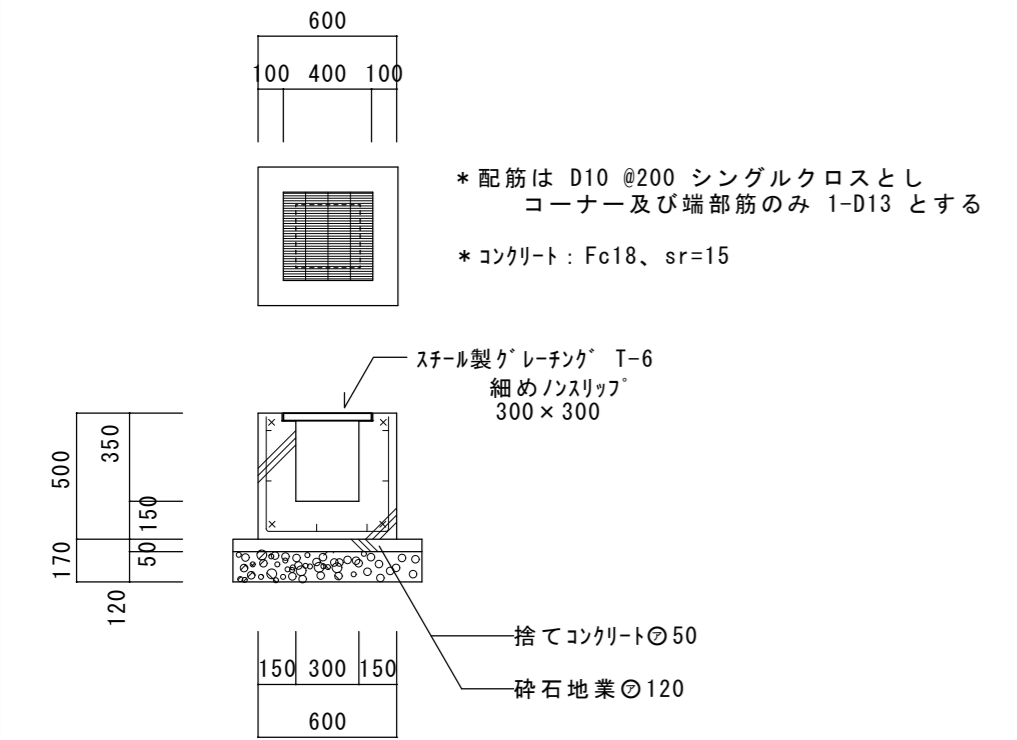
②コンクリート舗装断面図【別途】 1:30



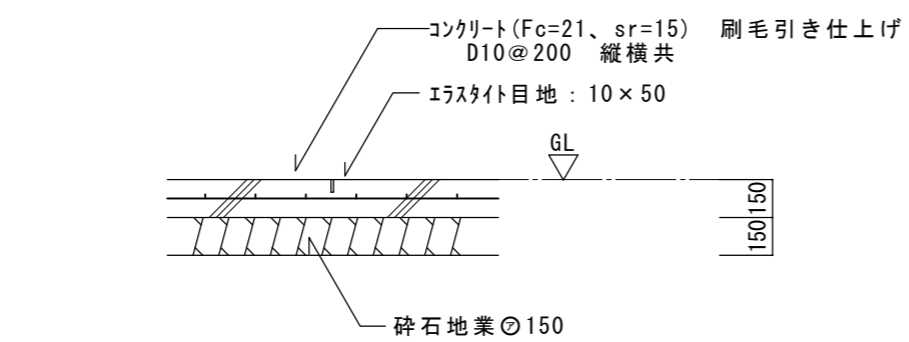
③ホース乾燥柱詳細図 1:100 1:50



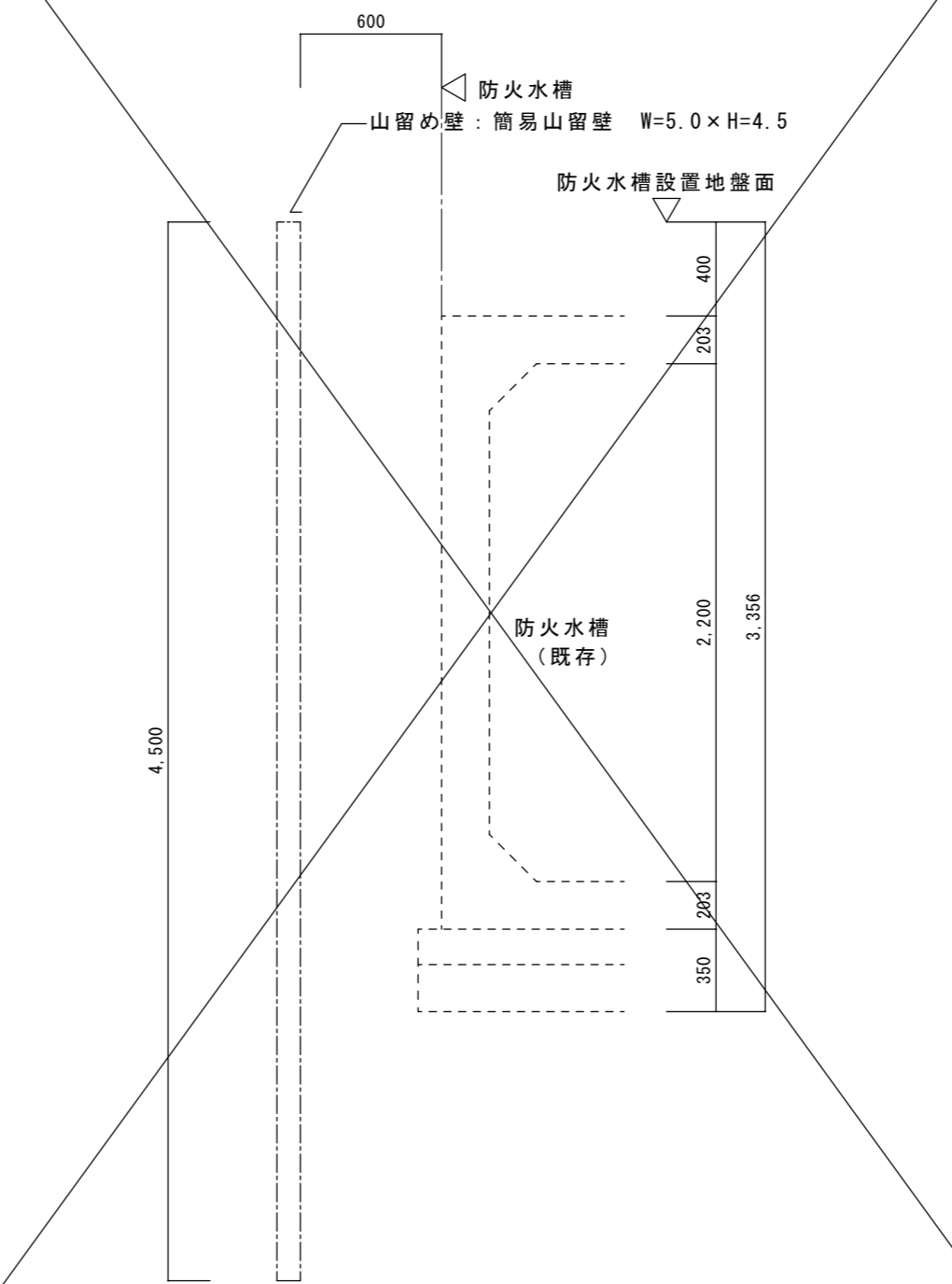
⑤現場打ち雨水会所樹 断面図 1:30



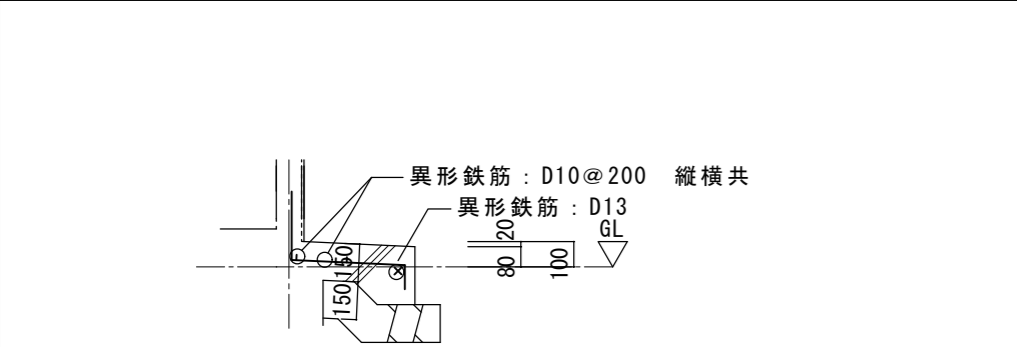
⑥犬走 (入口部分含む) コンクリート舗装断面図 1:30



⑦簡易山留壁 断面図 1:30



⑥犬走り 断面図 1:30



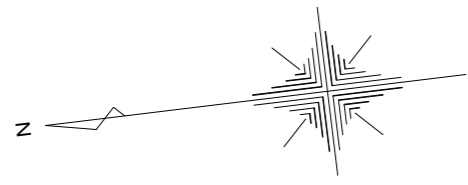
株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
図名 外構詳細図

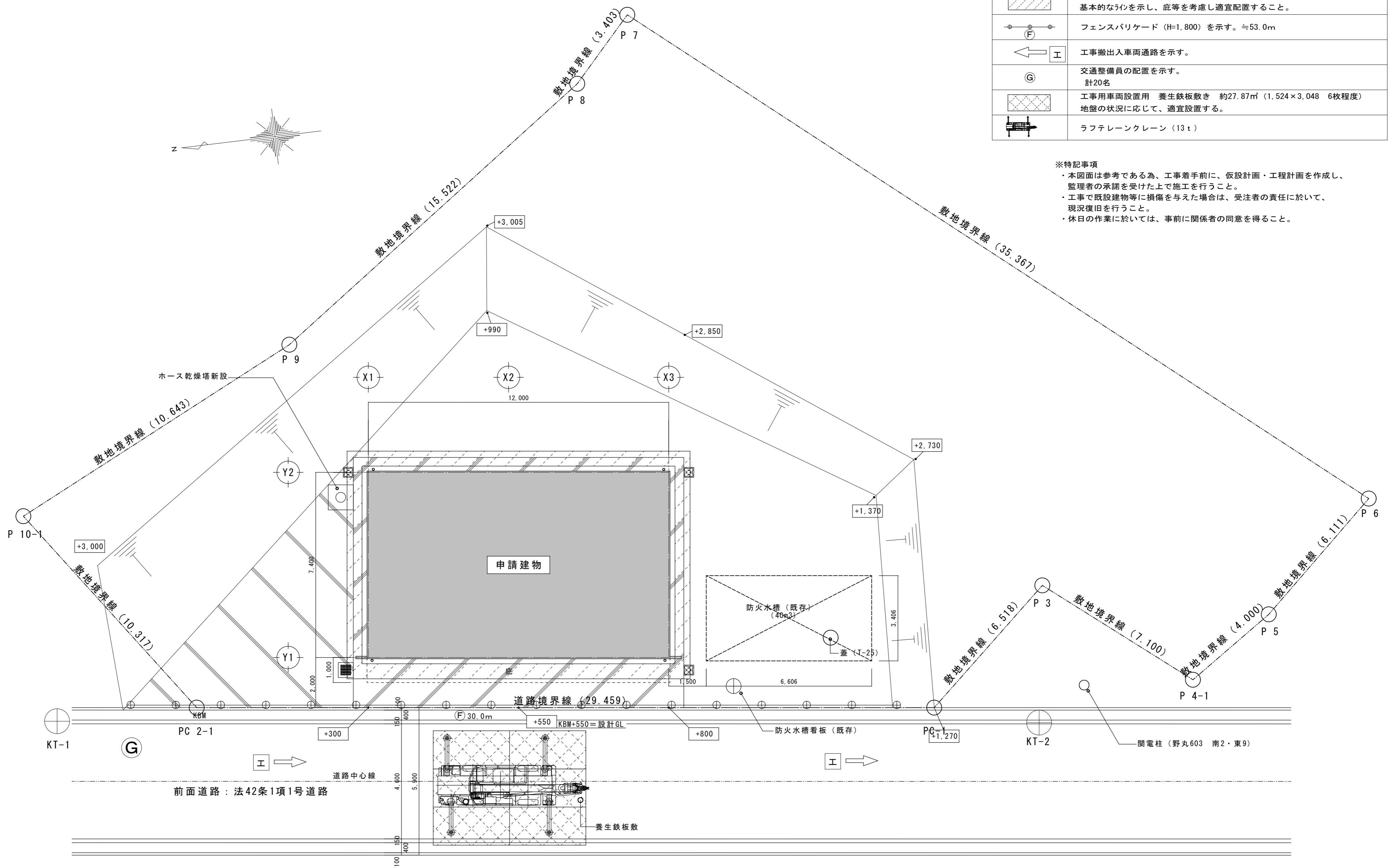
設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号  
縮尺 A2: 1/100 1/50 1/30 1/20  
A3: -

設計年月 令和8年2月  
図面番号 A-26



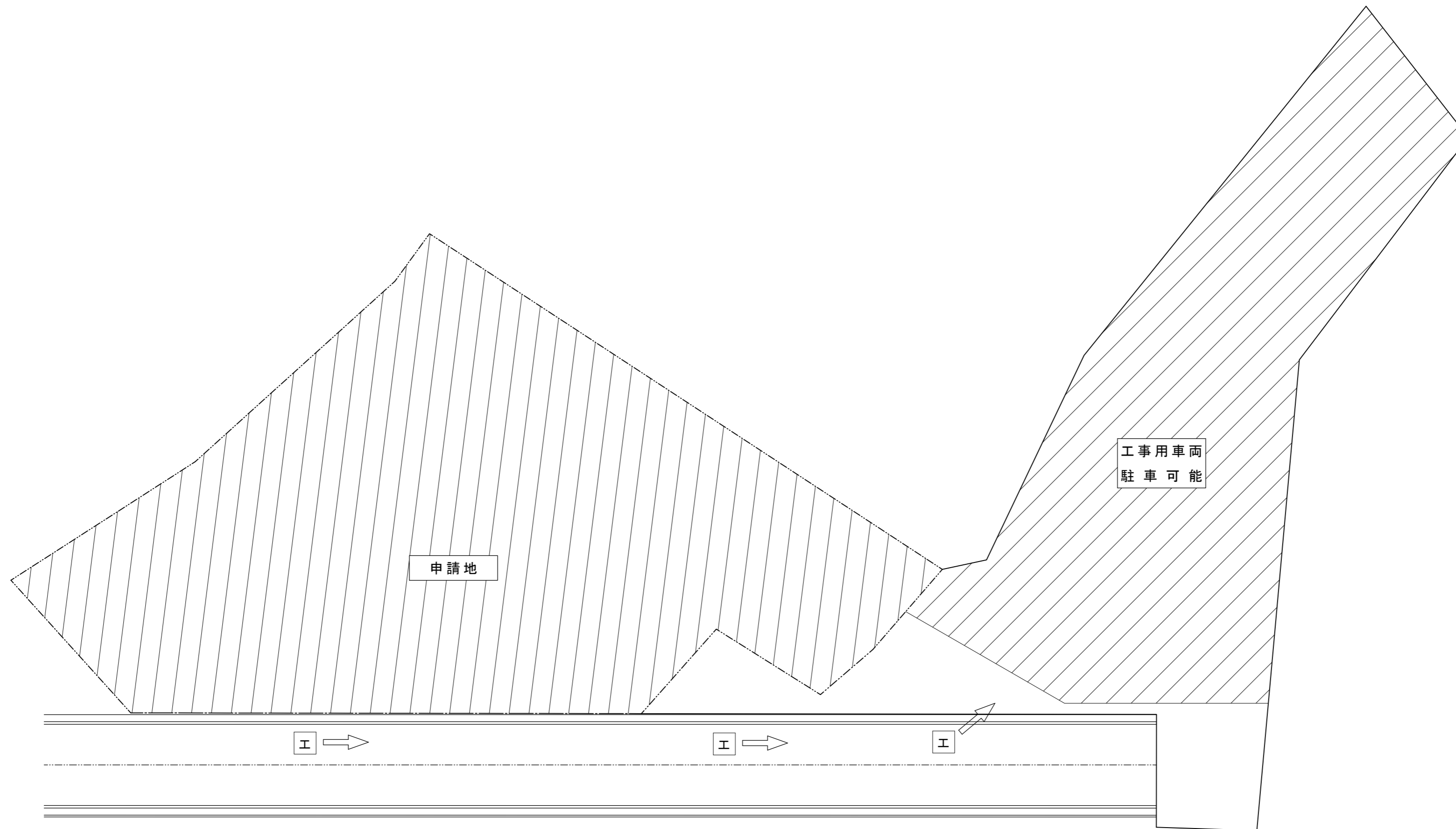
凡 例	
	くさび緊結式足場：《W600 養生シート張り》を示す。 基本的なライヴを示し、此等を考慮し適宜配置すること。
	フェンスバリアード (H=1,800) を示す。≒53.0m
	工事搬出入車両通路を示す。
	交通整備員の配置を示す。 計20名
	工事車両設置用 養生鉄板敷き 約27.87㎡ (1,524×3,048 6枚程度) 地盤の状況に応じて、適宜設置する。
	ラフテレーンクレーン (13t)

- ※特記事項
- ・本図面は参考である為、工事着手前に、仮設計画・工程計画を作成し、監理者の承諾を受けた上で施工を行うこと。
  - ・工事で既設建物等に損傷を与えた場合は、受注者の責任に於いて、現況復旧を行うこと。
  - ・休日の作業に於いては、事前に関係者の同意を得ること。




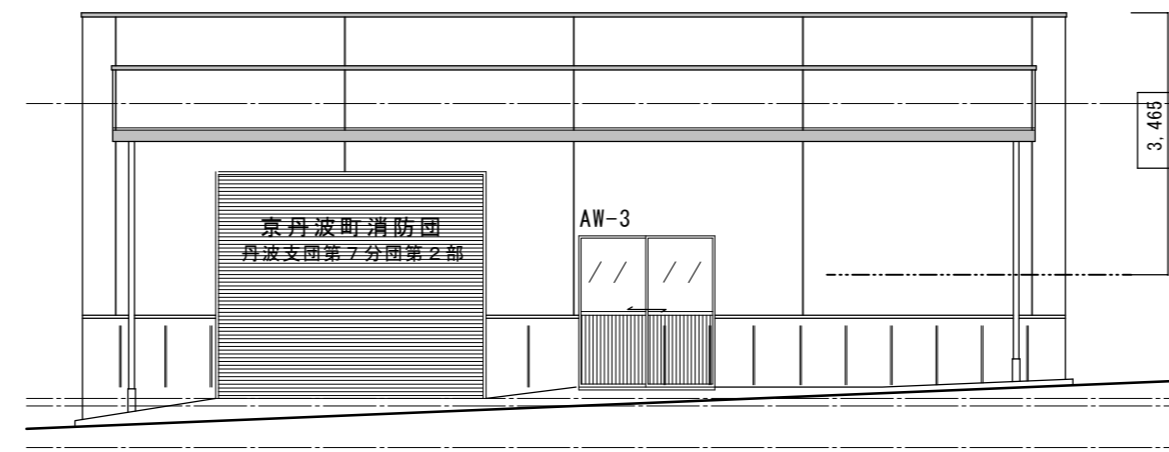
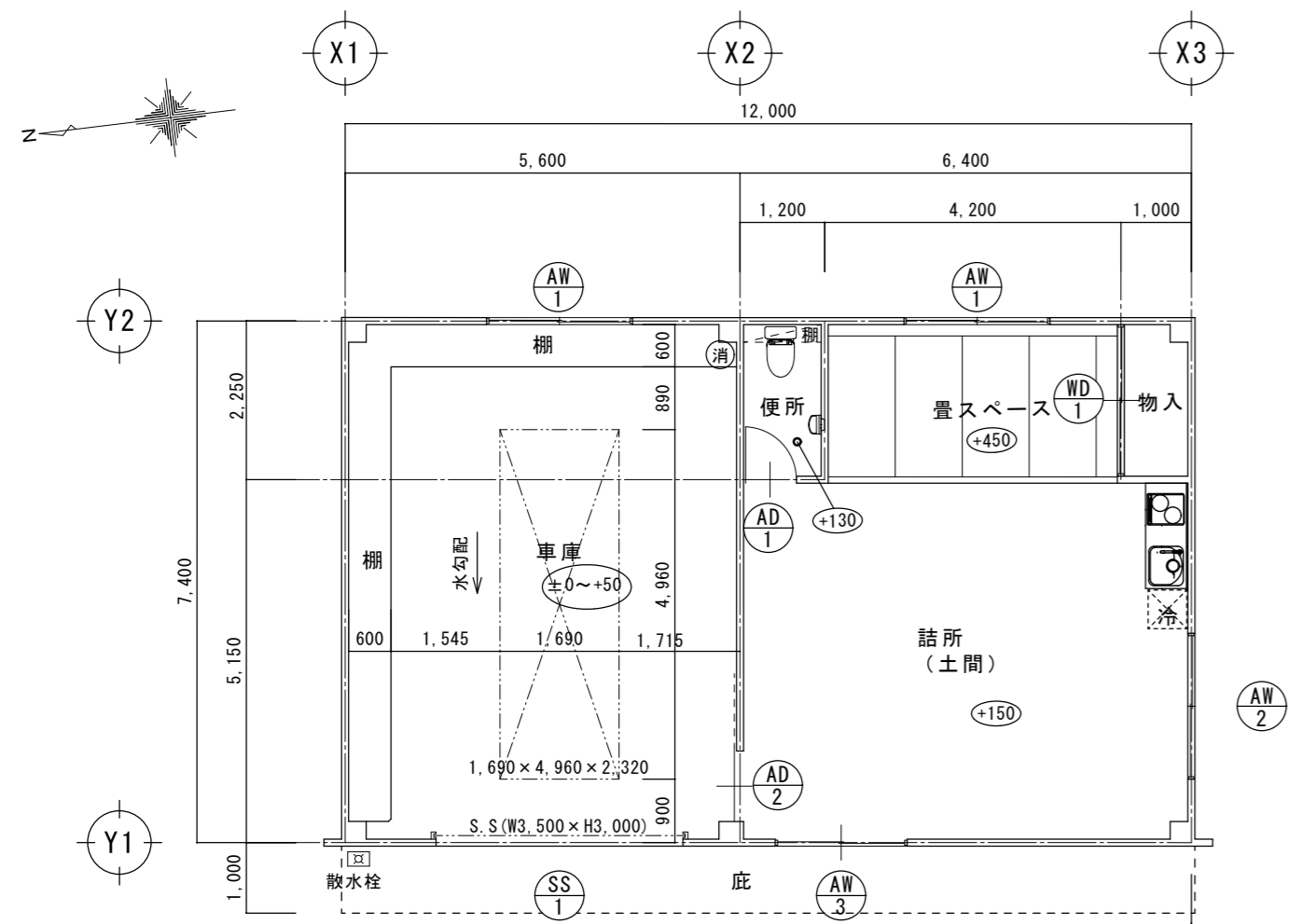
仮設計画図 - 1 (参考) 1:100

<b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所 管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月
	図名 仮設計画図 - 1 (参考)	縮尺 A2 : 1/100 A3 : -	図面番号 A - 27

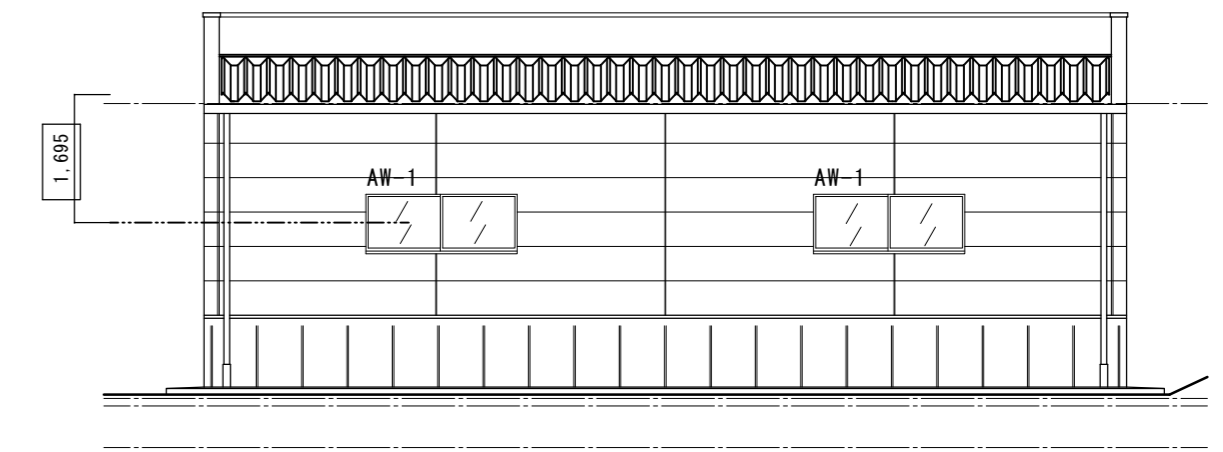


仮設計画図-2(参考) 1:200

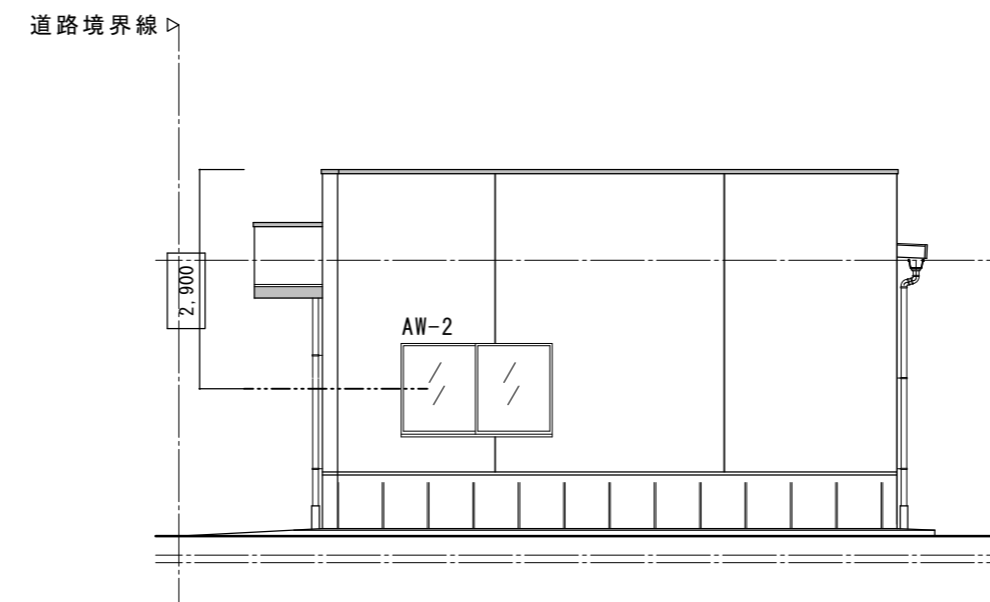
	 <b>株式会社東亜設計</b> <b>一級建築士事務所</b>	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
			図名	仮設計画図-2(参考)	縮尺	A2: 1/200 A3: -	図面番号	A-28



西立面図 1:100



東立面図 1:100



南立面図 1:100

■採光算定表 (L)

室名	方面	建具符号	採光補正係数 【無指定区域】(d/h×10-1)	有効採光面積	計	室面積	必要採光面積	判定
詰所(畳スペース含む)	東面	AW-1	(17.45/1.695×10)-1=101.95-3.0	(2.0×0.75)×1箇所=1.50 × 3.0 = 4.50	16.02	6.4×5.15+4.2×2.25=42.41	42.41/10	4.24
	南面	AW-2	(14.10/2.9×10)-1=47.62-3.0	(2.0×1.2)×1箇所=2.40 × 3.0 = 7.20				
	西面	AW-3	(4.95/3.465×10)-1=13.28-3.0	(1.6×0.9)×1箇所=1.44 × 3.0 = 4.32				

詰所(畳スペース含む)			
	計画値	基準値	判定
A	42.41	-	-
L	16.02	4.24	○
V	3.55	2.12	○
S	0.955	0.85	○

■換気算定表 (V)

室名	方面	建具符号	有効換気面積	計	室面積	必要換気面積	判定
詰所(畳スペース含む)	東面	AW-1	(0.95×0.75)×1箇所=0.71	3.55	6.4×5.15+4.2×2.25=42.41	42.41/20	2.12
	南面	AW-2	(0.95×1.2)×1箇所=1.14				
	西面	AW-3	(0.85×2.0)×1箇所=1.70				

■排煙算定表 (S)

室名	方面	建具符号	有効排煙面積	計	室面積	必要排煙面積	判定
詰所(畳スペース含む)	東面	AW-1	(0.95×0.5)×1箇所=0.48	0.955	6.4×5.15+4.2×2.25=42.41	42.41/50	0.85
	南面	AW-2	(0.95×0.5)×1箇所=0.475				



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事

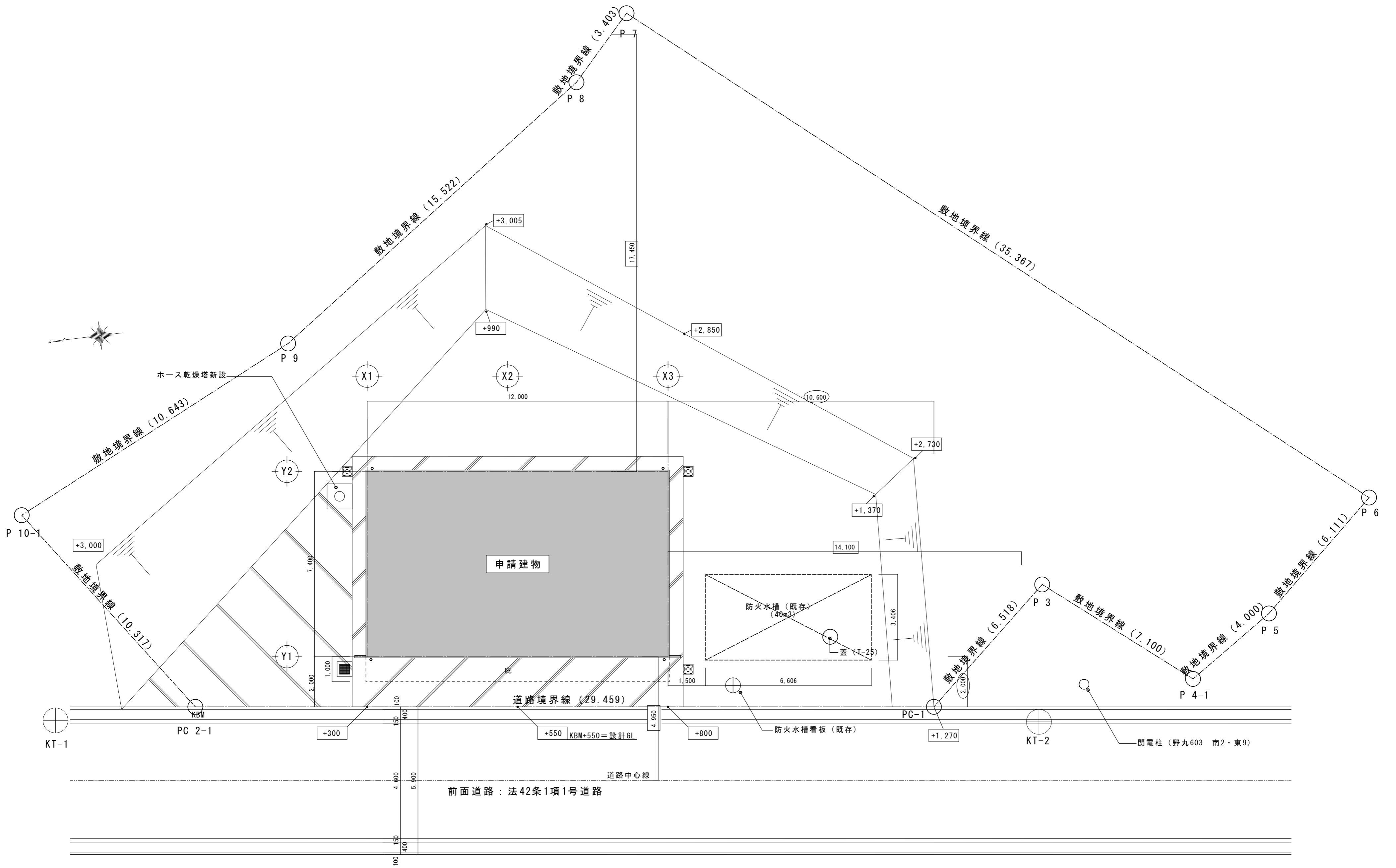
図名 ALVS計算表-1

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号


縮尺 A2: 1/100  
A3: -

設計年月 令和8年2月

図面番号 A-29



配置図 1:100

	 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月
			図名 ALVS計算表-2	縮尺 A2: 1/100 A3: -	図面番号 A-30





# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

## 1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。  
 (2) 記号  
 d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 (径)    D…部材の成、又は鉄筋内法直径  
 @…間隔    r…半径    C…中心線    ℓ<sub>o</sub>…部分間の内法距離    h<sub>o</sub>…部材間の内法高さ  
 S T…あばら筋    HOOP…帯筋    S. HOOP…補強帯筋

## 2. 鉄筋加工

### (1) 鉄筋の折り曲げ加工

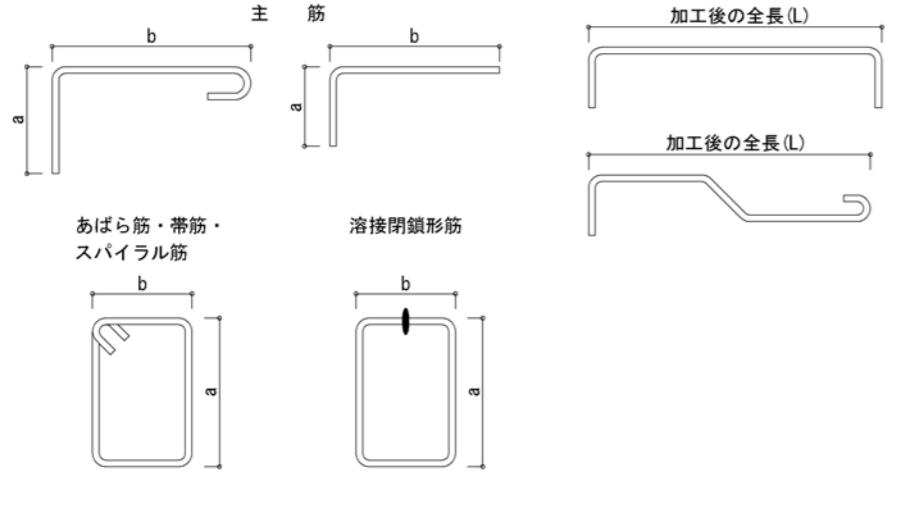
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
	135°			
	135°	SD390	D41以下	4d以上
	90°			
	90°	SD490	D25以下	5d以上
	90°			
			D29~D41	6d以上

[注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。  
 (2) スパイラル筋の重ね継手部に90° フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。  
 (3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。  
 (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。  
 (5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監督者の承認を得る。  
 (6) SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監督者の承認を得る。

### (2) 加工寸法の許容差

各加工寸法 <sup>(1)</sup>	目	符号	許容差	
			(mm)	
主筋	D25以下	a, b	±	15
	D29以上D41以下	a, b	±	20
あばら筋・帯筋・スパイラル筋	加工後の全長	a, b	±	5
		L	±	20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



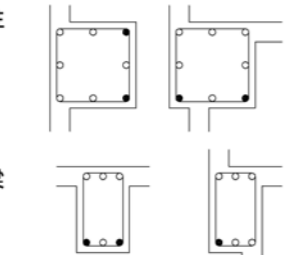
### (3) 鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。

### (4) 鉄筋のフック

a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。  
 a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋  
 b. 煙突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)  
 c. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出すみ部分  
 および下端の両端にある場合の鉄筋 (右図参照)  
 d. 単純梁の下端筋  
 e. その他、本配筋標準に記載する箇所

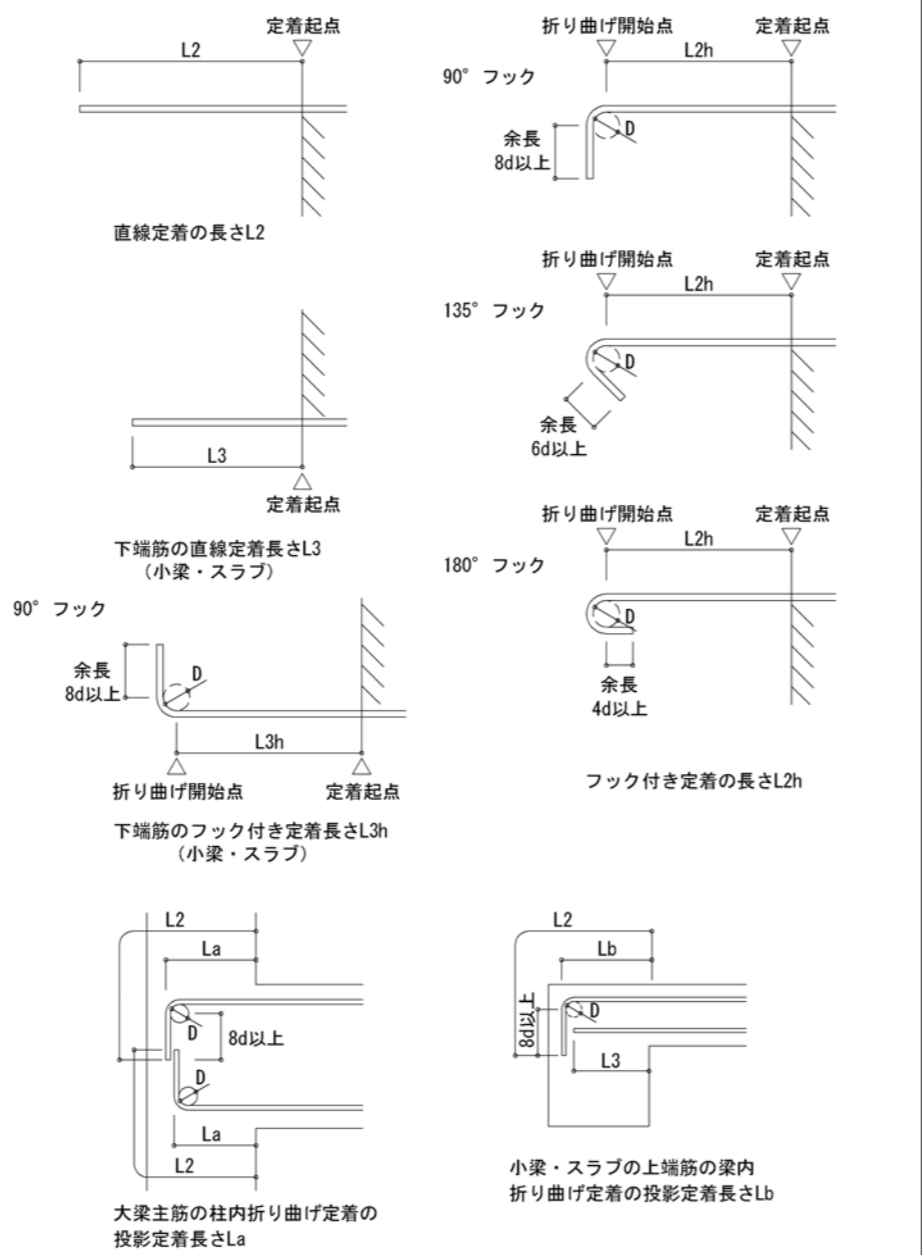
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



### (5) 定着長さ (軽量コンクリートでは5dを加算する。)

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 $f_c (N/mm^2)$	定着の長さ										
		一般					小梁下端筋		スラブ下端筋			
		L2	L2h	La <sup>(3)</sup>	Lb	L3	L3h	L3	L3	L3	L3	L3
SD295	18	40d	30d	20d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	21	35d	25d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	24~27	30d	20d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	30~36	30d	20d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	39~45	25d	15d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	48~60	25d	15d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d	10d	—	—	—	—
	21	35d	25d	20d	20d							
	24~27	35d	25d	20d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	30~36	30d	20d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	39~45	30d	20d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	48~60	25d	15d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
SD390	21	40d	30d	20d	20d	—	—	—	—	—	—	—
	24~27	40d	30d	20d	20d							
	30~36	35d	25d	20d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	39~45	35d	25d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	48~60	30d	20d	15d	15d	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SD490	24~27	45d	35d	25d	—	—	—	—	—	—	—	—
	30~36	40d	30d	25d	—	—	—	—	—	—	—	—
	39~45	40d	30d	25d	—	—	—	—	—	—	—	—
	48~60	35d	25d	20d	—	—	—	—	—	—	—	—

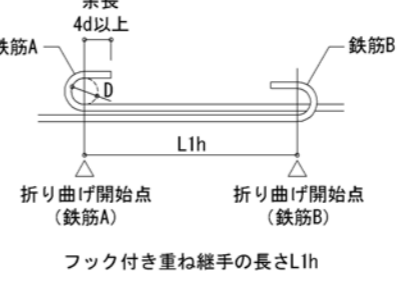
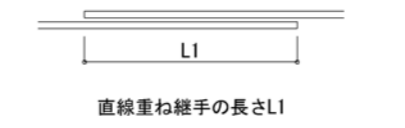
[注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。  
 (2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。  
 (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長さをL2以上とするともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱径の3/4倍以上とする。  
 (4) 耐力スラブの下端筋の定着長さは一般定着L2とする。



### (6) 継手

■重ね継手 (軽量コンクリートでは5dを加算する。)

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 $f_c (N/mm^2)$	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24~27	35d	25d
	30~36	35d	25d
	39~45	30d	20d
	48~60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24~27	40d	30d
	30~36	35d	25d
	39~45	35d	25d
	48~60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24~27	45d	35d
	30~36	40d	30d
	39~45	40d	30d
	48~60	35d	25d
	—	—	—
SD490	24~27	55d	40d
	30~36	50d	35d
	39~45	45d	35d
	48~60	40d	30d



[注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。  
 (2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。  
 (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

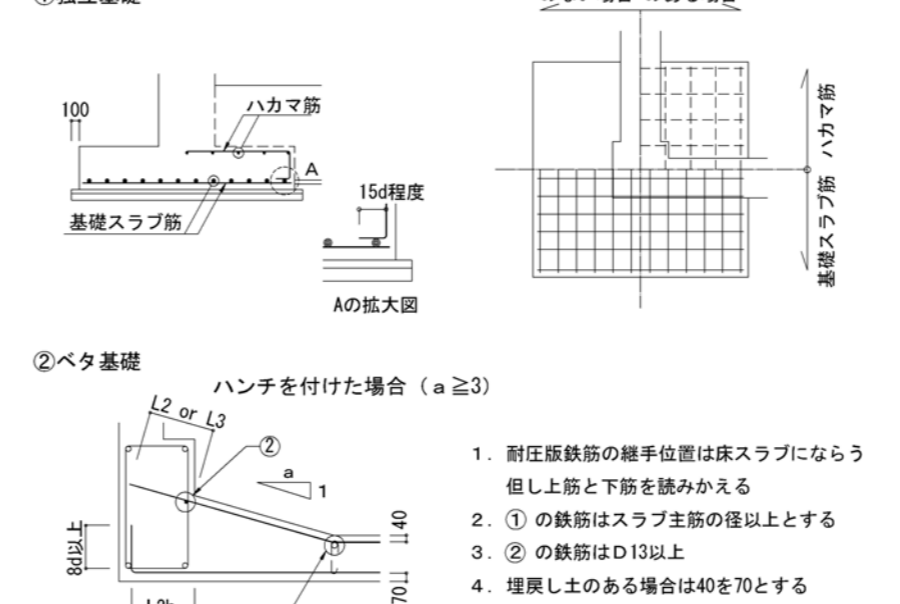
### ■継手に関する注意点

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
  - D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
  - 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
  - ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。
- ・ガス圧接形状 (平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がりが及び内部欠損がないもの)
- ・圧接継手
- ・重ね継手 (下図のいずれかとする) フックなしの場合はL1hはL1
5. 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定を受けたA級継手工法とする。  
 6. 非破壊検査は工事監督者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

## 3. 杭・基礎

(配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること)

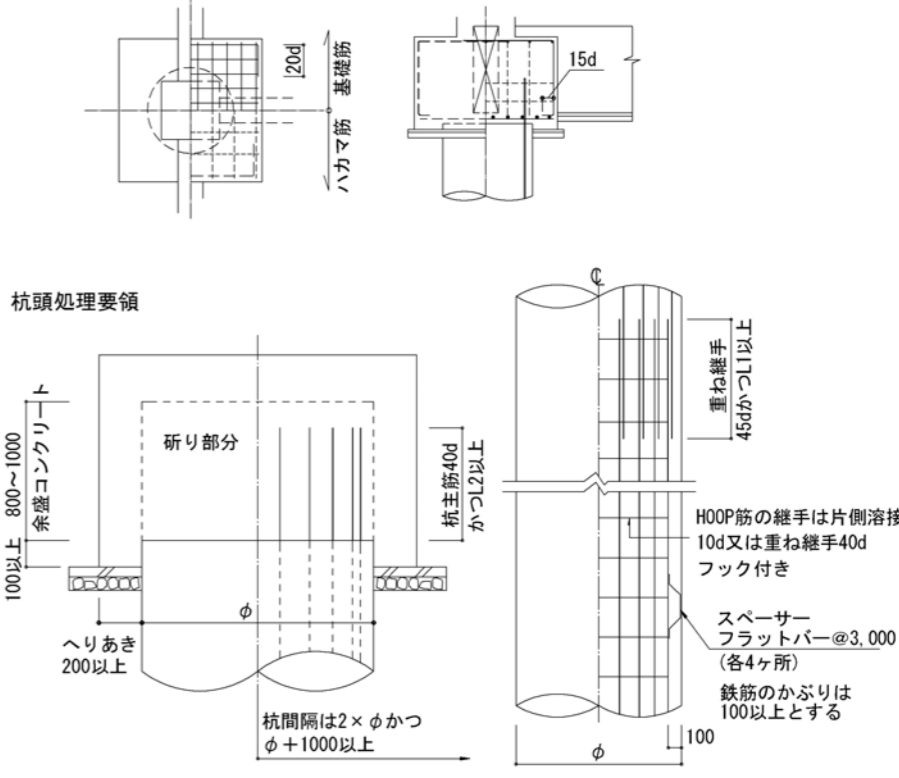
### (1) 直接基礎



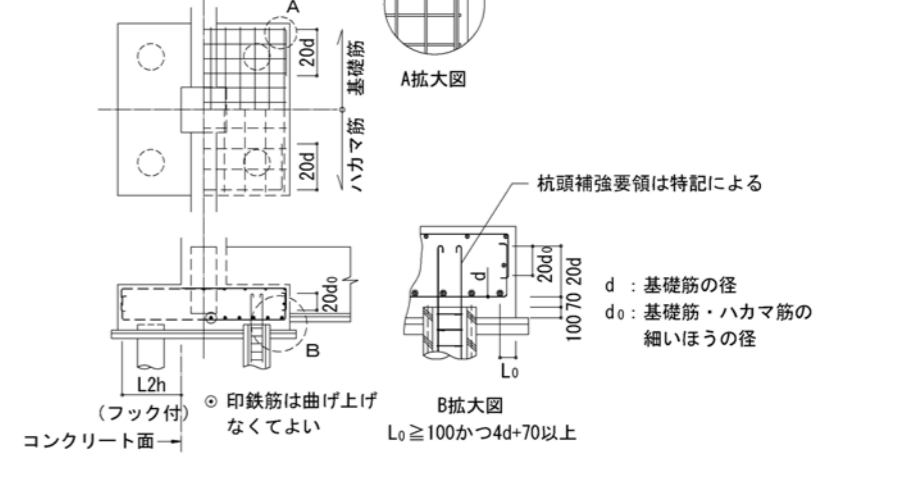
- 耐力版鉄筋の継手位置は床スラブにならう  
 但し上筋と下筋を讀みかえる
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ②の鉄筋はD13以上
- 埋戻し土のある場合は40を70とする

### (2) 杭基礎

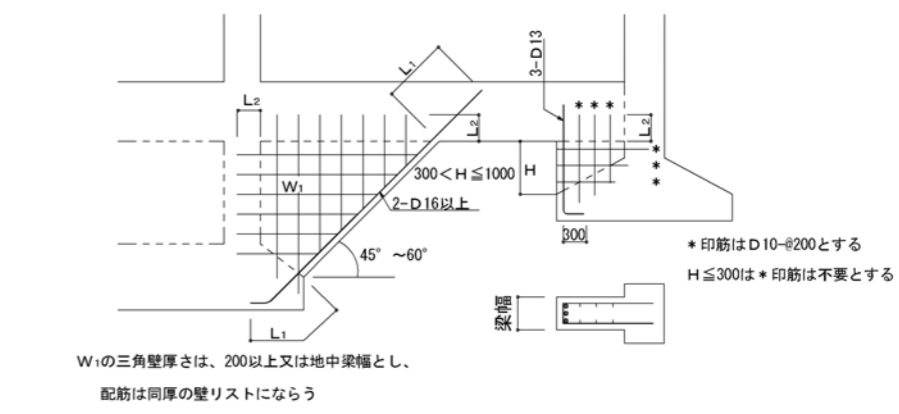
#### ① 場所打ち杭



#### ② PHC杭



### (3) 基礎接合部の補強

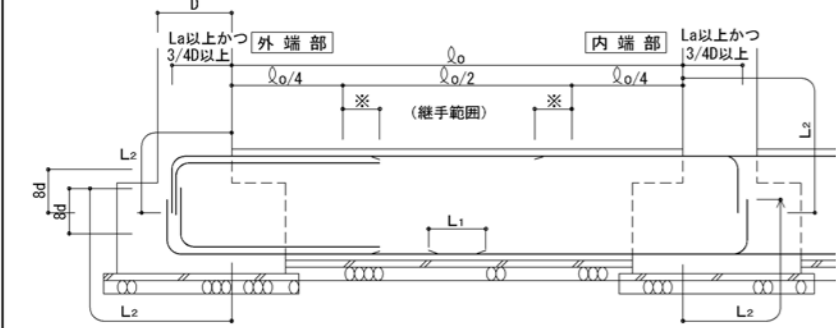


# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

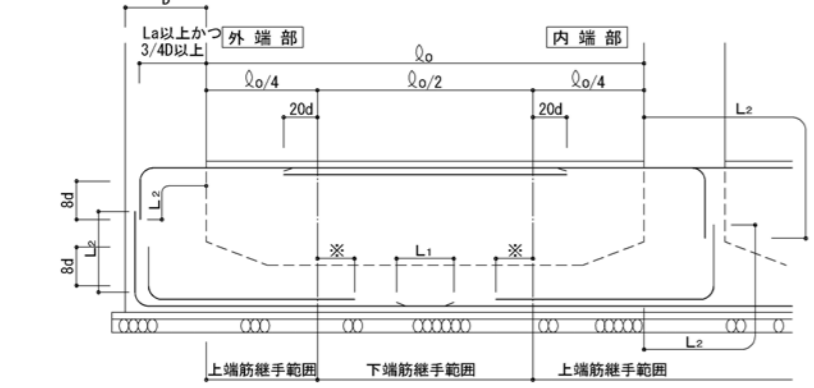
## 4. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)  
(長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。)



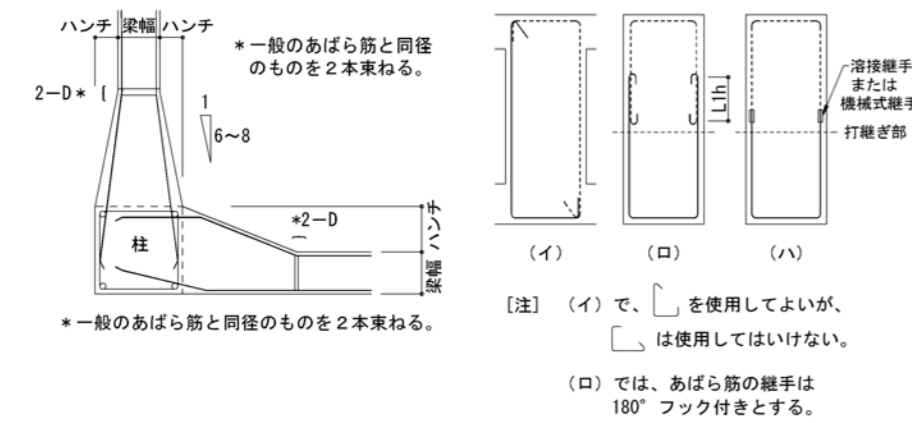
※主筋のカットオフ長さは  $l_o/4 + 15d$  を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



※主筋のカットオフ長さは  $l_o/4 + 15d$  を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

(3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領

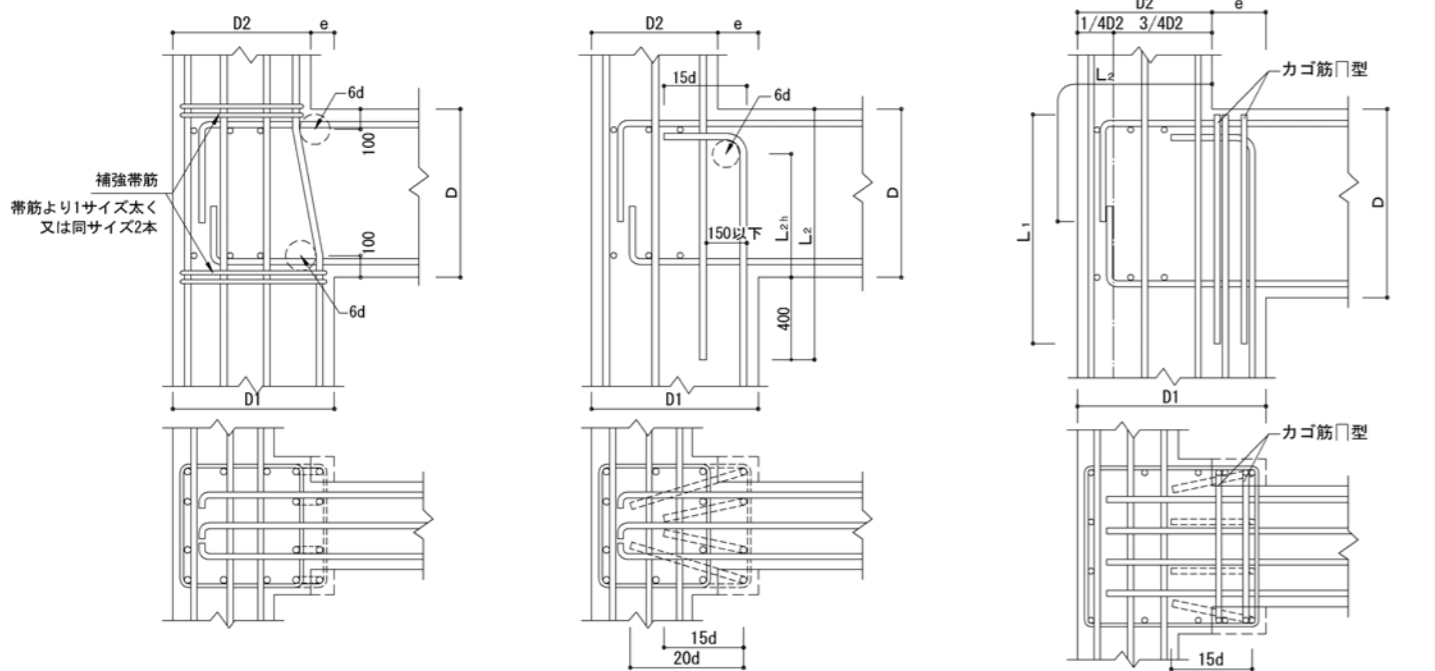


(6) 絞り

(a)  $e \leq D/6$  かつ  $150$

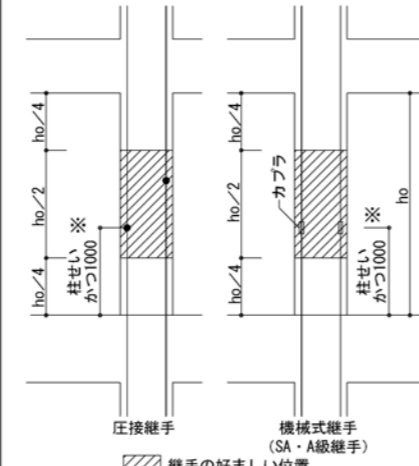
(b)  $150 \geq e > D/6$

(c)  $e = 150$  以上(下図を参考に設計図書に追記する。)

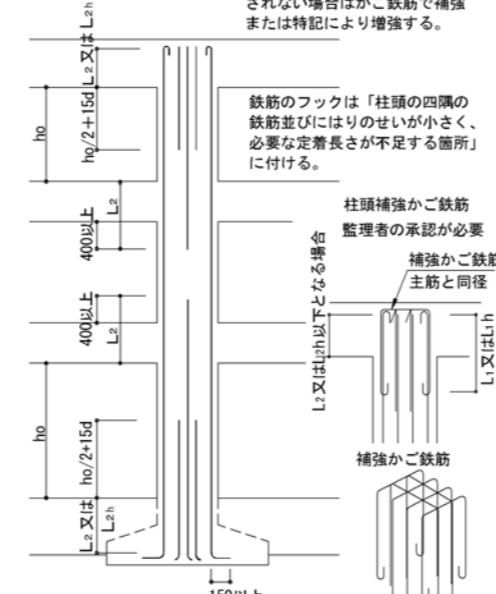


## 5. 柱

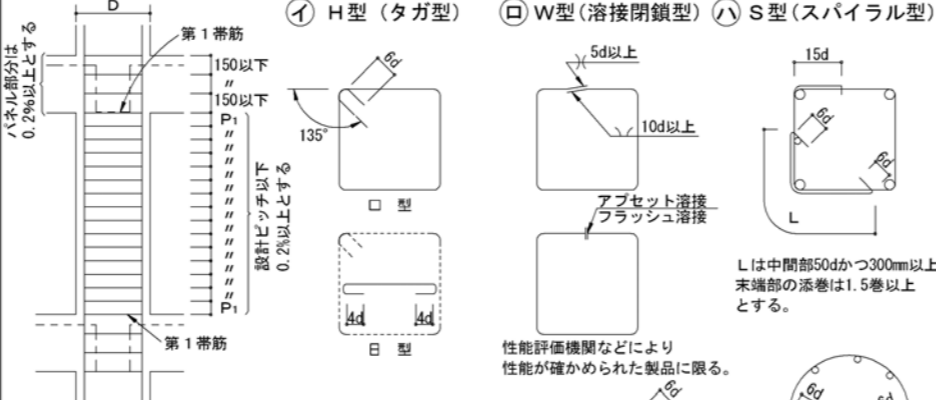
(1) 柱主筋の継手位置



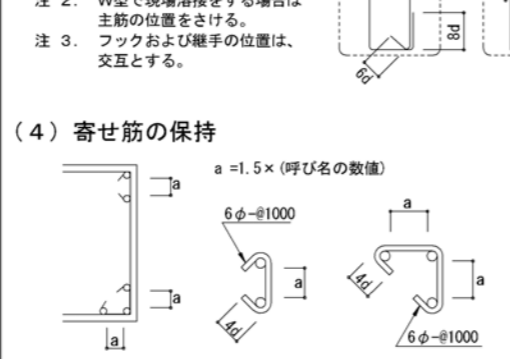
(2) 柱主筋の定着



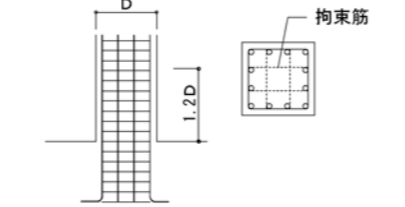
(3) 帯筋



(4) 寄せ筋の保持

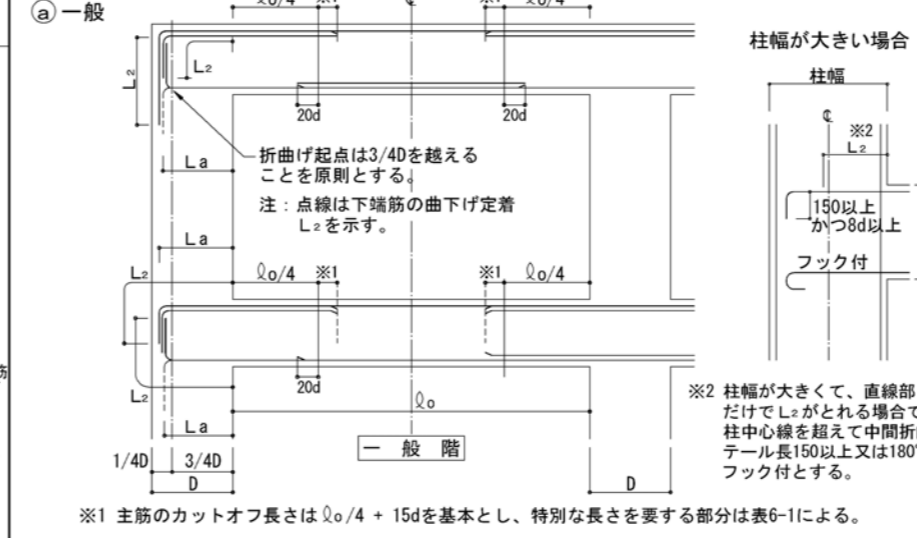


(5) 柱脚部の補強



## 6. 大梁

(1) 定着



(2) ハンチがある場合

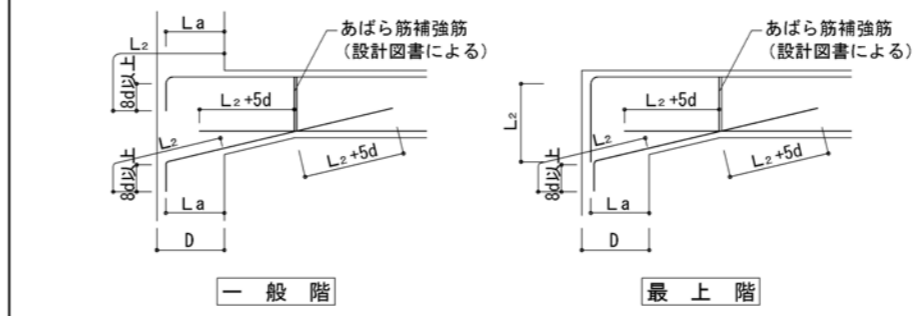
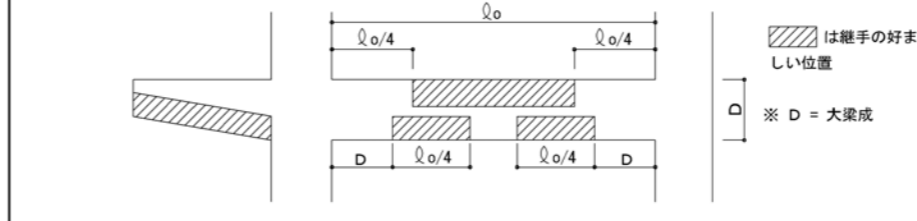


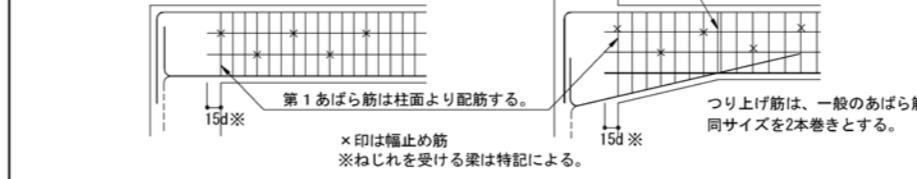
表6-1 特別なカットオフ長さを要する部材 (mm)

部材名	$l_o/4$ に加える長さ	部材名	$l_o/4$ に加える長さ

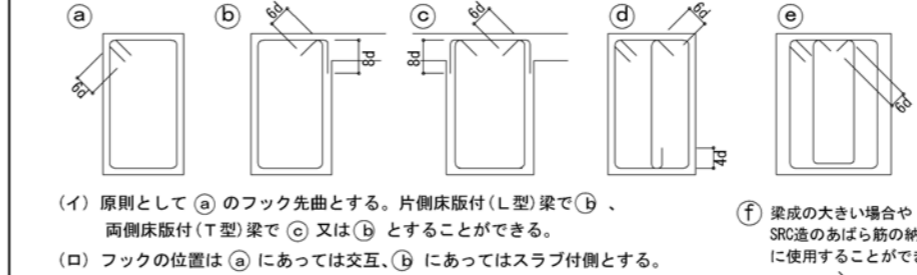
(2) 大梁主筋の継手 (SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。)



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



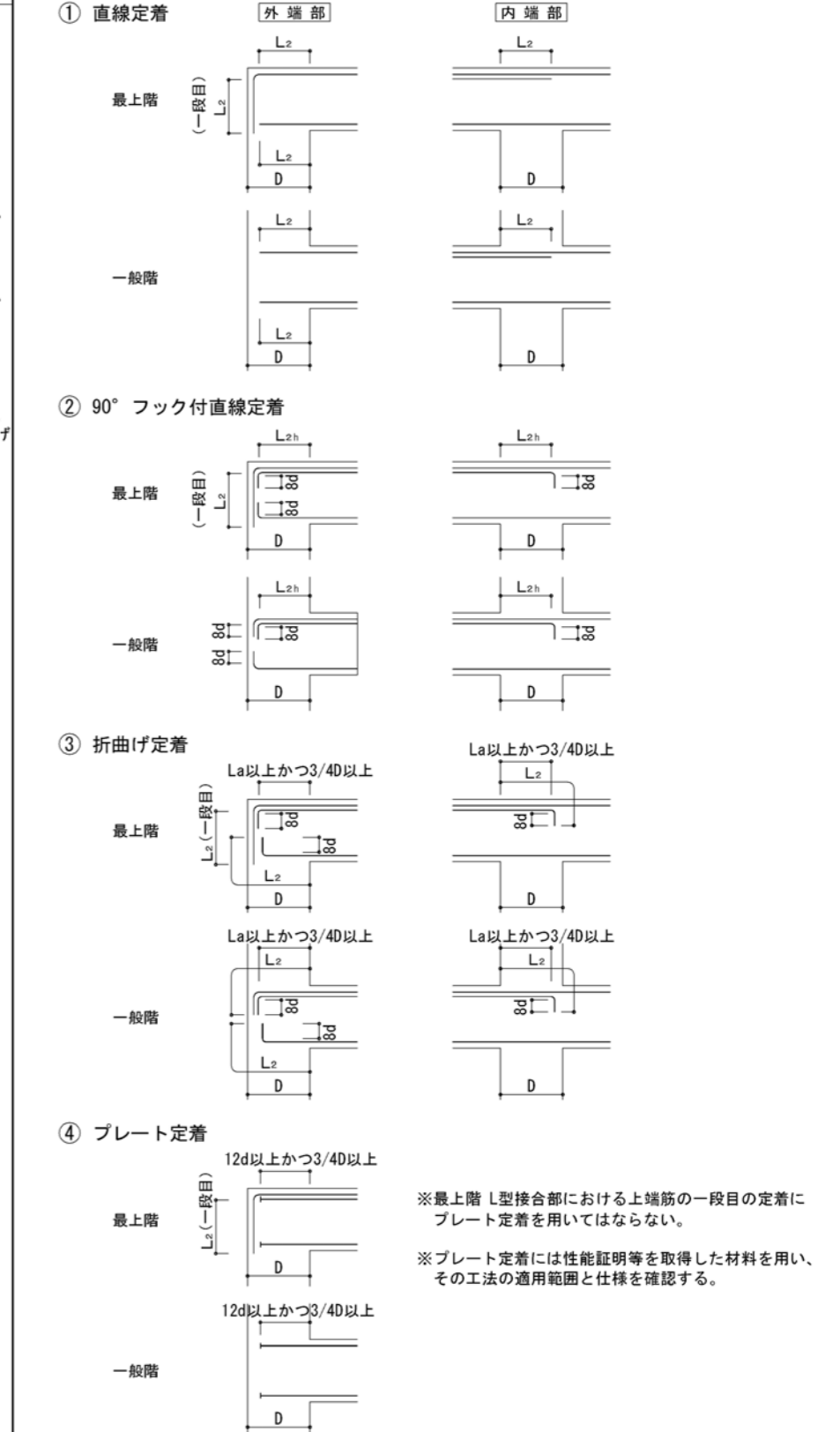
(4) あばら筋の型 (注、床版がない場合は135°以上のフックとする。)



(5) 幅止め筋の本数、加工

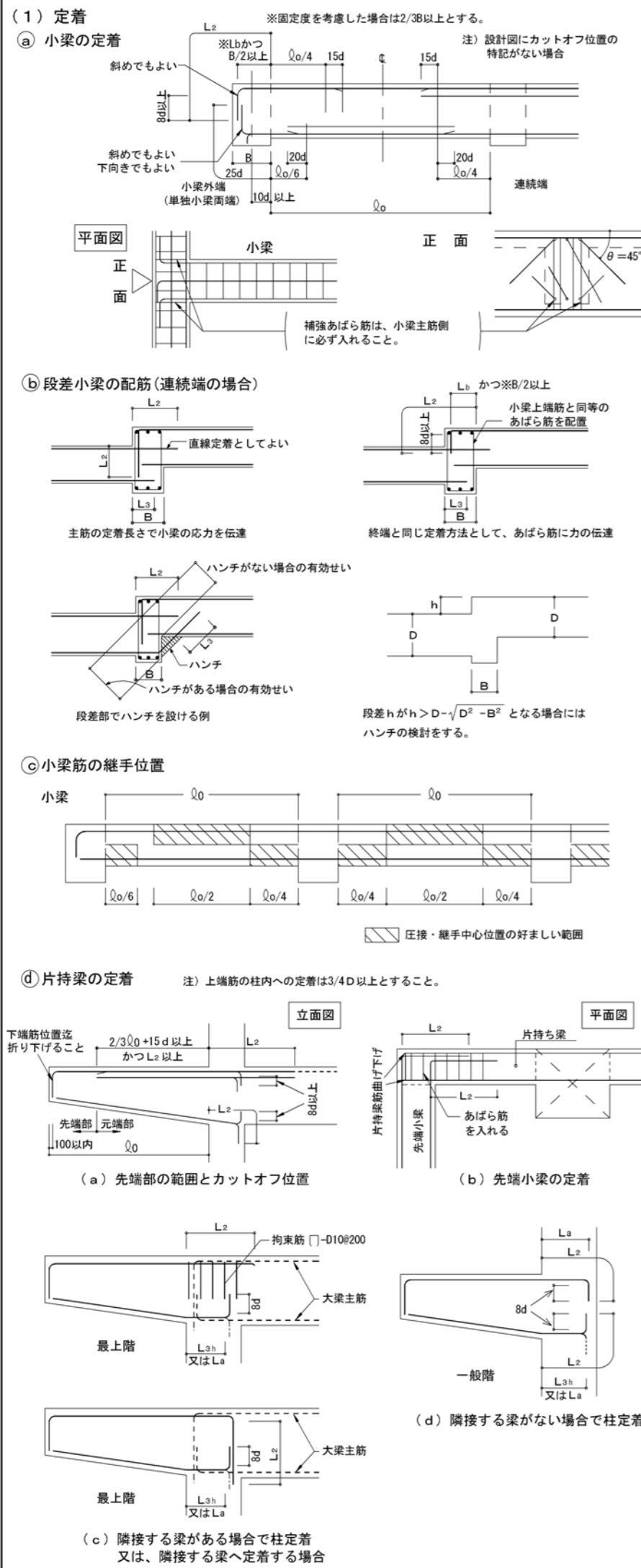
腹筋	幅止め筋
$D < 600$ 不要	
$600 \leq D < 900$	2-D10 1段
$900 \leq D < 1200$	4-D10 2段
$1200 \leq D$	D10@300以内
	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける

(6) 梁主筋の定着

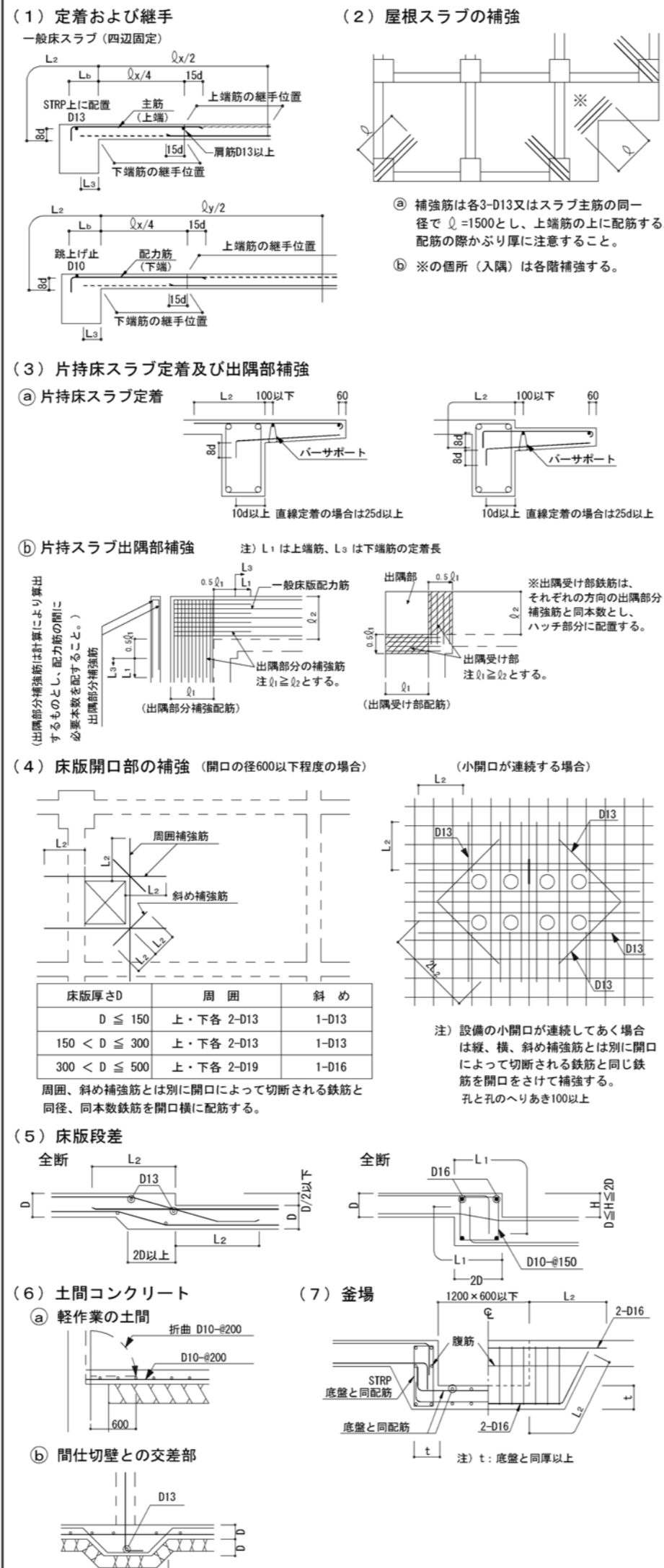


# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

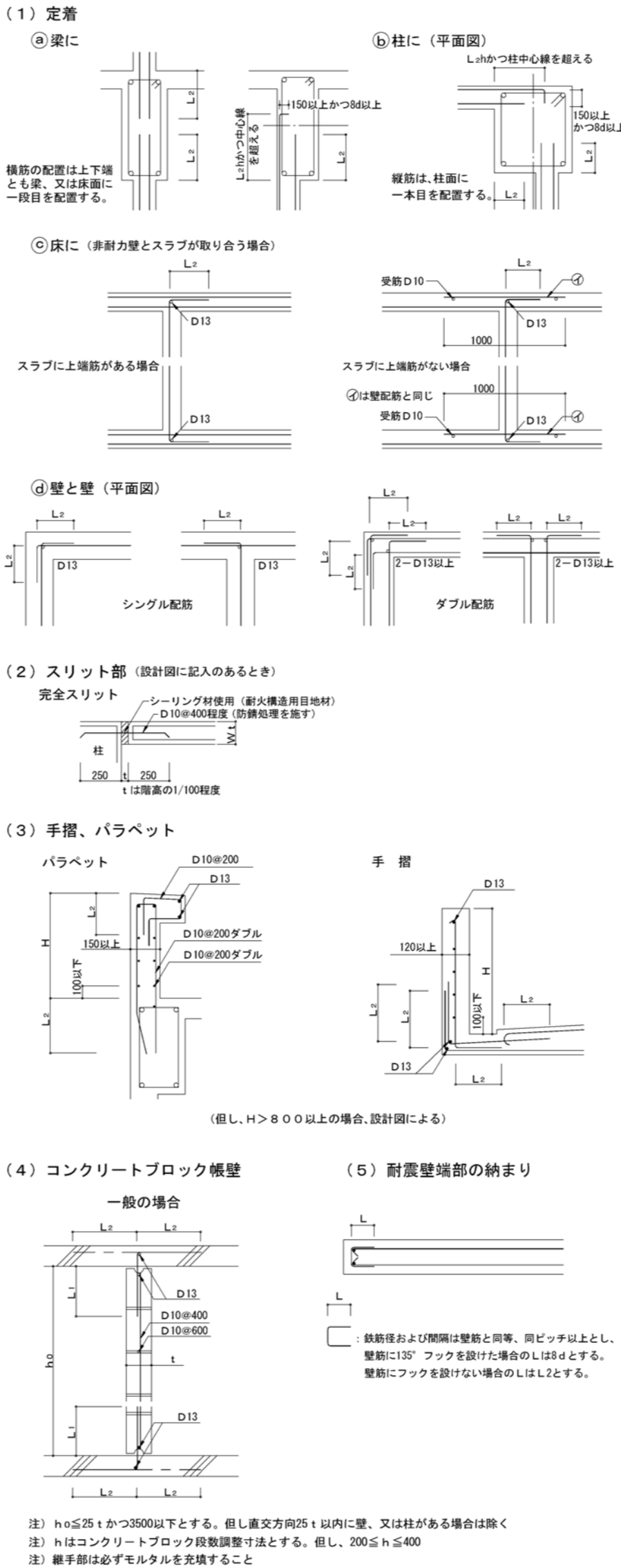
## 7. 小梁、片持梁



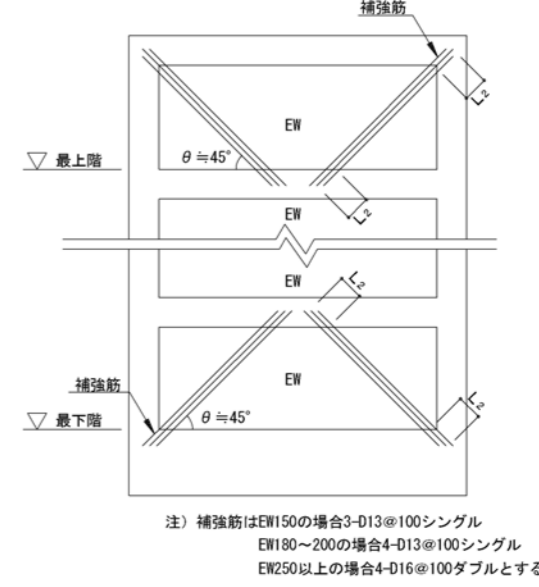
## 8. 床版



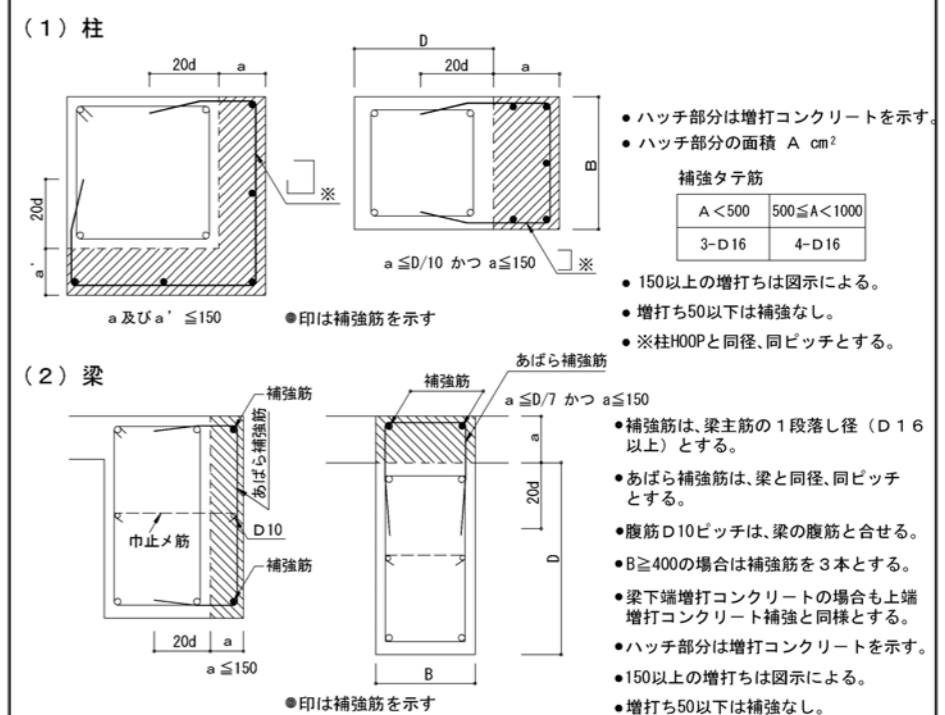
## 9. 壁



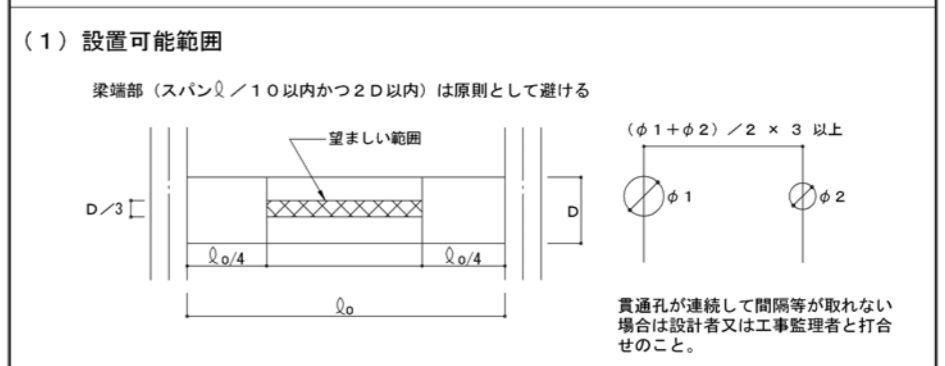
## (6) 連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



## 10. 柱、梁増打コンクリート補強 (増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと)



## 11. 梁貫通孔補強 (開口補強筋については計算により確認すること)



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称  
図名

令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

設計  
縮尺

柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号  
A2: -  
A3: -

設計年月  
令和8年2月  
図番番号  
S-05

# 鉄骨構造標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

## 1. 一般事項

- (1) 材料及び検査  
 (a) 新構造設計特記仕様による。  
 (b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。但し、ベースプレートの厚さは除く。  
 (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。
- (2) 作業一般  
 (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。  
 (b) 鋼管部材の分歧継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。  
 (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。
- (3) 高力ボルト接合  
 (a) 本図に使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。  
 (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一律にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50µm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。  
 (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するように注意して行う。
- (4) 溶接接合  
 (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。  
 (b) 溶接技能者  
 溶接技能者は施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。  
 (c) 溶接機器  
 (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機  
 (ロ) アークエアガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計  
 (ハ) セルフシールドアーク溶接機 (ヘ) 溶接棒乾燥器  
 (d) 溶接方法  
 被覆アーク溶接(アーク手溶接、MC、MP) ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、GC、GP)  
 セルフシールドアーク溶接(半自動溶接、NGC) アークエアガウジング(AAG)  
 (e) 溶接姿勢  
 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O  
 (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。  
 (イ) 仮付位置  
 組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。  
 (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。  
 (g) 溶接施工  
 (イ) エンドタブ  
 ・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同間先形状のエンドタブを取り付ける。  
 ・エンドタブの材質は、母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。  
 ・エンドタブの長さは、MC:35mm以上 NGC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。  
 ・プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。  
 (ロ) 裏当て金  
 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。  
 (ハ) スクラップ半径はr1=30~35mmとr2=10mmのダブルアルとする。但し梁成がD=150mm未満の場合のスクラップはr1=20mmとする。  
 (ニ) ノンスクラップ工法  
 (ホ) 裏はつり  
 標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。  
 (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先面を備えない様に養生を行う。
- (5) 塗装  
 コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

## 2. 溶接標準図

(注) f:余盛 G:ルーツ間隔 R:フェース S:脚長 (単位:mm)

(1) 隅肉溶接

t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所)に注意

(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

(4) T形突合せ継手余盛

t mm	theta	G	t1	L	theta	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12<t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16<t<40	35°	9	9	8	35°	9	9	8

(5) T形突合せ継手余盛

の厚t mm	余盛の高さmm
t<=4	1
4<t<=12	2
12<t<=19	3
19<t<=40	4

(6) 溶接姿勢

t mm	theta	G	t1	L	theta	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12<t<=19	35°	9	9	8	45°	6	9	5
19<t<=40	35°	9	9	8	35°	9	9	8

(7) 溶接姿勢

t mm	theta	G	t1	L	theta	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12<t<=19	35°	9	9	8	45°	6	9	5
19<t<=40	35°	9	9	8	35°	9	9	8

(8) フレアー溶接

寸法 (mm)	phi	B	S
9	7	4	
13	8	4.5	
16	9	5	
19	10	6	
22	11	7	
25	12	8	

## BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

(1) ※ t>16 mm 場合の溶接は、②・又は③~⑤とする。

※ 7 ※ はりフランジは、通しダイヤフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。

※ 7 ※ 内ダイヤフラムは、接合する梁の最大厚の2サイズアップ以上とする。  
 < 柱材料: BCR295, BCP325を使用する場合 >  
 ダイヤフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SM490C SM490B  
 柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SM490C を使用する。

## 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(°C)
一般鋼材	400N級炭素鋼	JIS Z 3312 YGW11, YGW15, YGW18, YGW19	40 以下	350 以下
		T490Tx-yCA-U, T490Tx-yMA-U, T550Tx-yMA-U	30 "	450 "
		JIS Z 3313 E43xx, E49xx	40 "	350 "
	490N級炭素鋼	JIS Z 3211 E43xx, E49xx	40 "	350 "
		JIS Z 3312 YGW11, YGW15, YGW18, YGW19	30 "	250 "
		JIS Z 3313 T490Tx-yCA-U, T490Tx-yMA-U, T550Tx-yMA-U	40 "	250 "
冷間成形角形鋼管	JIS Z 3211 E49xx	40 "	350 "	
	JIS Z 3312 YGW11, YGW15, YGW18, YGW19	40 "	350 "	
	JIS Z 3313 T490Tx-yCA-U, T490Tx-yMA-U, T550Tx-yMA-U	40 "	350 "	
	JIS Z 3312 YGW11, YGW15, YGW18, YGW19	30 "	250 "	

注) ロボット溶接の場合(一社)日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に従うこと。490N/mm<sup>2</sup>を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。ガスシールドアーク溶接法による完全溶け込み溶接部に適用する。

## I-I H型

(1) ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③~⑤とする。  
 ※ 7 ※ 印は設計者が記入すること。

## 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合

※ 2 ※ t>16 mm 場合の溶接は、③~⑤とする。

## B.H方式

(1) ※ t>16 mm 場合の溶接は、③~⑤とする。



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称  
図名

令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
鉄骨構造標準図(1)

設計  
縮尺

柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号  
A2: -  
A3: -

設計年月  
図面番号  
令和8年2月  
s-06

# 鉄骨構造標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

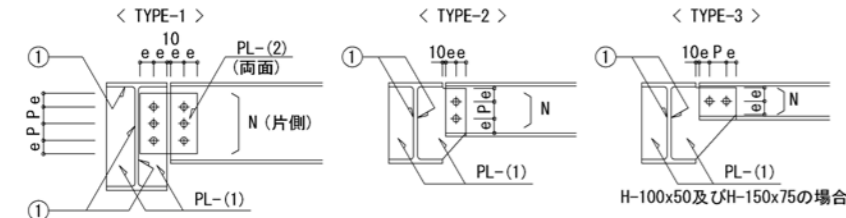
### 3. 継手標準図, その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ (P) ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び径 d	ボルト 穴径	最小縁端距離 (e)			ピッチ (P)		
		(1)	(2)	(3)	(2) (3)の標準	最小 標準	
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	60
	M20	22	50	34	26	40	60
	M22	24	55	38	28	40	60
	M24	26	60	44	32	45	70
アンカーボルト ボルトを示す	M16	21 (16.5)	28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)	34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)	38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)	44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32	49	36			
	M30	35	54	40			
	M30	呼び径+5	9d/5	4d/3			

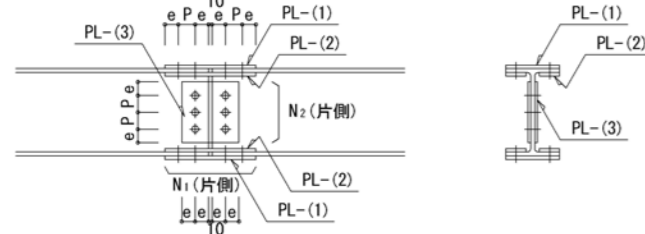
[注] (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。  
(2) せん断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離。  
(3) 圧延線・自動ガス切断線・のこぎ線・機械仕上線の場合の縁端距離。

(2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
	3	H-125・60・6・8	6		2-M16
	3	H-150・75・5・7	6		2-M16
	2	H-175・90・5・8	6		2-M16
	2	H-200・100・5・5・8	6		2-M16
	2	H-250・125・6・9	6		3-M16
	2	H-300・150・6・5・9	9		3-M20
	2	H-350・175・7・11	9		4-M20
	1	H-350・175・7・11	9	6	4-M20
	2	H-400・200・8・13	9		5-M20
	1	H-400・200・8・13	9	9	4-M20

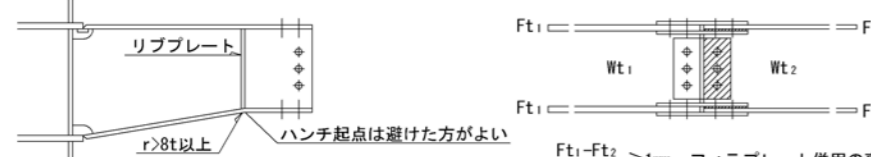
(3) 剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)



[注] 端部をHとする場合の部材は設計図による。

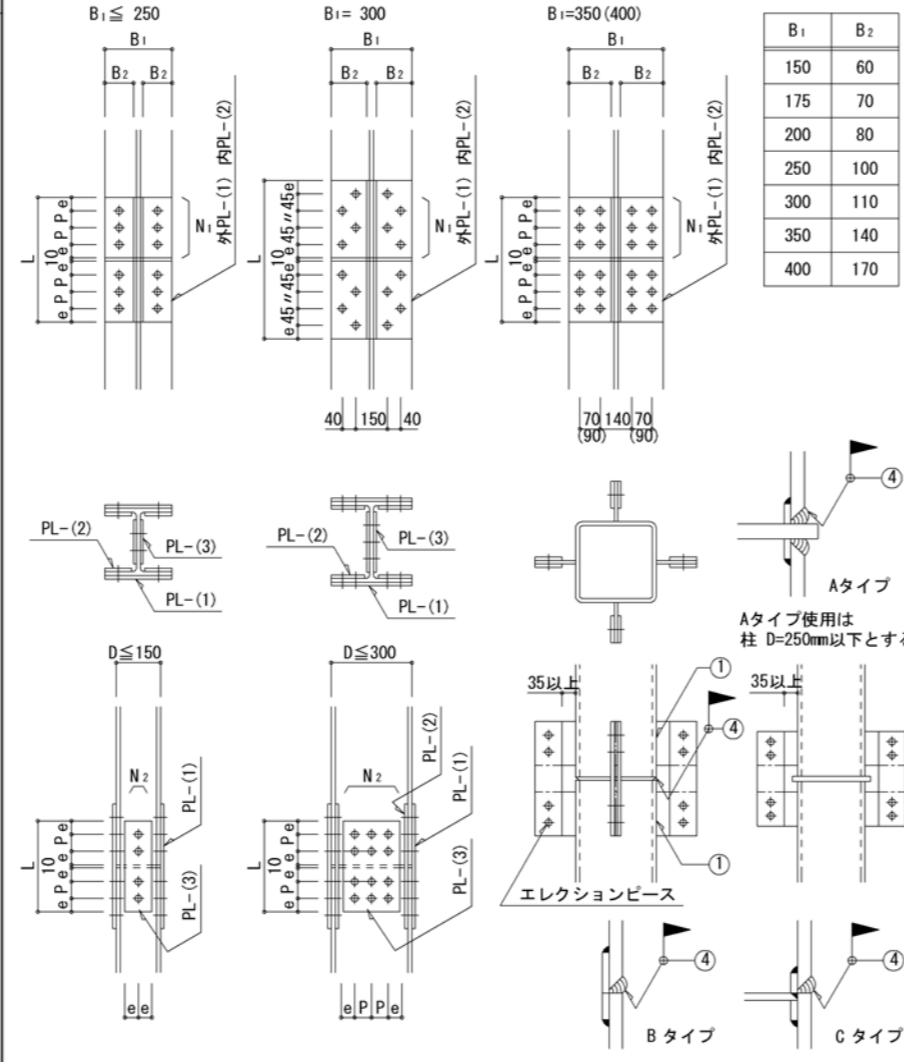
符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N <sub>1</sub> -径	PL-(3)	N <sub>2</sub> -径

(4) ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による。  
r: 半径 t: 板厚

(5) 柱継手リスト



[注] 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N <sub>1</sub> -径	PL-(3)	N <sub>2</sub> -径

(6) ターンバックルプレート (JIS規格品とする... JIS A 5540 ... 2008 / 5541 ... 2008)

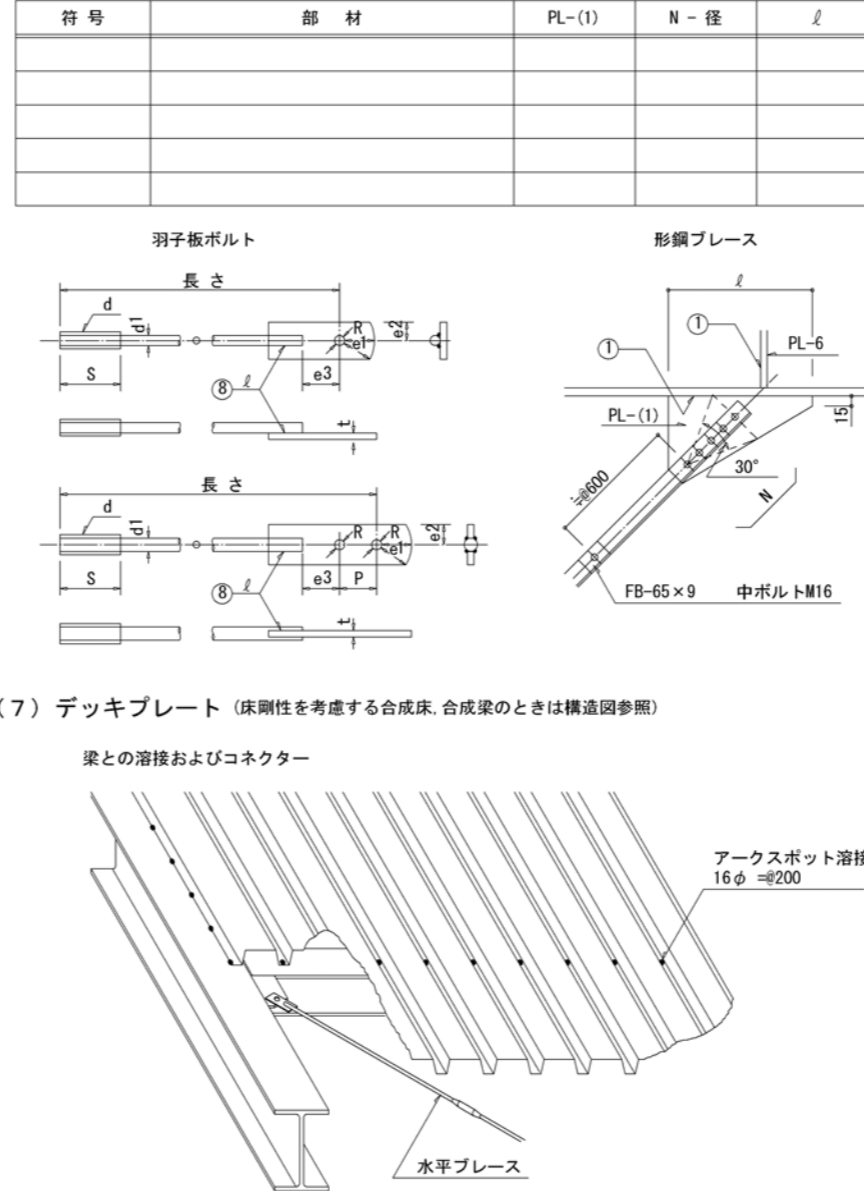
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)	種別								
	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24		
軸径 d1	最大	10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00	
	最小	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69	
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径許容差 (+0, -0.5 mm)		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小)		(2) e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小)	(1) e2	28	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	6	6	6	9	9	9	9
	平鋼製	へりあき (最小)	(1) e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5
板厚	t	6	6	6	9	9	9	9	
ボルト端から取付けボルト穴のあき (最小)		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ (最小)		W	40	50	55	60	75	85	85

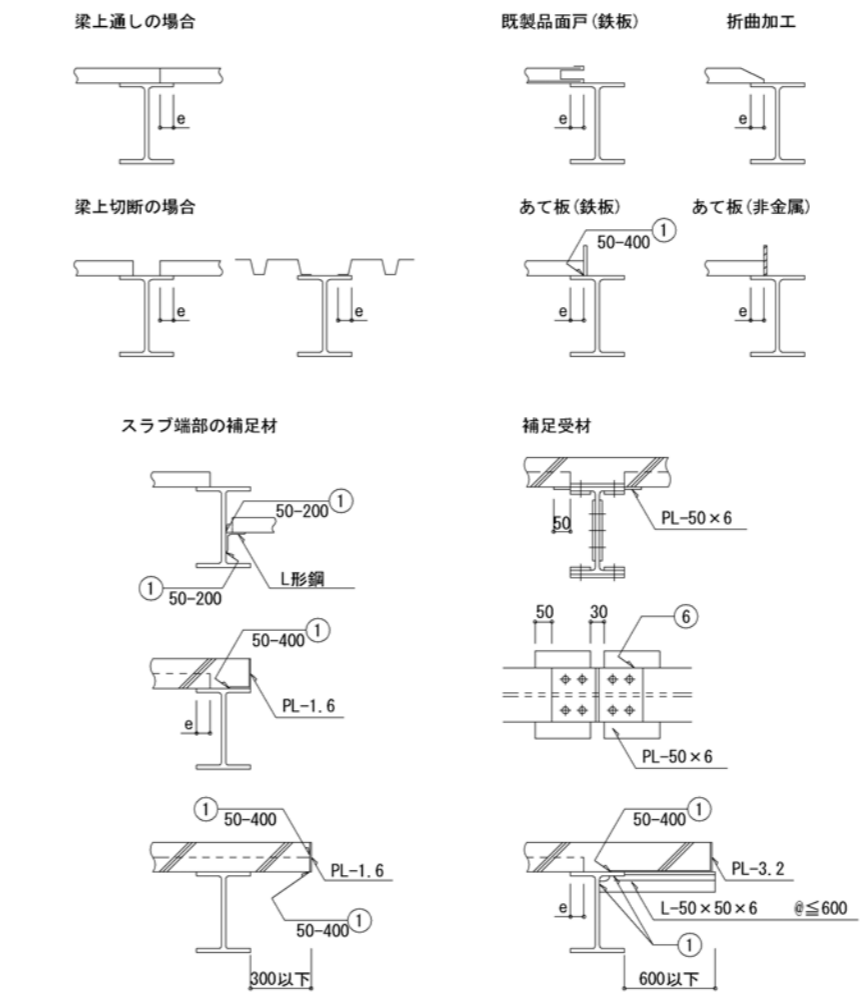
(2) 取付けボルト  
ねじの呼び: M16, M16, M16, M20, M20, M22, M20  
本数: 1, 1, 1, 1, 1, 1, 2

[注] (1) e1, e2が確保されれば形状は自由。  
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。  
(3) 溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1 種 F81AIに準じるものを使用する。

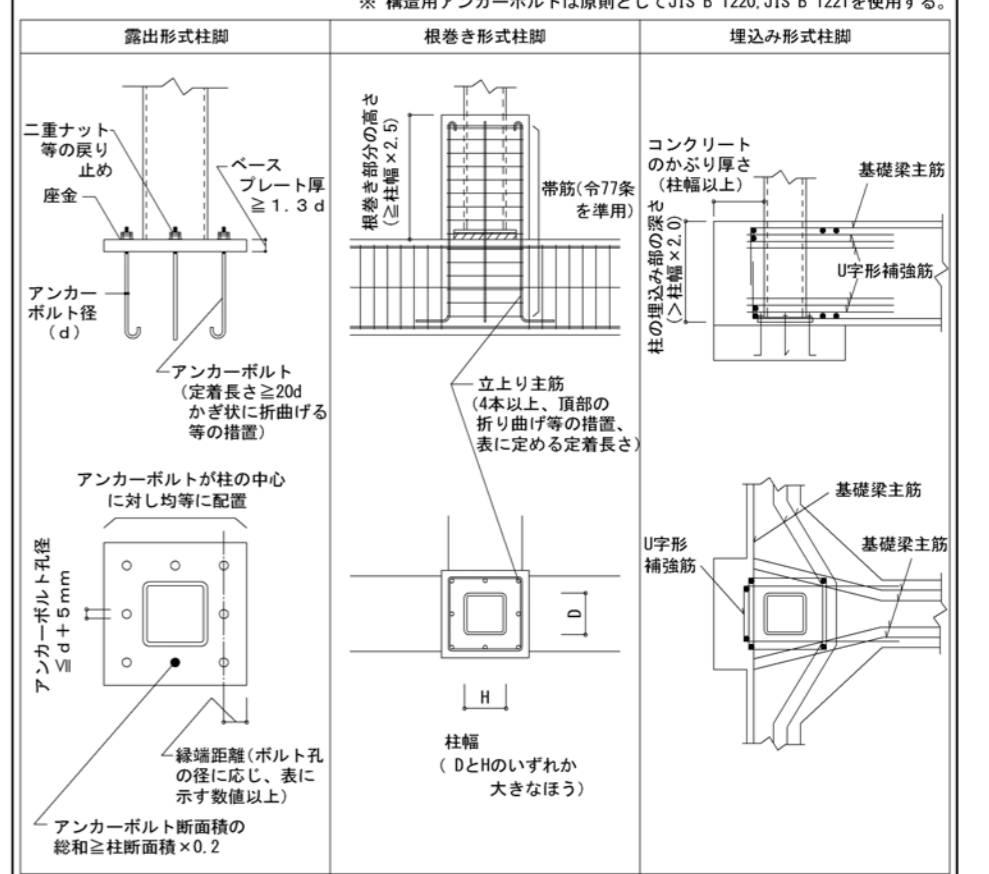
(7) デッキプレート



受梁へのかり寸法及端部処理 e: 長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。且つ、各メーカーの仕様による。



(8) 柱脚

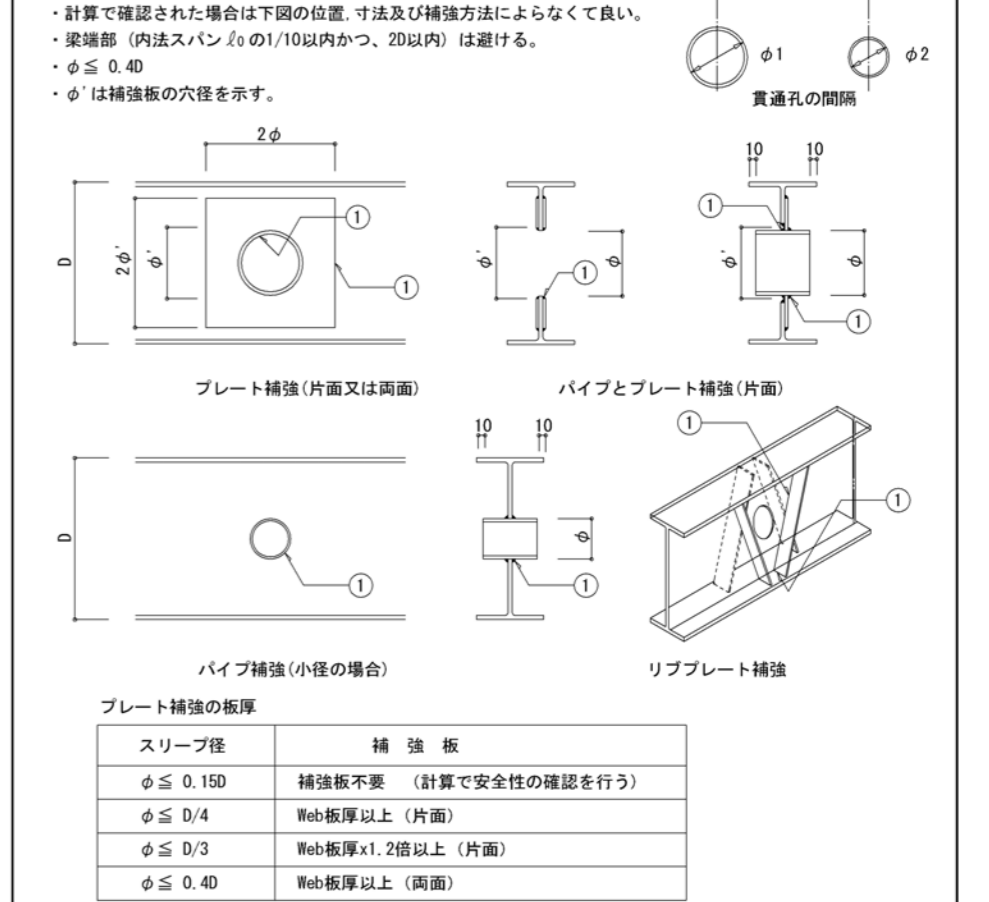


(9) 頭付きスタッド (JIS B 1198 - 2011)

スタッド材の標準形状・寸法

形状	スタッド材			
	呼び名	軸径 d (mm)	頭径 D (mm)	頭高さ T (mm)
	φ13mm	13	25	8
	φ16mm	16	29	8
	φ19mm	19	32	10
	φ22mm	22	35	10
	φ25mm	25	41	12

(10) 梁貫通補強



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

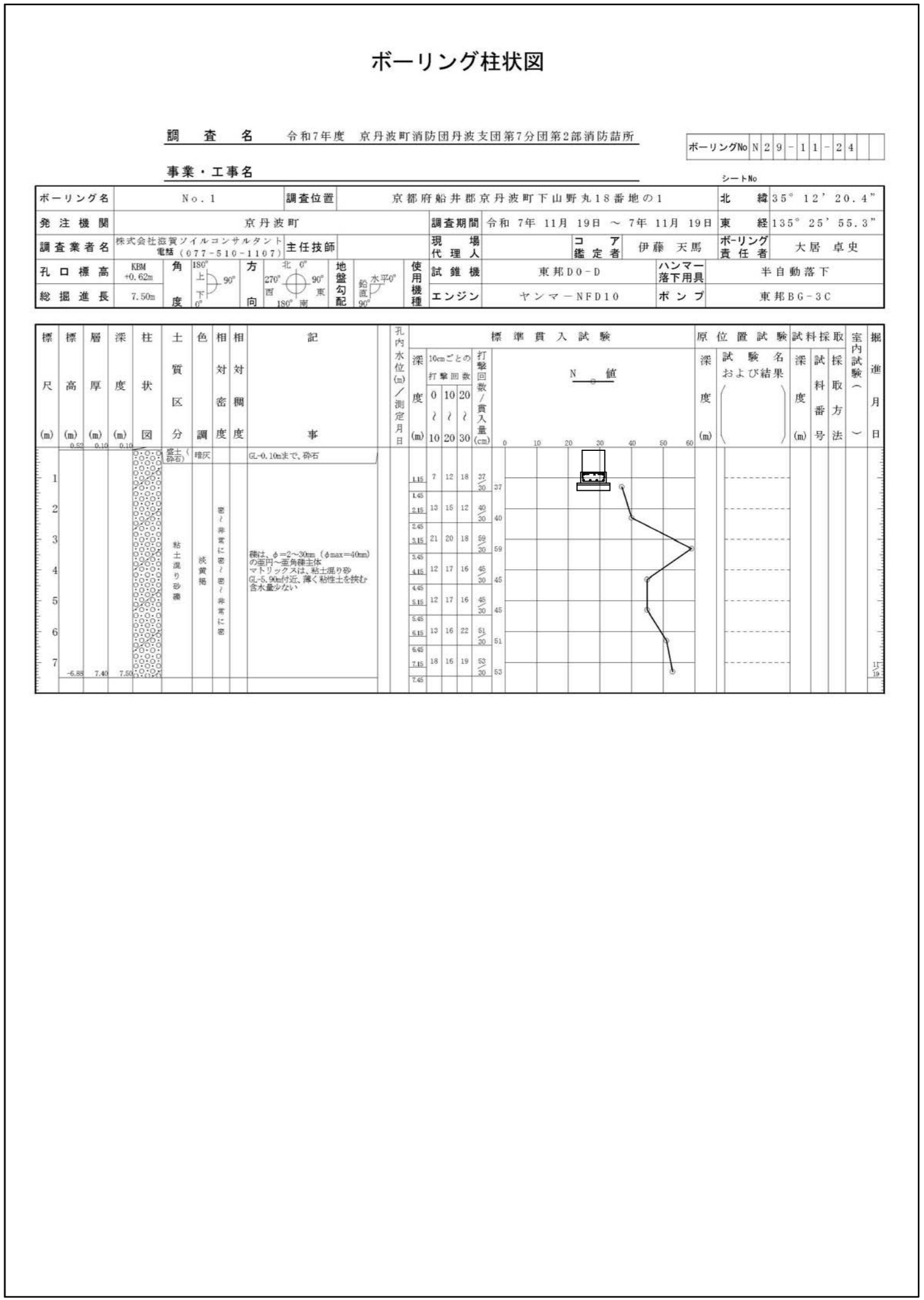
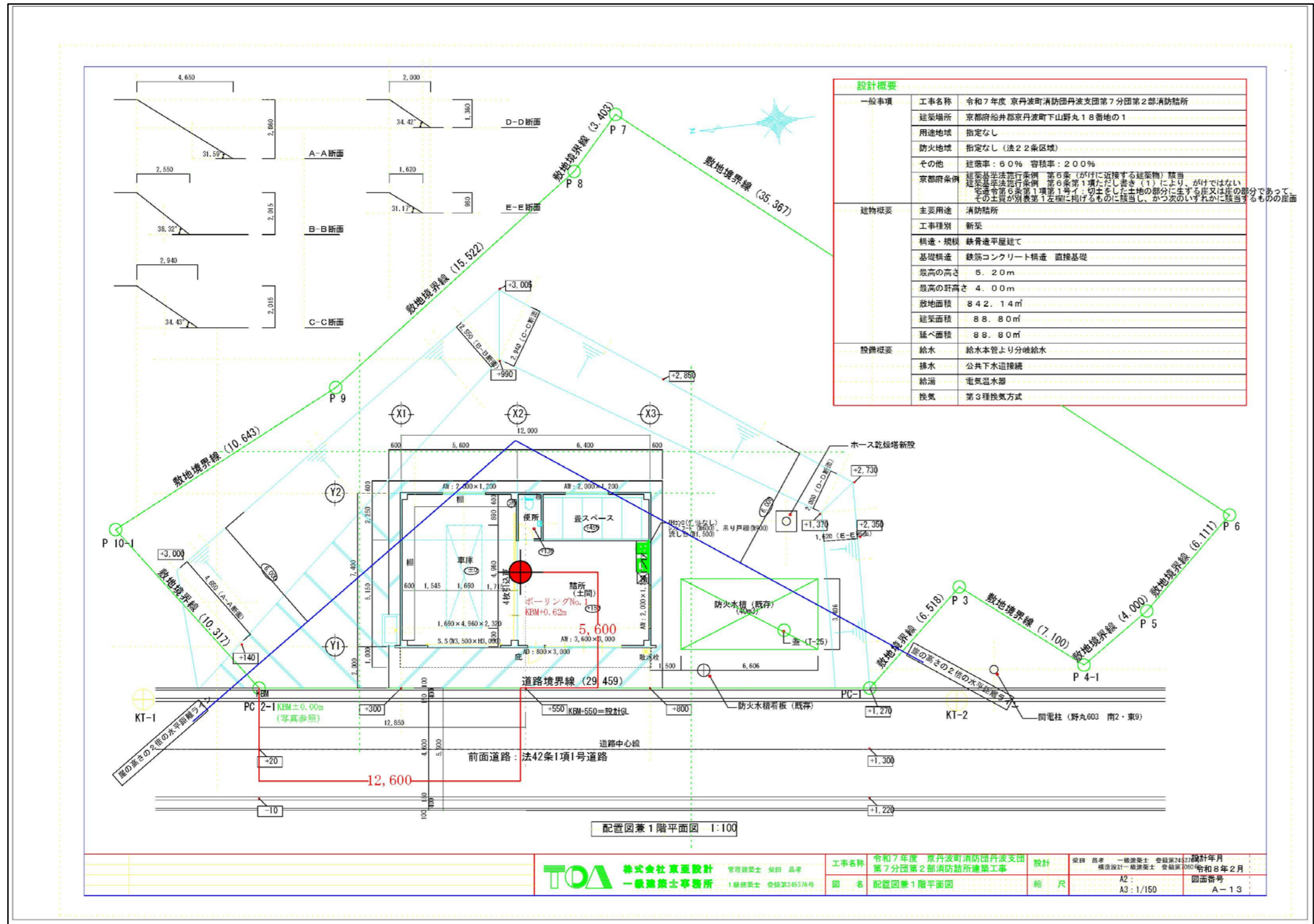
管理建築士 柴田 昌孝  
一級建築士 登録第245376号

工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
図名 鉄骨構造標準図(2)

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号

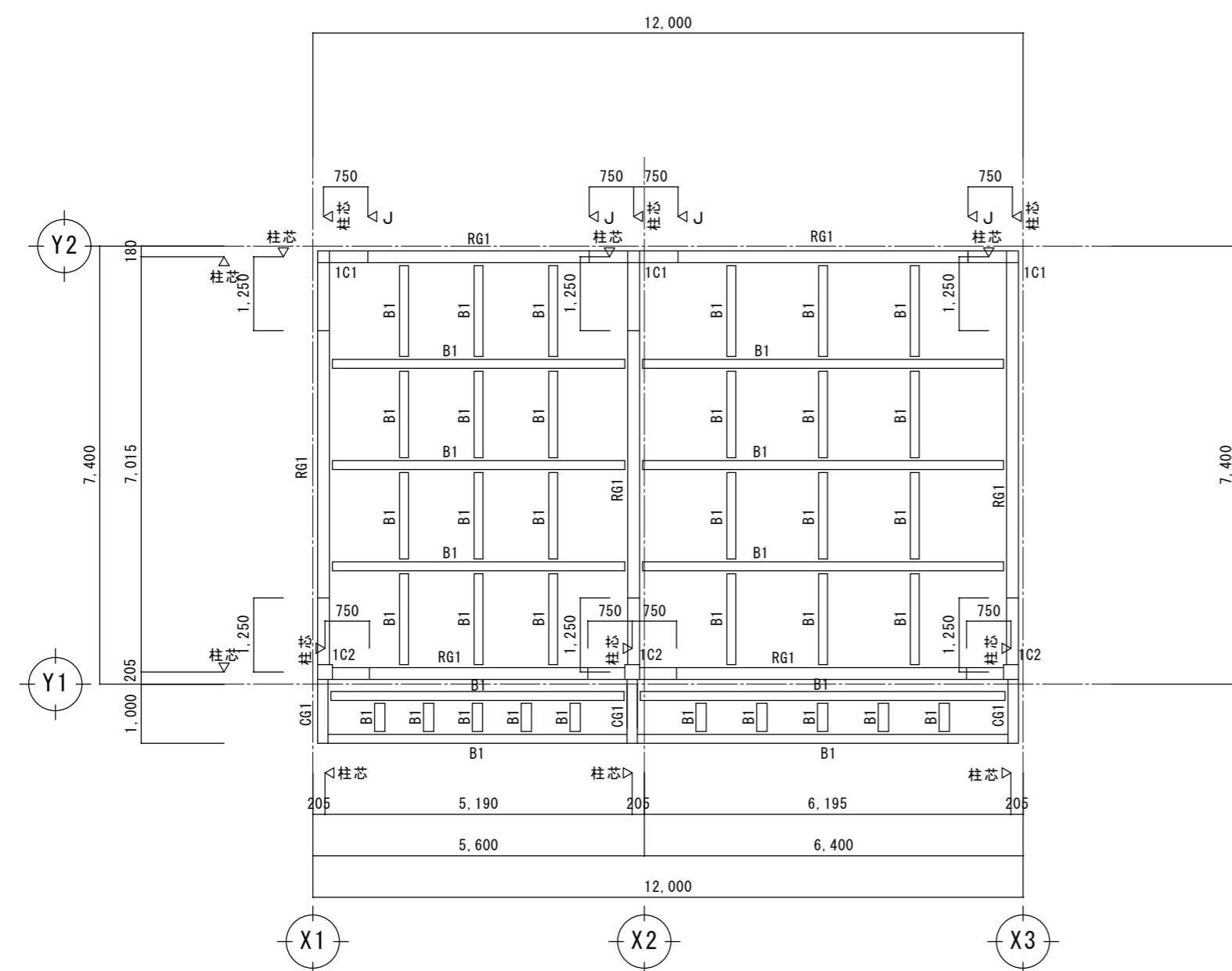
設計年月 令和8年2月  
縮尺 A2: -  
A3: -  
図面番号 S-07



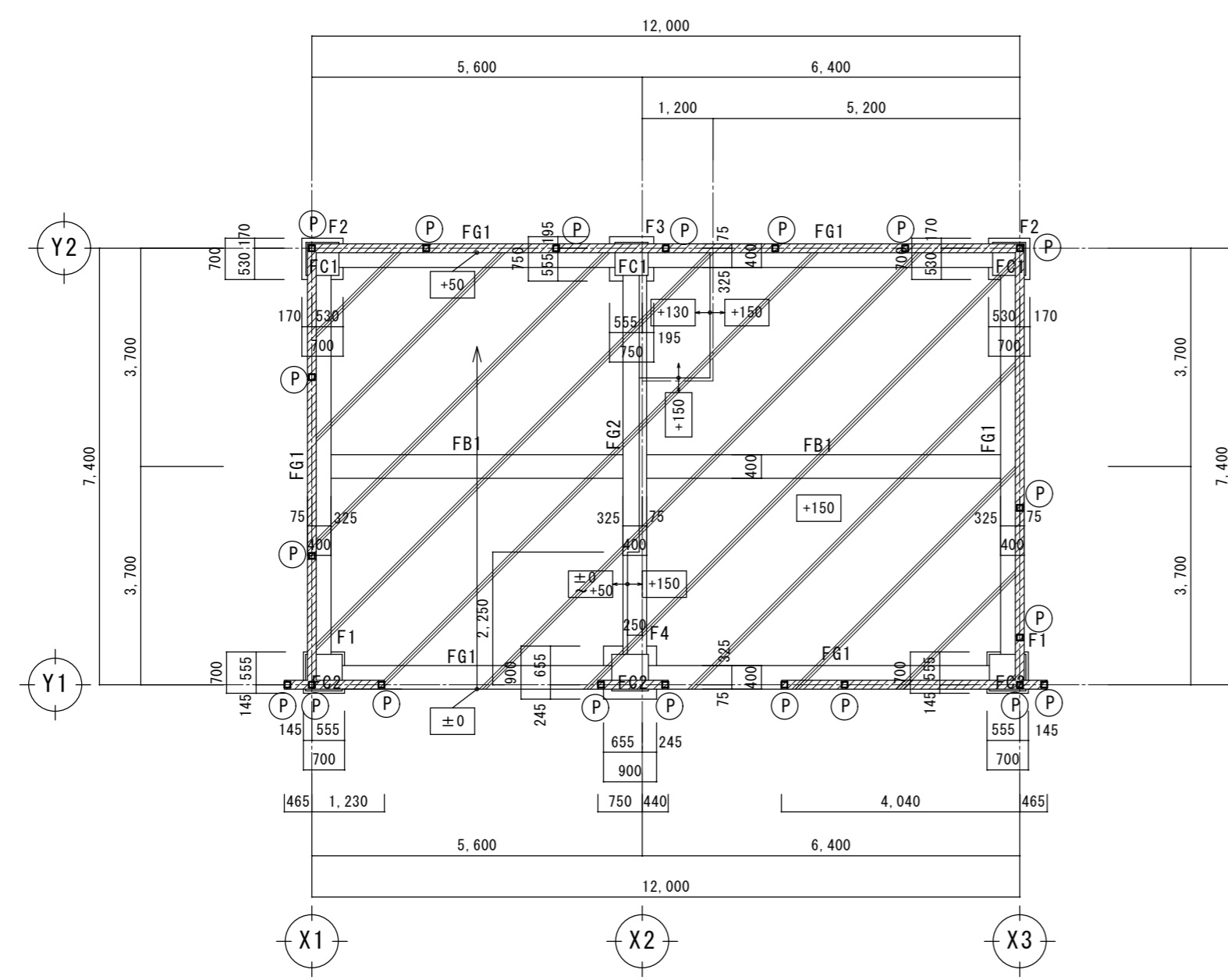


※構造設計・地耐力の決定

1. 本設計に先立ち、ロータリーボーリング調査を行った。
2. 地下水位は認められない。
3. 液状化の可能性は非常に低い。(調査結果 P.19)
4. 基礎底(設計GL-1,000)において、N値は37であるが低減値0.8を用いる。よって設計N値は37×0.8=29.6⇒30を採用する。



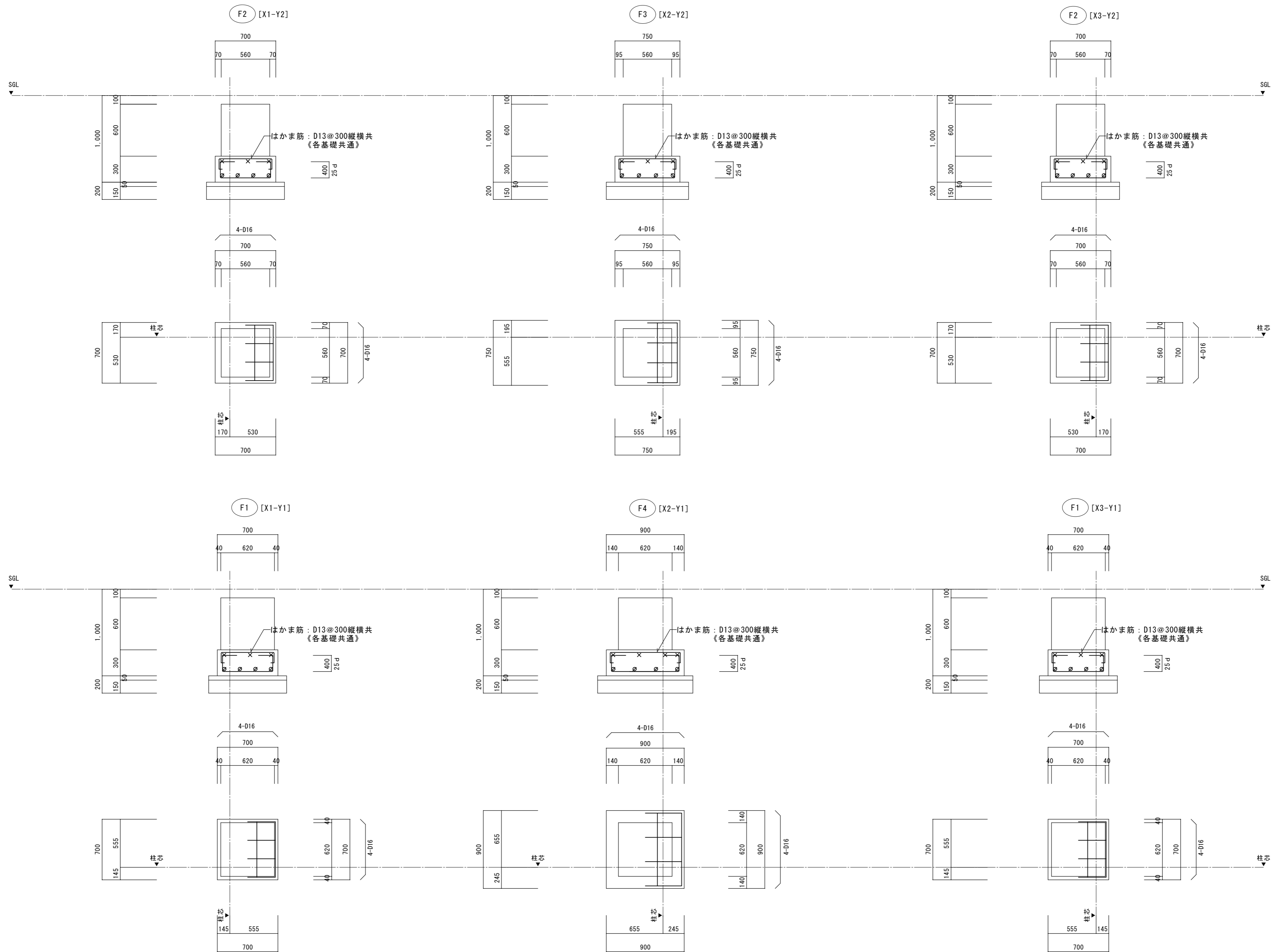
R階床梁伏図 1:100




基礎伏図 1:100

◇ 凡例 ◇

間柱 □-100×100×3.2
柱頭 G.PL-4.5 2-M12(中ボルト、ダブルナット)
柱脚 B.PL-6 A.BT 2-M12(定着20d以上フック付きダブルナット)
縦筋線 C-100×50×20×2.3 @606
下部受材 C-100×50×20×2.3 ネコピース t=4.5 2穴用 2-M12
土間コンクリート t=180 D13@150(短辺)ﾀﾞﾌﾞﾙﾙｸｽ、D13@200(長辺)ﾀﾞﾌﾞﾙﾙｸｽ
□内数字はFLよりの高さ寸法を示す。
RC腰壁 (W150) を示す。





**株式会社東亜設計**  
**一級建築士事務所**

管理建築士 柴田 昌孝  
 1級建築士 登録第245376号

工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事
図名	基礎リスト

設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号
縮尺	A2: 1/30 A3: -

設計年月	令和8年2月
図面番号	S-11

礎柱リスト 1:50

符 号	FC1	FC2
断面		
B x D	560 x 560	620 x 620
主 筋	12 - D19	12 - D19
HOOP	□-D13@100	□-D13@100

鉄骨柱リスト

共通事項 ※ 鋼材は特記なき限り BCR295 とする

符 号	C 1	C 2
1 階	□ - 200x200x12	□ - 250x250x16
柱 脚	ベースプレート	ベースバック 20-12V
	A. BOLT	ベースバック 25-16V
	4 - M33 (SD490)	8 - M33 (SD490)

鉄骨大梁リスト

共通事項 ※ 鋼材は特記なき限り SN400B とする

符 号	G 1
位 置	全断面
R 階	H - 350x175x7x11

床版リスト

符 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向		長 辺 方 向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
S1	180	上 筋	D13 @150	←	D13 @200	←	
			D13 @150	←	D13 @200	←	

材料仕様

コンクリート — 普通コンクリート  $F_c 21$ ,  $SL=15$  [基礎・地中梁]  
 普通コンクリート  $F_c 18$ ,  $SL=15$  [土間 (地中梁と一体打設とする場合は  $F_c 21$  とする)]

鉄 筋 — SD345 [D19~D25]  
 SD295A [D10~D16]

鋼 材 — BCR295 [柱: 角型鋼管]  
 SN400C [通しダイヤフラム鋼板]  
 SN400B [大梁 (G符号) H型鋼: 内ダイヤフラム鋼板: 継手鋼板: 仕口鋼板]  
 SN400A [一般部 H型鋼]  
 SS400 [一般型鋼]  
 STK400 [円形鋼管]  
 SSC400 [軽量型鋼]

継手ボルト — HTB S10T (トルシア型  $\mu=0.45$ )  
 アンカーボルト — SNR400 中ボルト (ハイベースを除く)

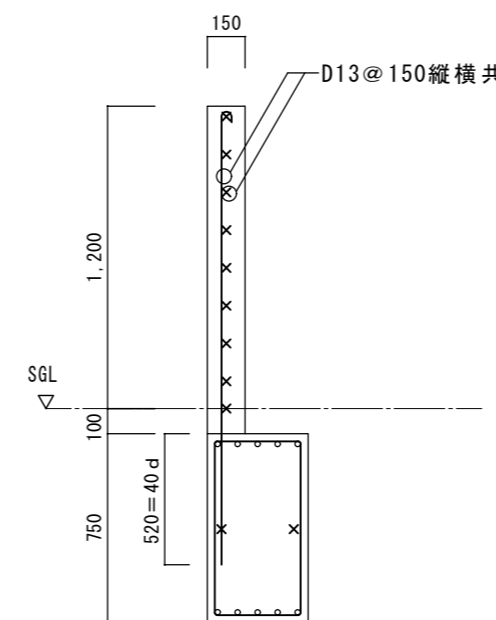
地中梁リスト 1:30

共通事項 ・ 巾止メ筋 D10@1000

符 号	FG1	FG2		FB1
位 置	全断面	中央	端部	全断面
断面				
B x D	400 x 750	400 x 750	400 x 750	300 x 600
上 筋	5 - D22	8 - D22	6 - D22	4 - D22
下 筋	5 - D22	8 - D22	6 - D22	4 - D22
S T R	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D10 @100
腹 筋	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13

継手リスト 1:30

部 材 断 面	H- 350x 175x 7x 11	
	ボルトピッチ @60 はしあき 40	
フランジ	ボルト総本数	HTB 4- M20 g=120
	外側添板	PL- 9x 175x 290
	内側添板	2PL- 9x 70x 290
ウェブ	ボルト総本数	HTB 3- M20 @60
	添板	2PL- 6x 260x 170



壁配筋容量図 1:30



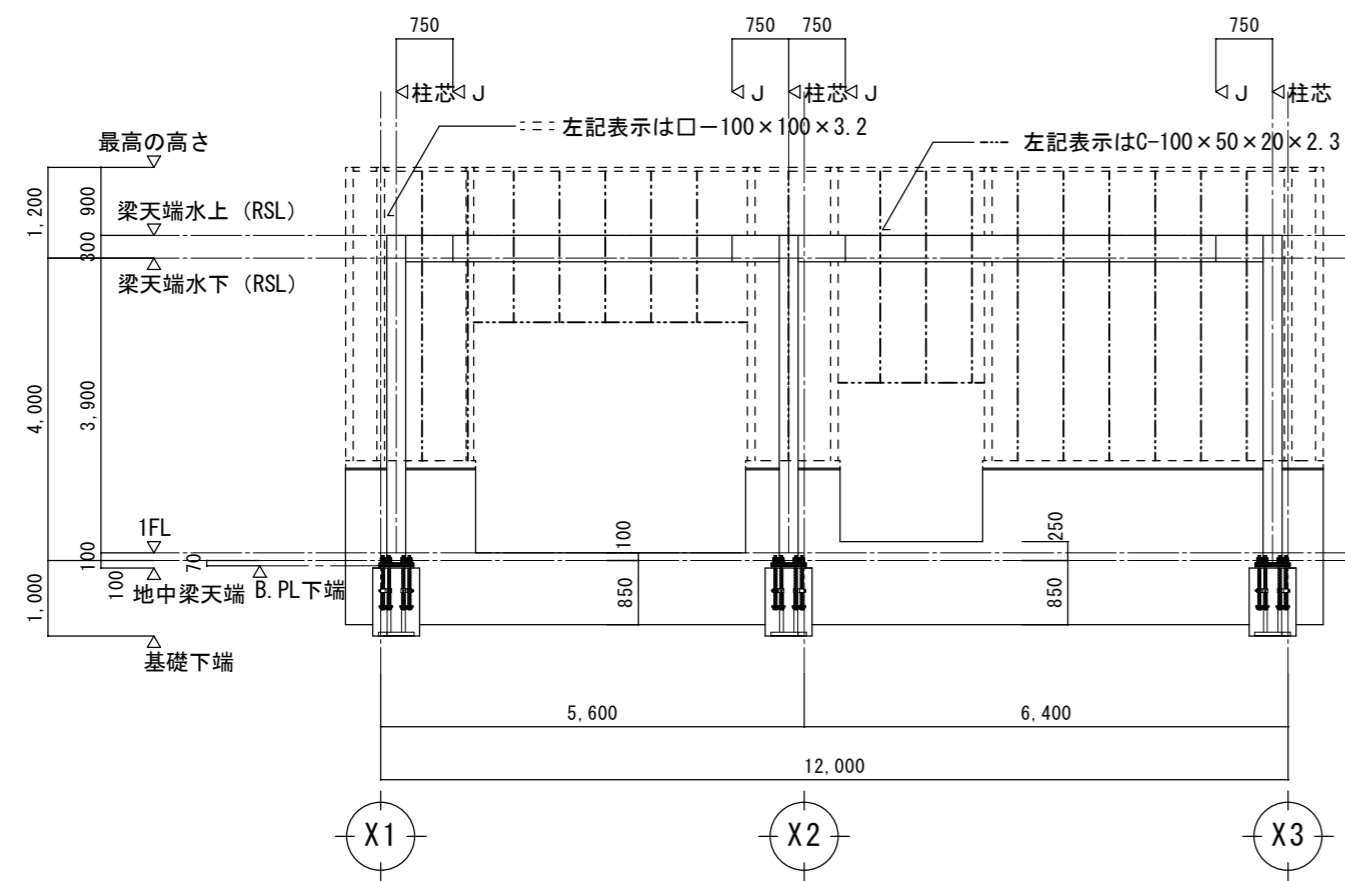
株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

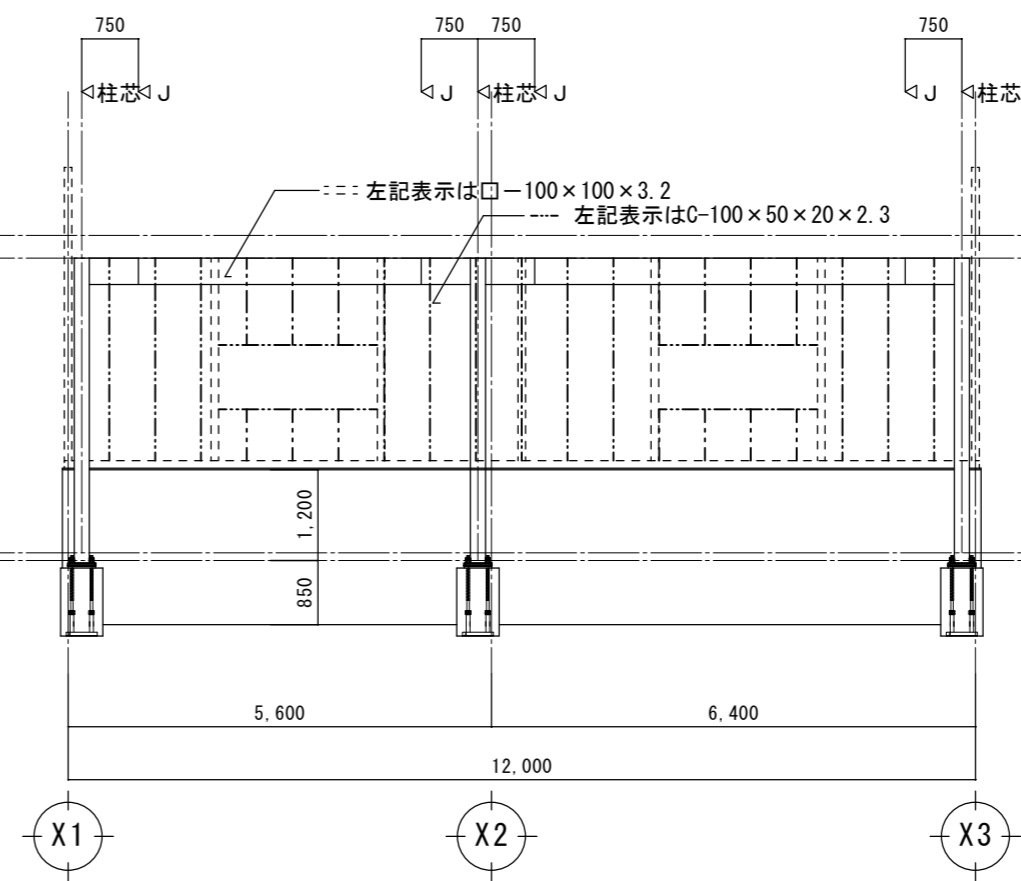
工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事  
図 名 礎柱・地中梁・床版・鉄骨柱・鉄骨継手リスト

設 計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号  
縮 尺 A2: 1/50 1/30  
A3: -

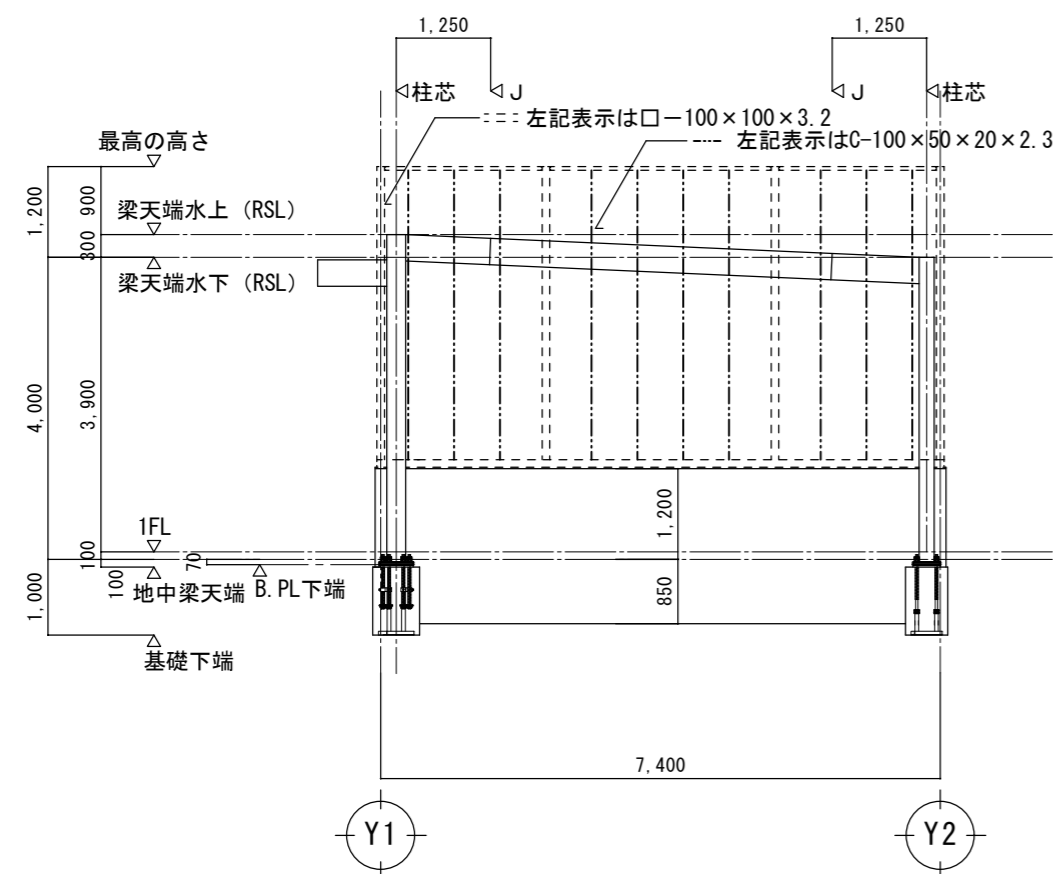
設計年月 令和8年2月  
図面番号 S-12



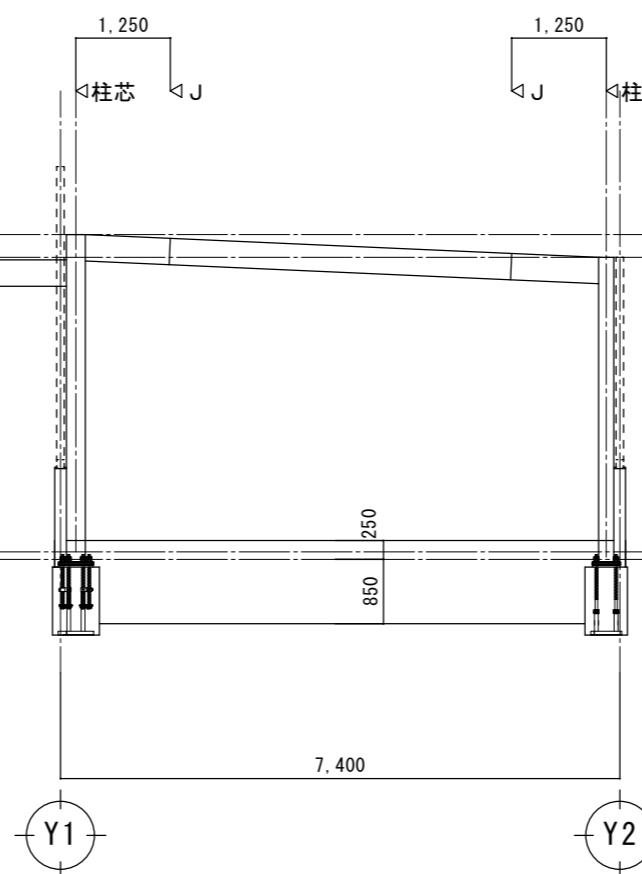
Y 1 通り軸組図 1:100



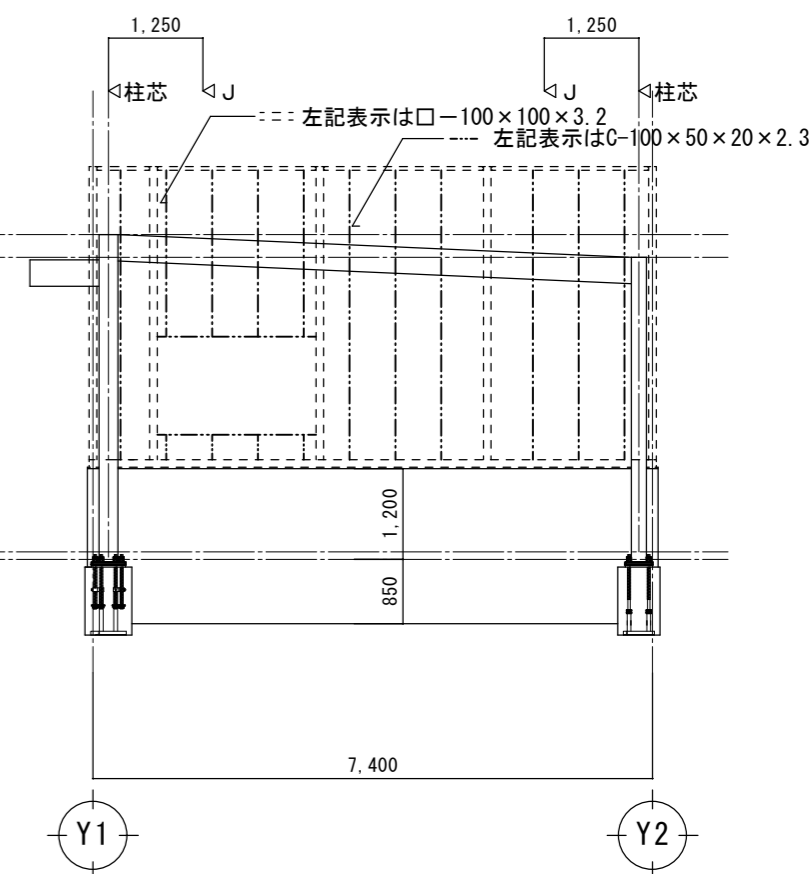
Y 2 通り軸組図 1:100



X 1 通り軸組図 1:100



X 2 通り軸組図 1:100



X 3 通り軸組図 1:100



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事

図名 軸組図

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号

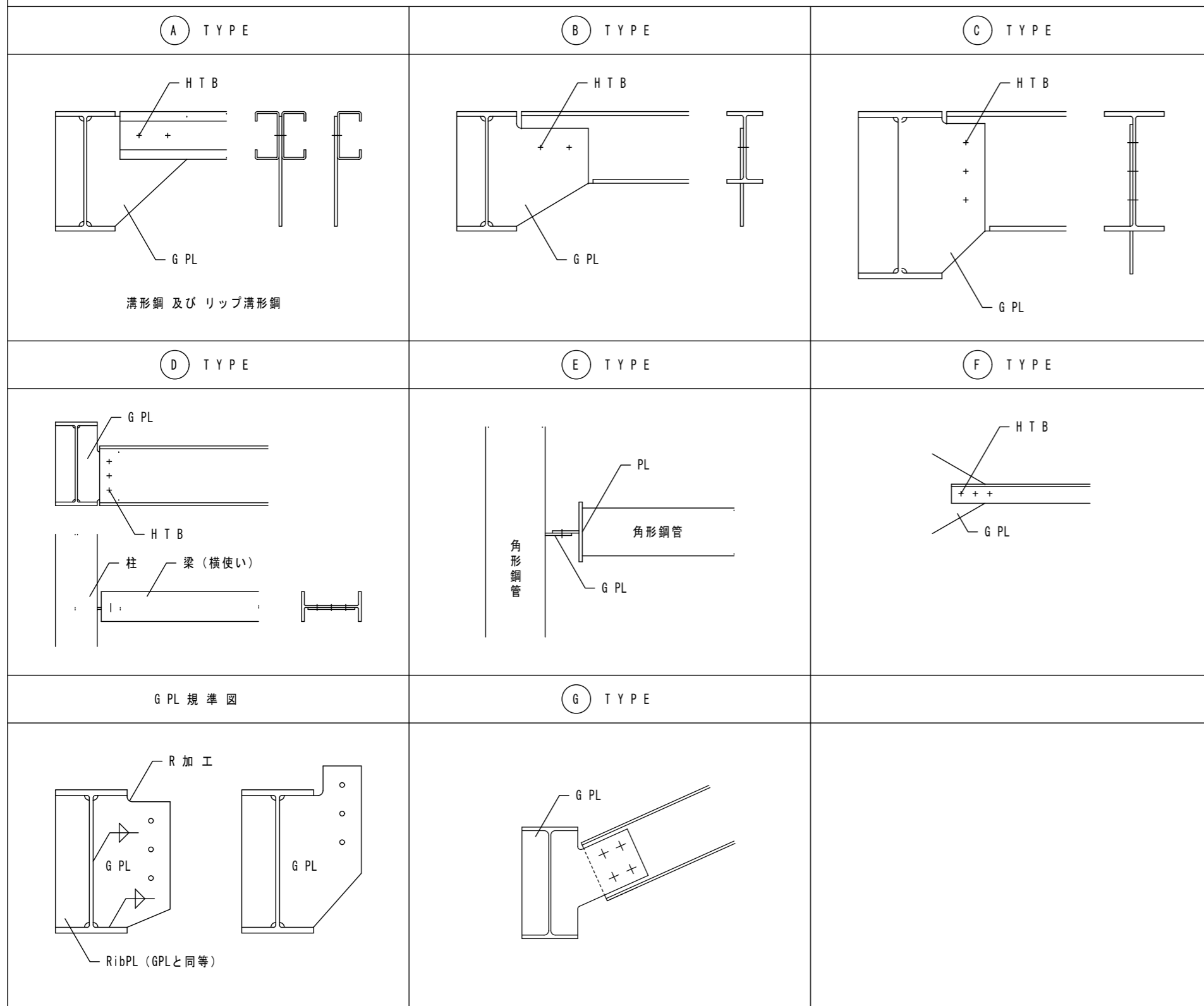
縮尺 A2: 1/100  
A3: -

設計年月 令和8年2月  
図面番号 S-13

鉄骨小梁リスト

共通事項 ※ 鋼材は特記なき限り SN400A とする ※ HTB は F10T (S10T) とする

標準図



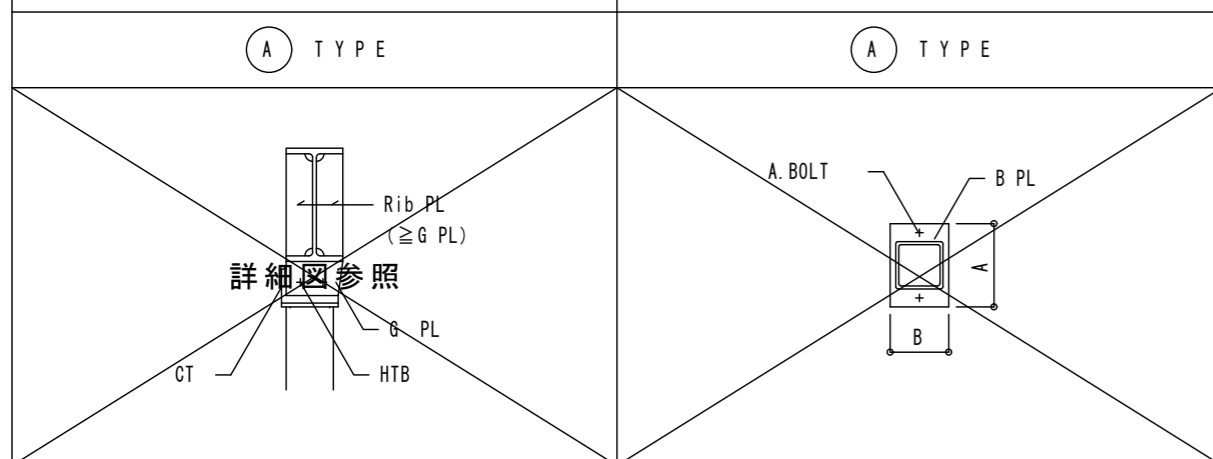
符号	主材	仕口			スタッドジベル			備考
		TYPE	G PL	HTB	TYPE	径	@	
CG1	H - 350 × 175 × 7 × 11	溶接止め			---	---	---	
B1	H - 300 × 150 × 6.5 × 9	B	9	2 - M 16	---	---	---	SN400B
縦筋線	C-100 × 50 × 20 × 2.3 @606							SSC400

鉄骨間柱リスト

共通事項 ※ 鋼材は特記なき限り SS400, SSC400, STKR400 とする ※ HTB は F10T (S10T) とする

仕口標準図

1階柱脚標準図



符号	主材	仕口			1階柱脚				備考	
		TYPE	G PL	HTB	TYPE	B PL PL - t × A × B	A . BOLT	Rib PL PL - t × h		g
P	□-100 × 100 × 3.2				A	PL-6 SN400A	2-M12			A . BTは定着20d以上フック付きダブルナット締め



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称

令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事

図名

鉄骨小梁・間柱リスト

設計

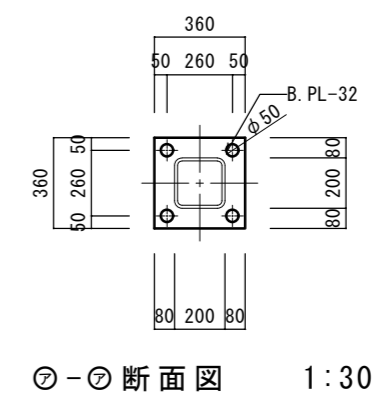
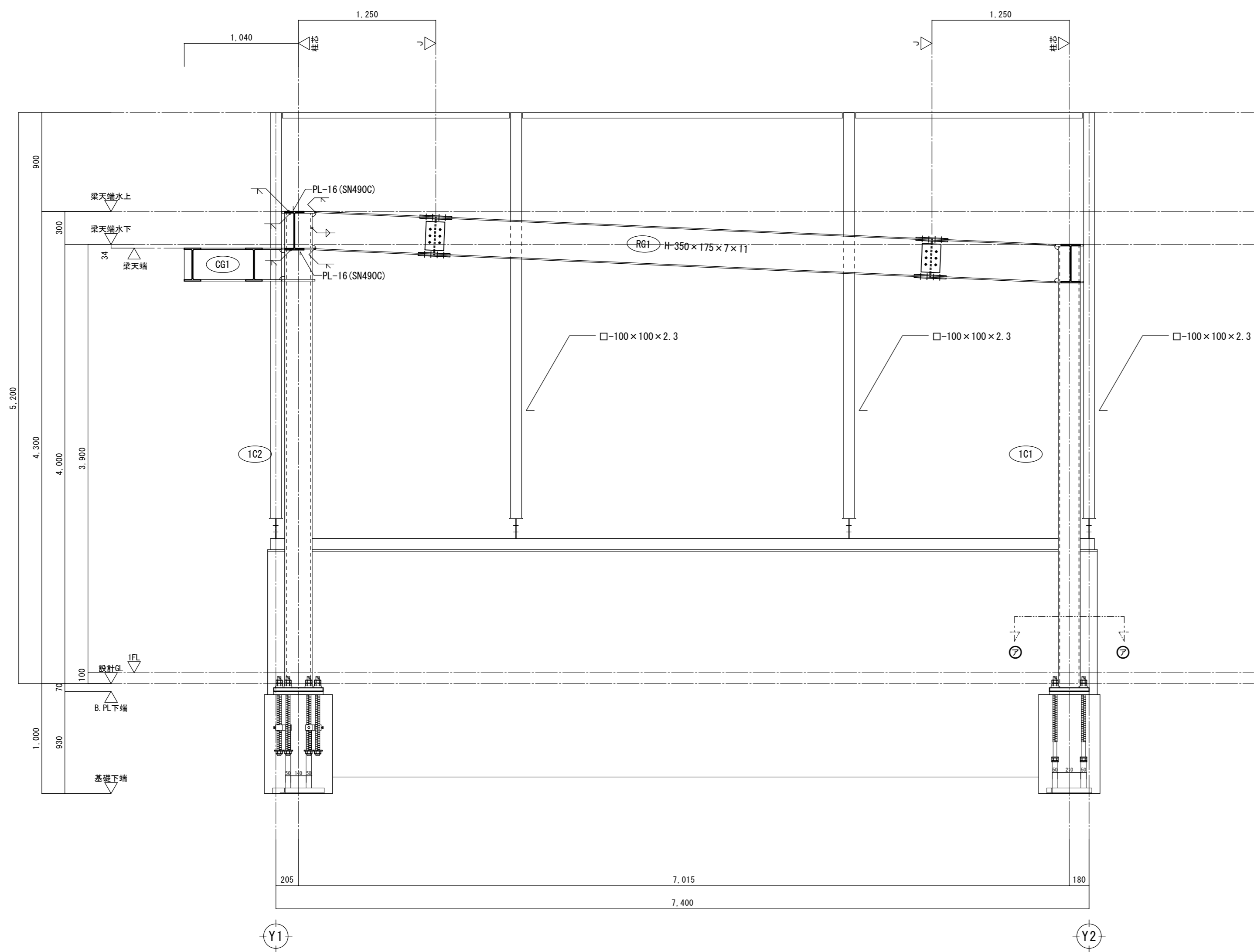
柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号

縮尺


A2 : -  
A3 : -

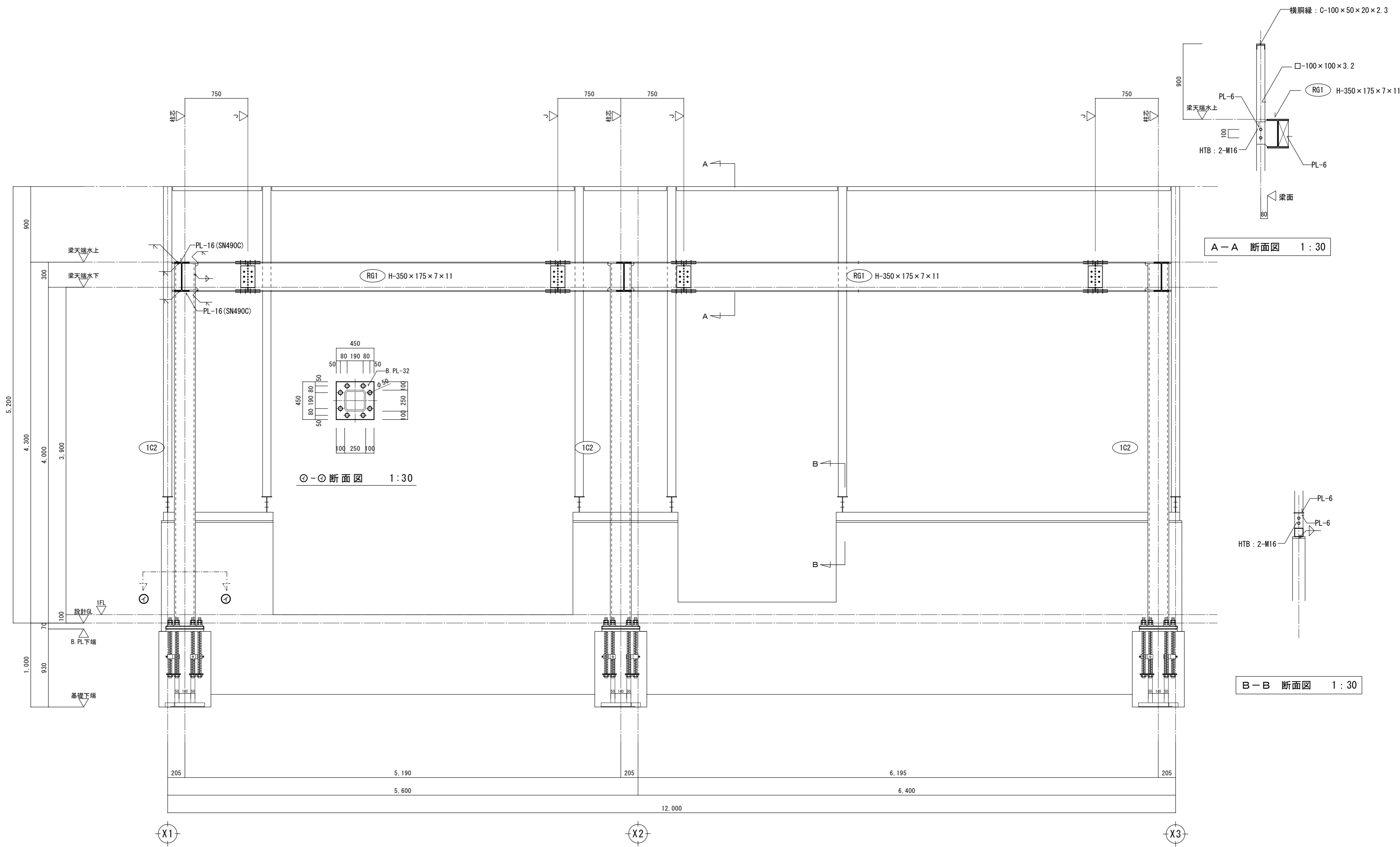
設計年月  
令和8年2月

図面番号  
S - 1 4



X 1 通架構図 1:30

	 <b>株式会社 東亜設計</b> 一級建築士事務所	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
			図名	架構図-1	縮尺	A2: 1/30 A3: -	図面番号	S-15




Y 1 通架構図 1:30

A-A 断面図 1:30

B-B 断面図 1:30

C-C 断面図 1:30

	 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
			図名	架構図-2	縮尺	A2: 1/30 A3: -	図面番号	S-16

電気設備工事特記仕様書 No. 1

【工事概要】

- 1 工事場所 京都府船井郡京丹波町下山丸丸1 8番地1
2 建物概要

Table with columns: 建物名, 構造, 階数, 延床面積(m²), 消防法令別第一耐震安全性の分類, 備考. Includes entries for 消防詰所 and 地上1階.

3 工事科目 ●印をついたものを適用し、各一式とする。

Table with columns: 工事科目, 建物名称, 消防詰所. Lists various equipment like 電灯設備, 動力設備, 雷保護設備, etc.

【特記事項】

- 1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)令和7年版」(以下、「標準仕様書」という。)...
2) 工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。

Main specification table with columns: 章, 項目, 特記事項. Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.

Main specification table with columns: 章, 項目, 特記事項. Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.

Main specification table with columns: 章, 項目, 特記事項. Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.



株式会社東亜設計
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝
1級建築士 登録第245376号

工事名称
令和7年度 京丹波町消防団丹波支団
第7分団第2部消防詰所建築工事

図名
電気設備工事特記仕様書 No.1

縮尺
A2: -
A3: -

設計
柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号
構造設計一級建築士 登録第7060号

設計年月
令和8年2月
図面番号
E-01

電気設備工事特記仕様書 No.2

章	項目	特記事項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過電圧防止保護装置(直流不足電圧継電器)の設定電圧は、90Vとする。
発電	○交流無停電電源装置(UPS)	用途 ( ) 方式 ○一般形 ○簡易形
	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル
電機設備	○連続運転可能時間	○10時間(乙) ○72時間(甲) ○
	○発電機	電気方式 三相3線式 電圧 ○210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 率率 0.8
燃料	○原動機	種別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション 定格出力 kW(PS)以上 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水槽循環式 現地負荷試験 ○行方 ○行わない
	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス( ) ○燃料小出槽 ○主燃料槽
監視方式	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視
	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 公称最大出力 kW以上 設置可能建築面積 m <sup>2</sup> 以下(長辺 m×短辺 m) 系統連系 ○受動 ○能動 パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆流 ○有 ※無 交流出力電圧 ○100V ○200V 出力電気方式 ○三相3線式 ○単相3線式 ○単相2線式
通信設備	○外部移報	○有 ○無
	●工事範囲	●配管 ○配線 ○機器取付
橋内交換設備	●施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
	○工事範囲	●配管 ○配線 ○機器取付
情報表示設備	○保安器用接地	○●本工事 ○別途工事
	○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置
映像音響	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
拡声設備	○親時計及び付属装置	OCR -P M OCW -P M ○プログラムタイマ(○カード式 ○キー式 ○)
	○子時計	特記なきものは ○SWA <sub>33</sub> -G <sub>2</sub> ○
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○増幅器	用途 ○全館放送用(○一般放送 ○非常放送) ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
テレビ共同受信設備	○スピーカー	特記なきものは ○SC <sub>6</sub> H <sub>1</sub> -1V <sub>3</sub> -M ○
	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付
テレビ共同受信設備	●工事内容	○音声誘導装置 核出方式 (○磁気式 ○無線式 ○画像認識) ○インターホン ○電話式 ○相互式 ●テレビインターホン ○銅板に子機カメラ角度調整機能(上下)を設ける。 ●トイレ等呼出し装置 ●1窓 ○3窓 ○5窓 ○ 呼出しボタン ●壁付ボタン(フルスイッチの長さは0.5m程度とする) ○壁付握りボタン(握りボタンの長さは1.2m程度とする) ○通話機能 ○受付呼出し装置 ○誘導音
	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付
テレビ共同受信設備	○アンテナ	○UHF用 ○BS用 ○CS用 ○AM用 ○FM用 ○CATV
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼管 ○一般構造用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ) ○圧力配管用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ)
テレビ共同受信設備	○電界強度測定	電界強度及び面質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。

章	項目	特記事項
監視カメラ	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付
	●画像	●カラー ○白黒
監視カメラ	●伝送方式	○ネットワーク伝送方式 ○デジタル同軸伝送方式 ○
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
監視カメラ	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
監視カメラ	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯装置 ○入退室管理制御装置
	●自動火災報知装置	●工事範囲 ○配管 ○配線 ●機器取付(住宅用火災警報器) ○受信機 ○形 級 回線 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 ○窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。 ○光警報装置 ○ ○消火ポンプ始動 ○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける。) ○機器収容箱 ○消火栓一体形 ○単独形 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○運動制御器 回線 【予備電源(蓄電池)内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体 ○自動閉鎖装置 ○防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構(電動式) DC24V 0.7A以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 DC24V 0.6A以下】 ○非常警報装置 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ○電源装置 ○非常電源(蓄電池) ○自動火災報知設備と兼用 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体 ○ガスの種類 ○都市ガス(13A) ○液化石油ガス
火災報知設備	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓(窓)を設ける。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
中央監視	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
医療関係設備	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○鋼製 ○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の 呼出しボタン ○有線式 ○無線式 ○防滴 ○防湿 ○その他 ○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
構内配線	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○電気方式	高圧 三相3線式 6kV 低圧 三相3線式 200V ○ 単相3線式 100/200V 単2線式 (○100V ○200V)
構内配線	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管(FEP) ○ポリエチレン被覆管(PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装下面)から300mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○適心カプレストレストコンクリートポール
	○区分開閉器	○高圧負荷開閉器 7.2kV 300A 用途 ○架空引込用 ○地中引込用 構 形 ○前中埋じん用 ○前重埋じん用 形式 ○引外し装置付き(SOG形) ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
線路	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合は、接地を省略してもよい。
	○高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはEM-高圧架橋ポリエチレンケーブルは、JCS 4395「6600V 架橋ポリエチレンケーブル(3層押出型)」に(※よる ○よらない) 高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。 ○余長 ○端子、高圧ケーブル ○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用
線路	○避雷器	○屋外形 ○耐塩形
	○装柱材	○一般用 ○耐塩形
線路	○外灯	基礎 ○本工事 ○別途工事 ○外灯ポールの材質が鋼製(SPC)の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
構内通信線	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管(FEP) ○ポリエチレン被覆管(PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装(表層)下面)から300mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○適心カプレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は通信とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合は、接地を省略してもよい。

章	項目	特記事項
電気設備検査	○調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	○工事前 ○工事中 ○完成後
	○測定箇所	箇所
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表 1 付属品・予備品

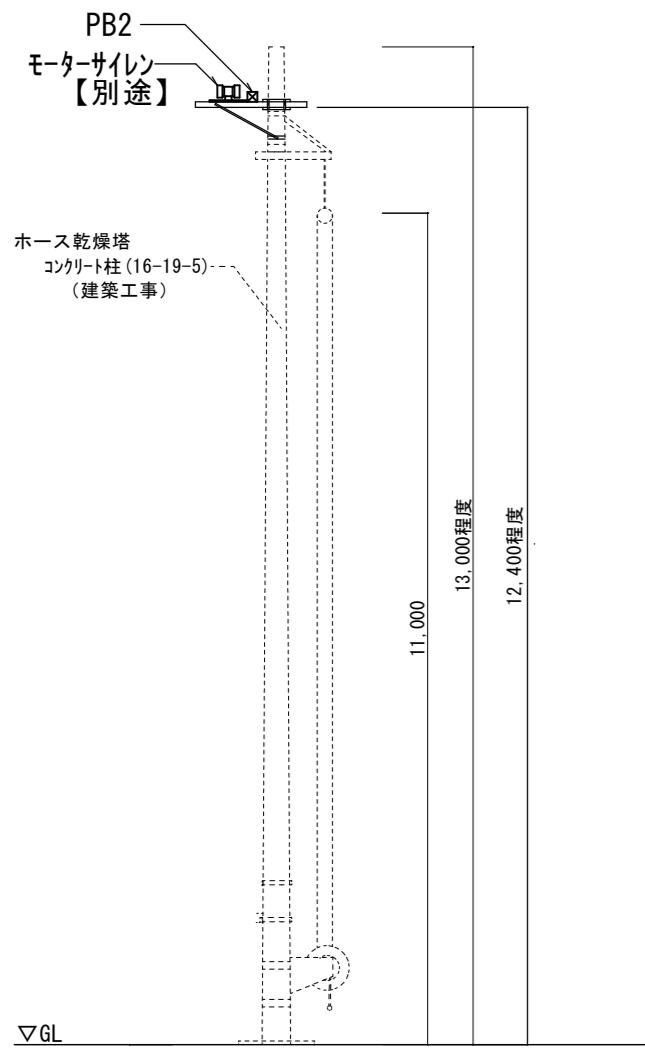
○イージーキャビネット	箱 ○キーボックス ○テスター ○マンホールフック
○工具箱(ドライバ、モンキーレンチ、組立パナー、ハンマー)	
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。



株式会社 東亜設計  
一級建築士事務所

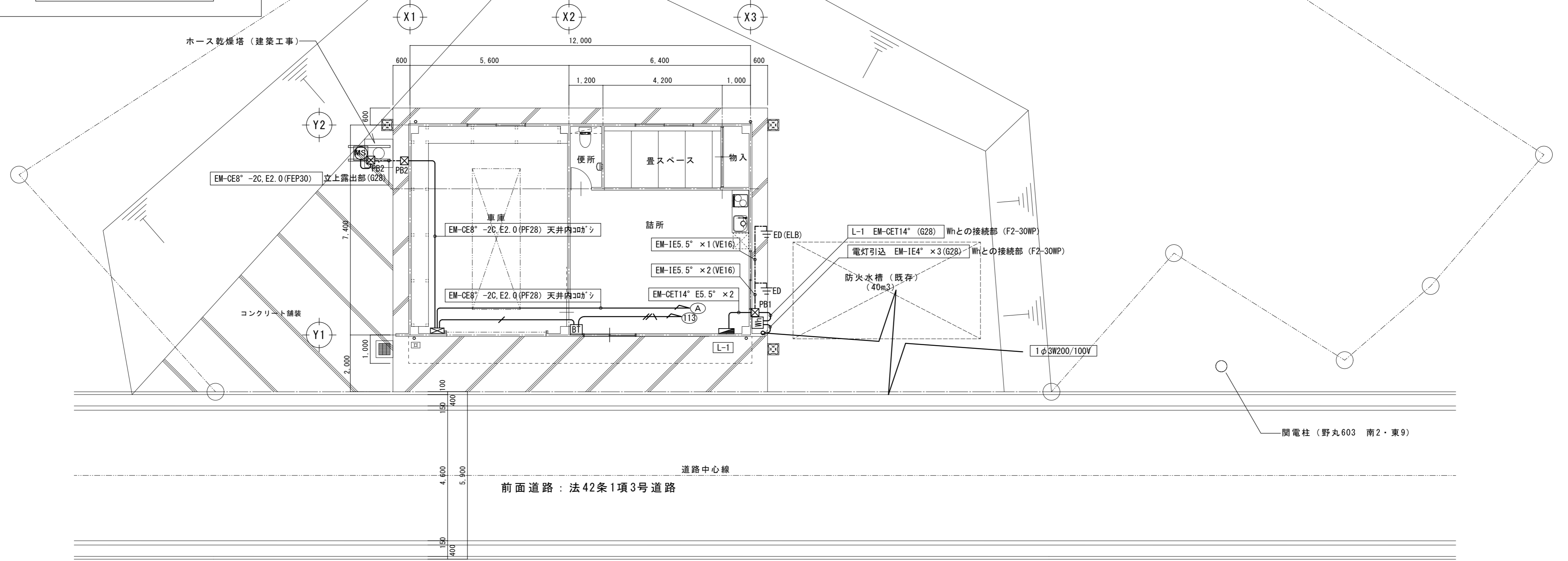
管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
図名	電気設備工事特記仕様書 No.2	縮尺	A2: - A3: -	図面番号	E-02

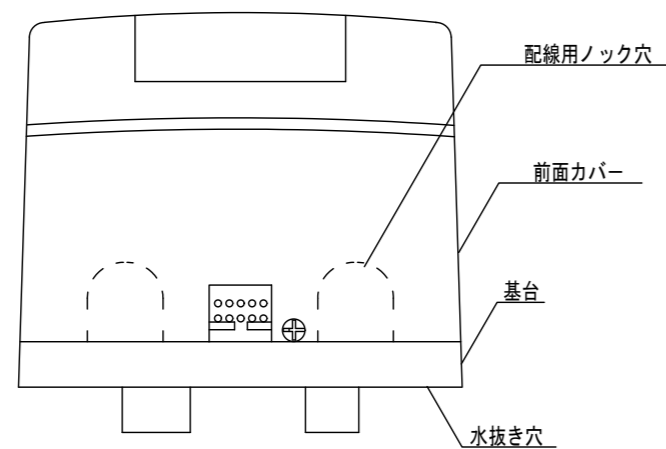
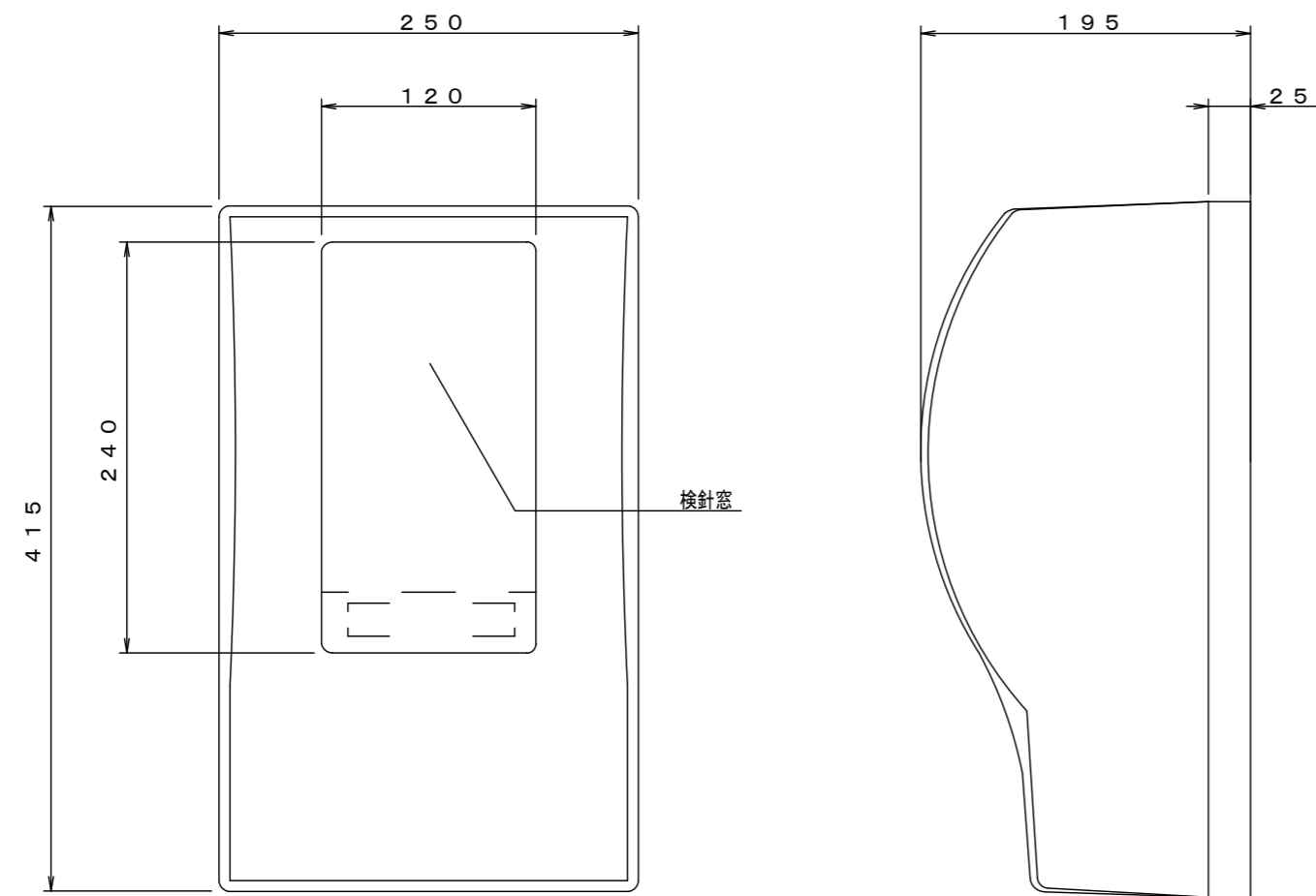


モーターサイレン設置位置図 S=1/100

凡 例		
記号	名称	仕様
Wh	積算電力量計箱	1φ3W120A用 1個用
■	電灯分電盤	結線図参照
⊠	モーターサイレン制御盤	仕様図参照【別途】
BT	ベルタイマー	仕様図参照【別途】
MS	モーターサイレン	仕様図参照【別途】
ED	D種接地工事	銅覆鋼棒14φ×1.5m 接地極埋設標取付のこと
ED(ELB)	D種接地工事(ELB用)	銅覆鋼棒14φ×1.5m 接地極埋設標取付のこと
PB1	ブルボックス	200×200×150ステン製防水形 接地端子付
PB2	ブルボックス	150×150×100ステン製防水形 接地端子付
—	ケーブル配線	EM-EEF2.0-3C(内1芯7-ス) (PF22) 天井内はケーブル用コナシ
—	ケーブル配線	EM-CEE2°-2C (PF16) 天井内はケーブル用コナシ

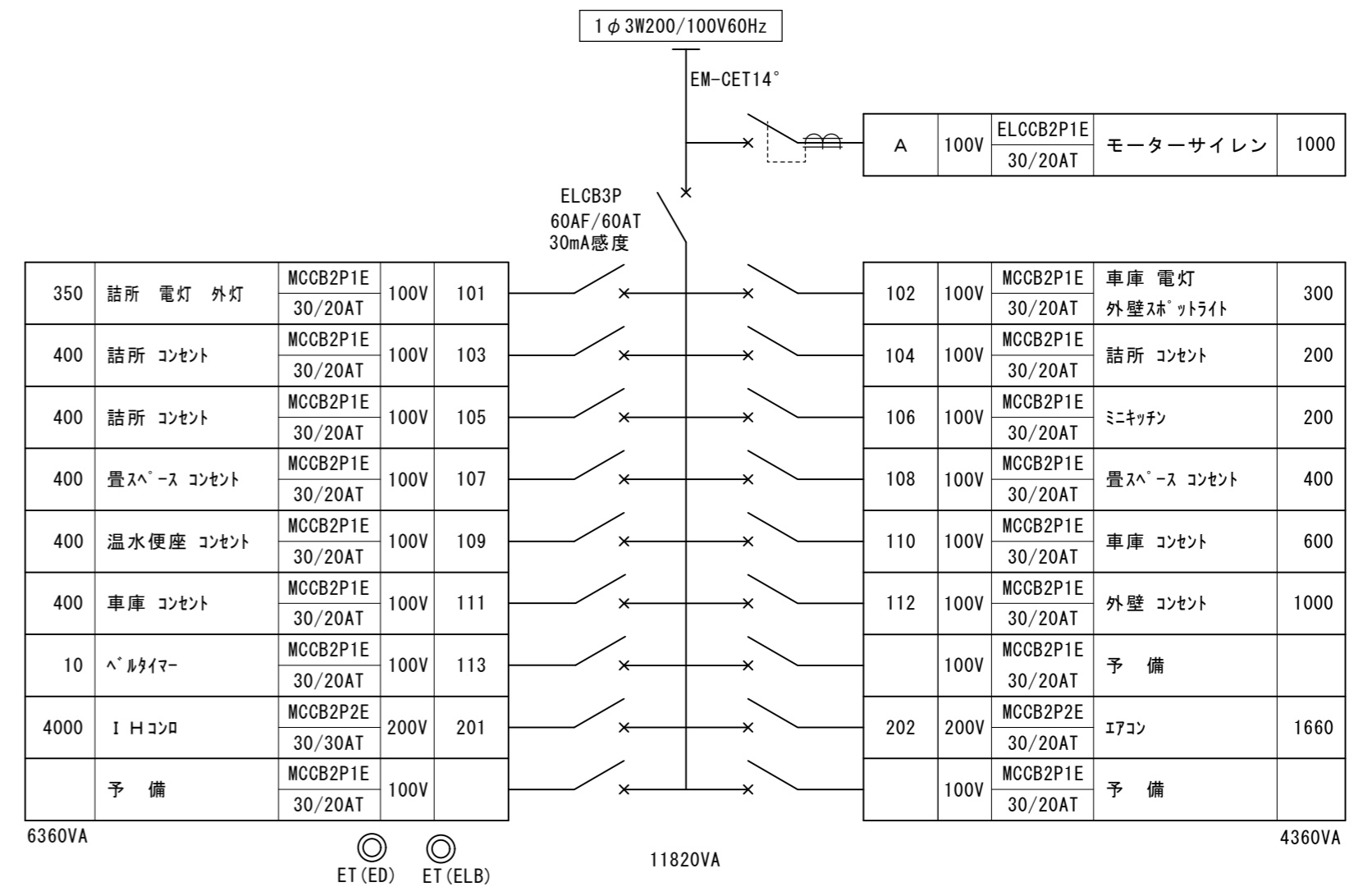


配置図兼1階平面図 1:100

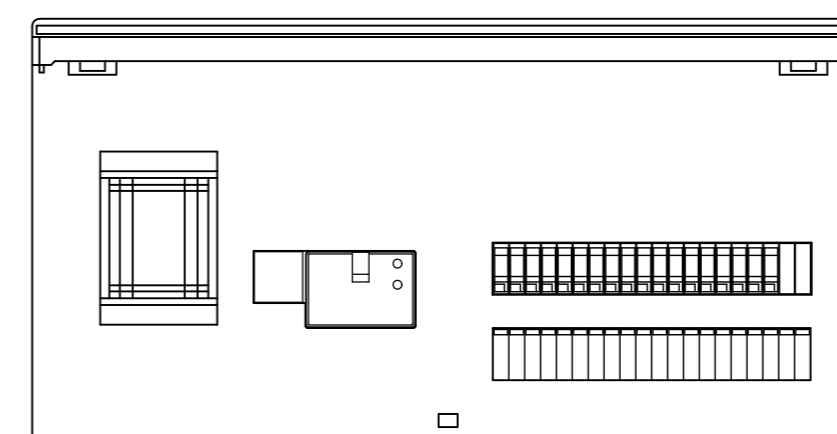
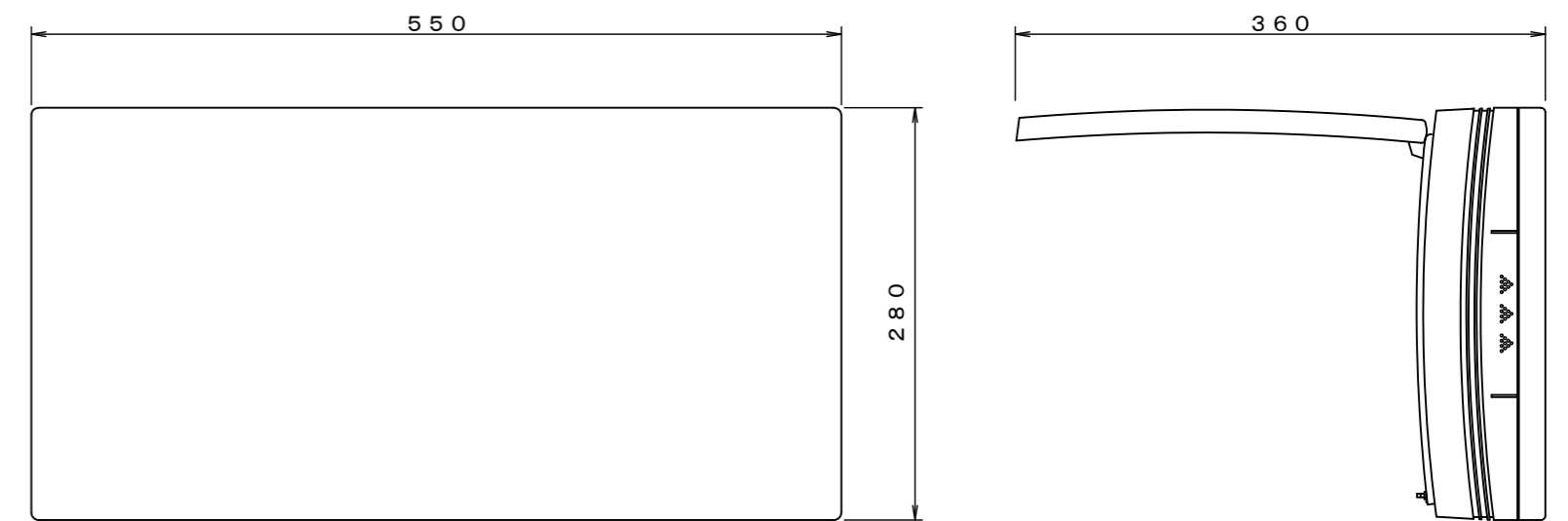


プラスチック製, 屋外形  
 参考品番 BQKR 8314AK (パナソニック)  
 MX0 131DBRN (河村電器)

積算電力量計箱 参考姿図



電灯分電盤 L-1 結線図



プラスチック製, 屋内露出形フタ付  
 参考品番 BQRF 86182 組替 (パナソニック)  
 ELEA 7182 組替 (河村電器)

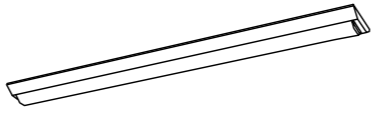
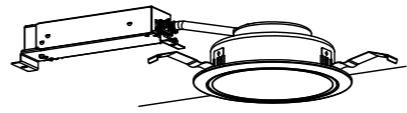
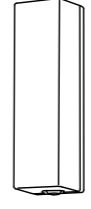
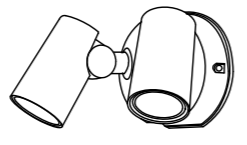
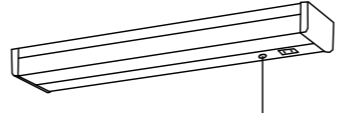
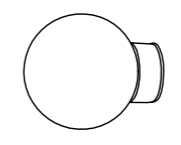
電灯分電盤 L-1 参考姿図



株式会社東亜設計  
 一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
 1級建築士 登録第245376号

工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築物	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
図名	分電盤結線図	縮尺	A2: - A3: -	図面番号	E-04

<p>A448 LEDベースライト 直付型 40形 W150 5200lmタイプ 昼白色 (5000K)</p> <p>9 台</p>  <p>公共施設型番 LSS9-4-48</p>	<p>B113 LEDダウンライト 埋込穴150φ 1300lm以上 昼白色 (5000K)</p> <p>1 台</p>  <p>公共施設型番 LRS1-13</p>	<p>C213 LEDポーチライト 壁直付防雨型 明るさセンサー付 60形電球1灯相当 昼白色 (5000K)</p> <p>2 台</p>  <p>参考品番 東芝ライテック LEDB-88931Y パナソニック LGWC80290LE1</p>
<p>D602 LED球ライト 壁直付防雨型 60形電球2灯相当 昼白色 (5000K)</p> <p>1 台</p>  <p>7Wミダライト (オフトラック) 可動範囲上下90度、回転方向180度</p> <p>参考品番 東芝ライテック IB30122 (K) (ヒールランプ 形150W) パナソニック LGW40488LE1</p>	<p>E201 LEDキッチンライト FL20W 1灯相当 昼白色 (5000K)</p> <p>1 台</p>  <p>参考品番 東芝ライテック LEDB-83126 パナソニック LGB52095LE1</p> <p>ブルスイッチ付、両面化粧タイプ</p>	<p>F120 LED赤色表示灯 壁直付防雨型</p> <p>1 台</p> 

モーターサイレン【別途】

参考品番 ハンコク AWN

※寸法値は参考とする

構造	防雨構造
定格	単相100V 50/60Hz
モーター容量	750W (消費電力960W)
定格時間	5分間 (最大連続運転時間)
音圧レベル	128 dB (サイレン中心部より1m)
音響周波数	650Hz ± 5%
備考	雑音防止用コンデンサー内蔵 温度ヒューズ内蔵 電柱用取付金物 (サイレン取付板、装柱金物) 一式付

BT ベルタイマー【別途】

参考品番 パナソニック D73

※寸法値は参考とする

定格	AC100V/200V ± 10% 50Hz/60Hz
停電補償時間	800時間以上 (デジタル時計とアナログ時計の駆動のみ その他の機能は停止)
時間精度	水晶発振式 ± 5秒/月 (25℃)
制御出力	2回路独立 無電圧a接出力
プログラム設定	周期: 週間 最大プログラム数: 120プログラム (回路ごと) 最大年間休日設定数: 366日
ケース	ABS樹脂 クールホワイト色塗装

サイレン制御盤【別途】

参考品番 ハンコク TMV-312A

※寸法値は参考とする

構造	屋内壁取付型 鉄製ボックス
定格	単相100V 50/60Hz
適応サイレン	0.75kW
機能	外部起動信号: 無電圧接点入力している間、サイレン起動
	自動起動信号: 無電圧接点 (約1秒パルス) 入力により予め設定されたパターンでサイレン吹鳴
	外部停止信号: 無電圧接点を入力することにより、自動起動時の吹鳴を停止
	手動吹鳴: 盤内実装スイッチを操作することにより吹鳴



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

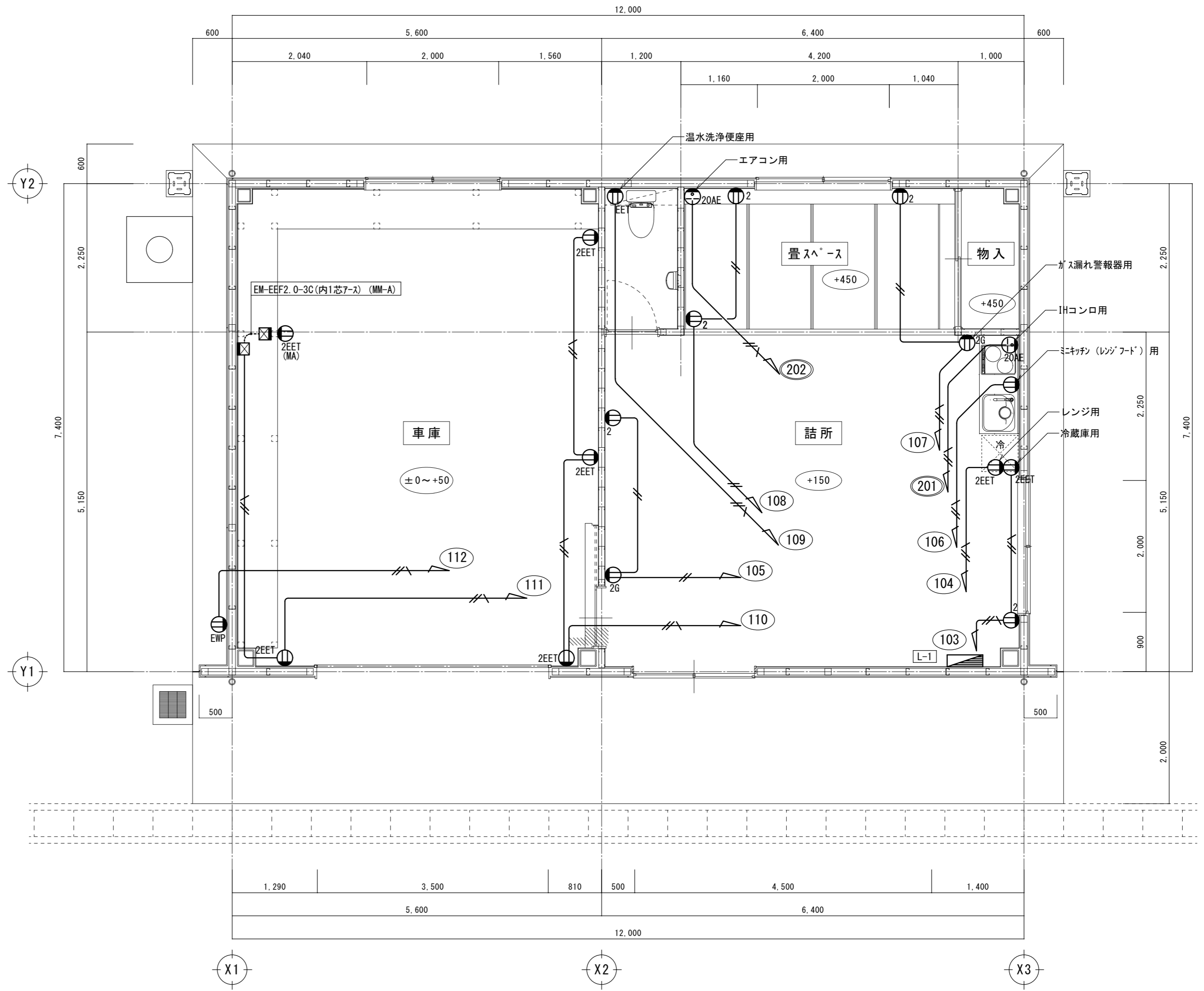
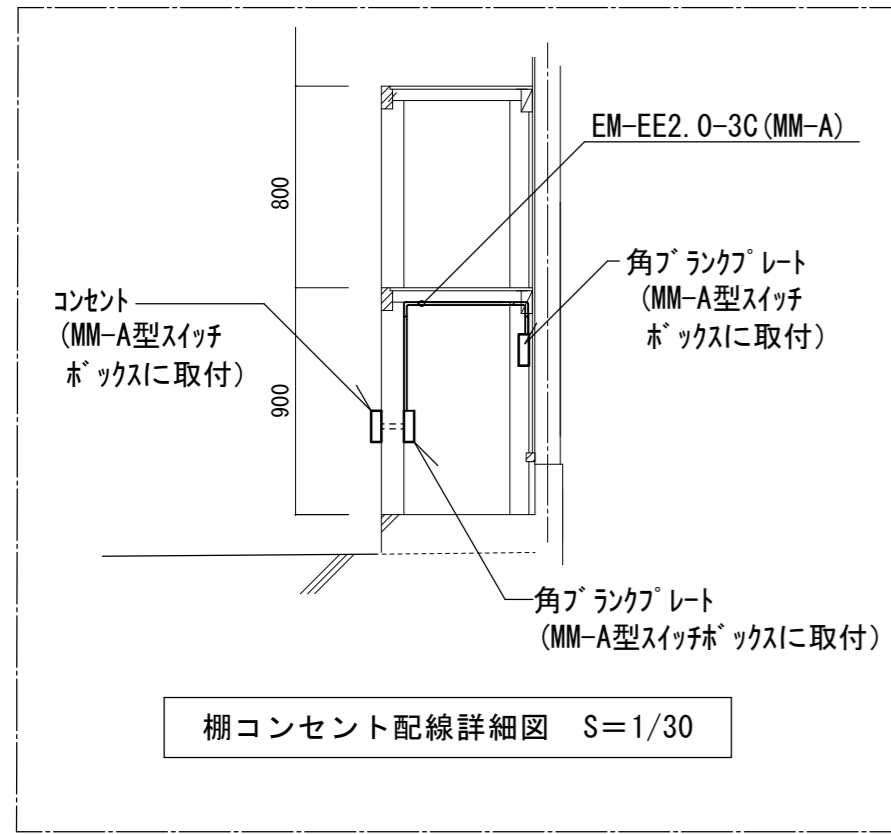
工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事

図名 サイレン設備仕様参考図

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号

縮尺 A2: -  
A3: -

設計年月 令和8年2月  
図面番号 E-06

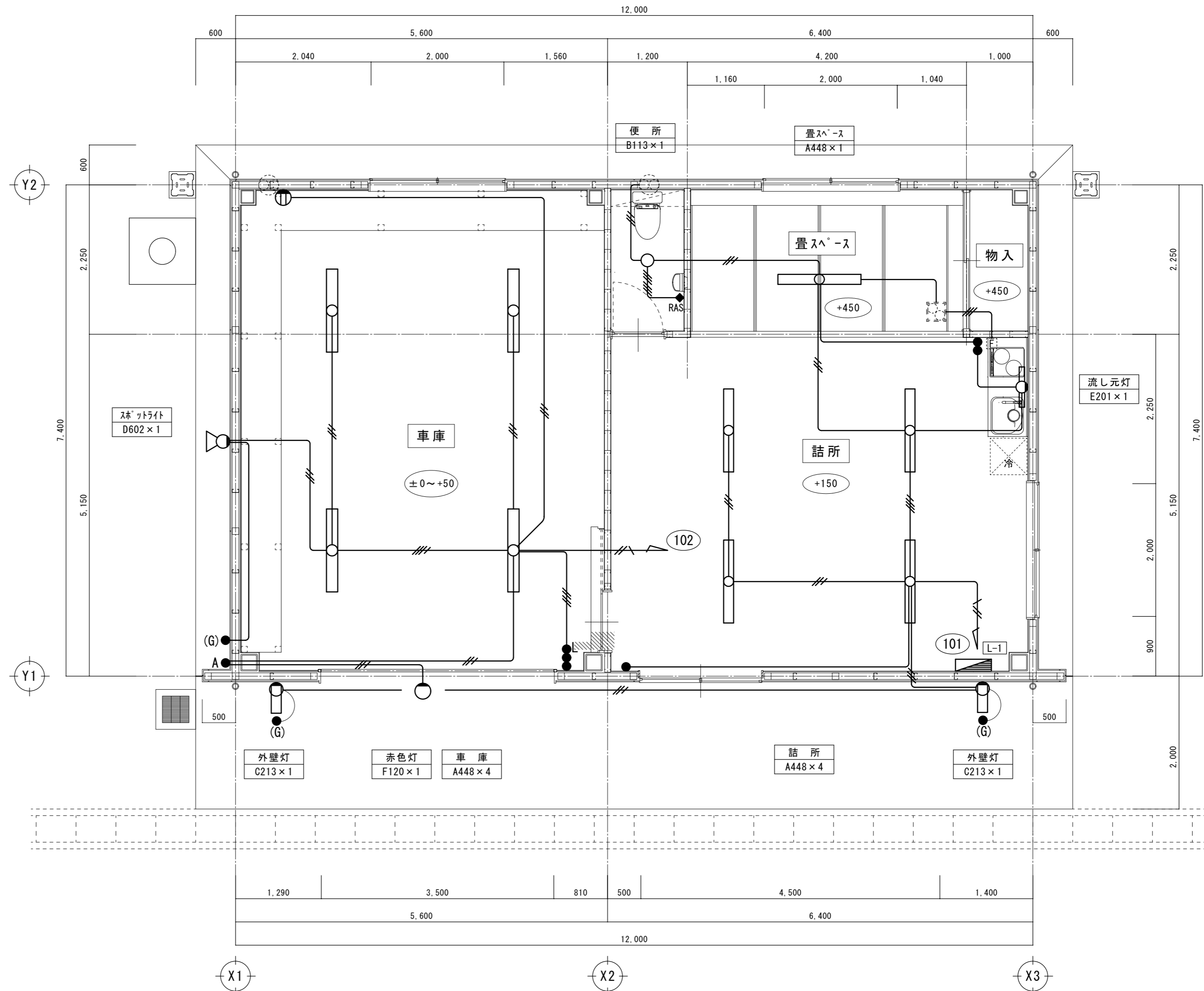


凡 例		
記号	名称	仕様
	分電盤	
	埋込コンセント	2P15A x 1、樹脂プレート共
	埋込コンセント	2P15A x 2、樹脂プレート共
	埋込コンセント	2P15AE x 1、接地端子付、樹脂プレート共
	埋込コンセント	2P15AE x 2、接地端子付、樹脂プレート共
	埋込コンセント	2P15AE x 2、接地端子付、樹脂プレート共、MM-A型ボックス付
	埋込コンセント	2P15A x 2、樹脂プレート共、ガス漏れ警報器用
	埋込コンセント	250V 2P15/20A兼用接地極付、樹脂プレート共
	防水コンセント	2P15AE x 2、接地端子付
	ブランクプレート	角ブランク1ヶ用、樹脂製
	ケーブルいんべい配線	EM-EEF2.0-2C (PF22) 天井内はケーブルボックス
	ケーブルいんべい配線	EM-EEF2.0-3C (内1芯7-ス) (PF22) 天井内はケーブルボックス



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所  
管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称	令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計	柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月	令和8年2月
図名	コンセント設備図	縮尺	A2: 1/50 A3: -	図面番号	E-07



凡 例			
記号	名称	仕様	
	照明器具	天井直付	照明器具参考図参照
	照明器具	壁直付 (横長付け)	照明器具参考図参照
	照明器具	壁直付 (縦長付け)	照明器具参考図参照
	照明器具	スポットライト	照明器具参考図参照
	照明器具	壁直付	照明器具参考図参照
	照明器具	スポットライト	照明器具参考図参照
●	埋込スイッチ	1P15A×1, ネム付 ワイドハット形	
●●	埋込スイッチ	1P15A×2, ネム付 ワイドハット形	
●●●L(4A)	埋込スイッチ	1P15A×2, 1P4APL×1, ネム付 ワイドハット形	
●(G)	埋込スイッチ	1P15A×1, ネム付 ワイドハット形 金属防滴プレート	
●A	自動点滅器	100V3A	
◆RAS	熱線センサー付自動スイッチ	トイレ壁付 換気扇連動用 明るさセンサー付 参考品番WTK1614WK	
⊕	埋込コンセント	2P15A×1, 樹脂プレート共	
	壁パイプファン	機械設備工事	
	換気扇	機械設備工事	
	天井換気扇	機械設備工事	
	換気扇コントローラ	機械設備工事支給品取付	
	ケーブル	EM-EEF2.0-3C(内1芯7-ス)	(PF22)
	ケーブル	EM-EEF1.6-2C	(PF16)
	ケーブル	EM-EEF1.6-3C	(PF22)
	ケーブル	EM-EEF1.6-3C(内1芯7-ス)	(PF22)
	ケーブル	EM-EEF1.6-2C×2(内1芯7-ス)	(PF22)
	ケーブル	EM-EEF1.6-2C×2	(PF22)
	ケーブル	EM-EEF1.6-3C×2	(PF22)

天井内はケーブルコングレガーション



株式会社 東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事

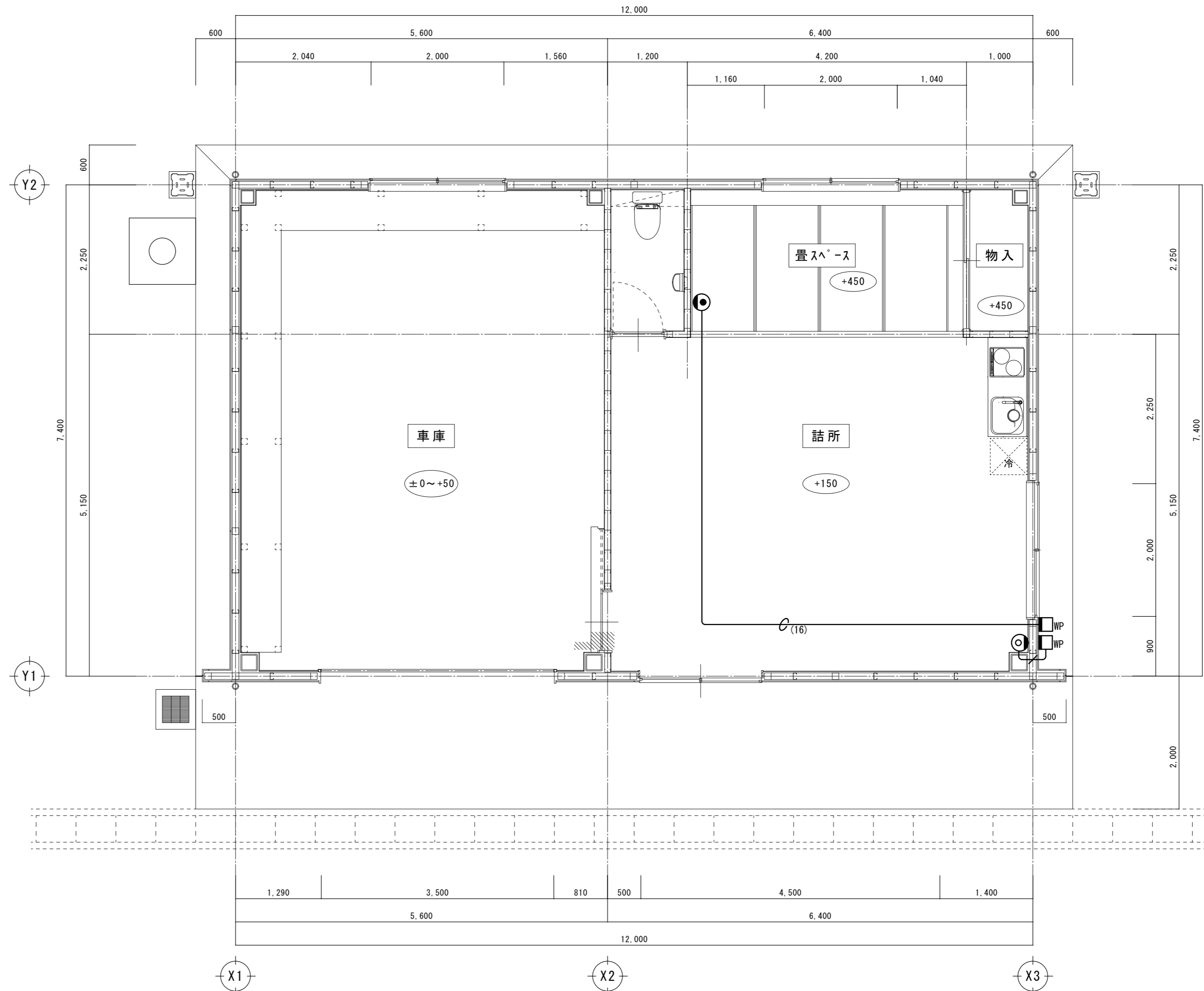
図名 電灯設備図

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号

縮尺 A2: 1/50  
A3: -

設計年月 令和8年2月

図面番号 E-08



凡 例		
記号	名称	仕様
	空配管	いんべい配管 (PF16)
	同軸ケーブル配線	EM-S-5C-FB (PF16)
	防雨入線カバー	
	テレビ受口	テレビ端子
	電話受口	角ブランクプレート用 樹脂製

機械設備工事特記仕様書 No.1

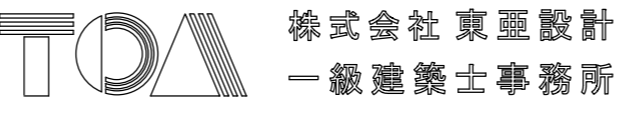
【工事概要】 1 工事場所 京都府船井郡京丹波町下山野丸1 8 番地1 2 建物概要 建物名 構造 階数 延床面積 (m²) 消防法令別表第一耐震安全性の分類 備考

【特記事項】 1 一般事項 1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和七年版」...

Table with 4 columns: 章 (Chapter), 項目 (Item), 特記事項 (Special Notes), 項 (Section). Contains detailed specifications for materials, equipment, and construction methods.

Table with 4 columns: 章 (Chapter), 項目 (Item), 特記事項 (Special Notes), 項 (Section). Contains detailed specifications for equipment, construction methods, and safety measures.

Table with 4 columns: 章 (Chapter), 項目 (Item), 特記事項 (Special Notes), 項 (Section). Contains detailed specifications for ventilation, piping, and electrical equipment.



管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号

工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号

設計年月 令和8年2月 図面番号 M-01

図名 機械設備工事特記仕様書-1

縮尺 A2: - A3: -

機械設備工事特記仕様書 No.2

章	項目	特記事項									
空調設備	鋼板製煙道	厚さ ○3、2mm ○4、5mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手 ○掃除口									
	ばい煙濃度計	○ファン付 ○ファンなし (電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む) ○瞬間流量計 ○固定形 ○着脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)									
換気設備	●保温 (図面特記部分を除く)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 ○不要 ○必要 露出部 ○保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ○ ・屋外 ●ステンレス鋼板 ○保温化粧ケース (樹脂製 ○アルミ合金製 ○ステンレス鋼板製 ○溶融亜鉛メッキ鋼板製) ・保温化粧ケースの下部カバー ○必要 ○不要 2) ファンユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加温用給水水栓の保温は膨張タンクに準ずる。 4) トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。									
	ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法 (○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ●スパイラルダクト									
換気設備	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式									
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 <table border="1"> <tr> <th>ダクトの長辺</th> <th>板厚</th> </tr> <tr> <td>450mm以下</td> <td>0.6mm</td> </tr> <tr> <td>450mmを超え1200mm以下</td> <td>0.8mm</td> </tr> <tr> <td>1200mmを超え1800mm以下</td> <td>1.0mm</td> </tr> <tr> <td>1800mmを超えるもの</td> <td>1.2mm</td> </tr> </table>	ダクトの長辺	板厚	450mm以下	0.6mm	450mmを超え1200mm以下	0.8mm	1200mmを超え1800mm以下	1.0mm	1800mmを超えるもの
ダクトの長辺	板厚										
450mm以下	0.6mm										
450mmを超え1200mm以下	0.8mm										
1200mmを超え1800mm以下	1.0mm										
1800mmを超えるもの	1.2mm										
換気設備	○排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ○ステンレス鋼板 (補強共) ○亜鉛鉄板 2) 排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの予備 ○不要 ○必要									
	○保温	浴室・厨房 (多湿箇所) の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。									
排煙設備	○排煙対象部分	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m <sup>2</sup>									
	○ダクトの種類	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト									
排煙設備	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法									
	○ダクトの材料	○亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製									
排煙設備	○排煙口	1) 形状 ○スリットフェース形 ○パネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式 4) ダンパー本体及び操作箱との選り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。									
	○保温	床下及び暗渠内の保温 ○不要 ○必要 (図示) ※図面による。									
自動制御設備	○小使器具節水装置	電気供給方式 ○A.C電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池									
	○自動水栓	電気供給方式 ○A.C電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池 手動スイッチ ○無し ○有り									
衛生器具設備	●大便器用洗浄弁	操作方式 ●手動式 ○電気閉閉式 (○センサー式 ○タッチスイッチ式)									
	○水石けり入れ	○手洗器一体型 ○手洗器分離型									
給水設備	○身障者用器具	1) 大便器洗浄弁 ○センサー式 ○タッチスイッチ式 ○レバー式 2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。									
	●給水方式	●水道直結方式 ○高置タンク方式 ○増圧ポンプ方式 (水道用直結加圧形ポンプユニット) ○ポンプ直送方式 (小型給水ポンプユニット)									
給水設備	●配管材料 (図面特記部分を除く)	一般配管 ○ステンレス鋼管 (SUS304) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ●ビニル管 (H1VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管 (SGP-PA, SGP-FPA) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA) ○ 地中配管〔屋内〕 ○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50φ以下) (※2種 ○1種) (ポリエチレン管の接合方法は○電気融着 ○メカニカル) ●ビニル管 (H1VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管 (SGP-PD, SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD, SGP-FVD) ○ 地中配管〔屋外〕 ○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50φ以下) (※2種 ○1種) ●ビニル管 (H1VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管 (SGP-PD, SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD, SGP-FVD) ○									
	○緊急遮断弁装置	○要 ○不要 駆動方式 ○電気式 ○機械式									
給水設備	●量水器	●現地表示式 (直読式) ○遠隔表示式									

章	項目	特記事項
給水設備	○水栓柱	○合成樹脂製 (70×70×1300H) ○ステンレス製 ( ) ○アルミニウム合金製 ( ) 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。
	●管の埋設深さ	1) 一般敷地 ○300mm ●600mm 2) 構内車両通路 ●600mm ○ 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。
給水設備	●加入金・負担金	○不要 ●必要 (●別途 ○本工事)
	●本管引込工事	●本工事 ○別途工事
排水設備	●排水方式	汚水と雑排水 [屋内] ●分流式 ○合流式 汚水・雑排水と雨水 [屋外] ○分流式 ○合流式 ポンプ排水 ○有り (○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽2次側) ●なし
	●放流式	汚水 ●直放流下水管 ○浄化槽 ○ 雑排水 ●直放流下水管 ○浄化槽 ○別途樹・側溝 雨水ポンプアップ ○直放流下水管 ○雨水側溝 ○雨水樹 湧水ポンプアップ ○直放流下水管 ○雨水側溝 ○雨水樹
排水設備	●配管材料 (図面特記部分を除く)	屋内雑排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ●ビニル管 (VP) ○耐火二層管 ○ 屋内汚水排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ●ビニル管 (VP) ○RF-VP ○耐火二層管 ○
	通気管	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ●ビニル管 (VP) ○耐火二層管 ○
排水設備	地中配管〔屋内〕	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ●ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○
	地中配管〔屋外〕	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ●ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○コンクリート管
排水設備	鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA) (地中配管はSGP-VD, SGP-FVD) とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。	
	○漏水試験継手	○必要 (図示箇所に取付ける) ○不要
給湯設備	○負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事
給湯設備	○給湯方式	○中央式 ○局部式
	○配管材料	○鋼管 (壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) ○ステンレス鋼管 ○耐熱性塩ビライニング鋼管 ○保温付被覆鋼管
給湯設備	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2、3.5による。
	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火 ( ) ○連結送水管 ○
消火設備	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。
	○配管材料 (図面特記部分を除く)	一般配管 ○配管用炭素鋼管 (白) ○圧力配管用炭素鋼管 (白) ○
消火設備	○保温	屋内外地中配管 ○外面被覆鋼管 (SGP-VS) 消火用充水タンクの保温を ○施工する (膨張タンクによる) ○施工しない 消火用呼水タンクの保温を ○施工しない ○施工する (膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる) 屋内露出管の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる) トレンチ内の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる)
	●ガスの種類	○都市ガス (発熱量 ○45,000kJ/N m <sup>3</sup> ○ KJ/N m <sup>3</sup> ) ●液化石油ガス (○50kg 本立 ○20kg 本立)
ガス設備	●ガスメーター	親メーター ○貸与品 ○購入 子メーター ○購入 ○貸与品 計量方式 (○直読式 ○パルス式)
	●配管材料 (図面特記部分を除く)	一般配管 ●配管用炭素鋼管 (白) ○ 屋内外地中配管 ●ポリエチレン被覆鋼管 ○ガス用ポリエチレン管 ○ 都市ガスの場合は、供給者仕様による。
ガス設備	●地中埋設管の接合法	○SGM工法 ○ネジ工法 ●PE管工法
	○ピット内施工法	○溶接工法
ガス設備	○負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事
設く井	○掘削工法	○パーカッション式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式
	○ケーシング材質	深度 ( ) m ○配管用炭素鋼管 (黒管) ○配管用ステンレス鋼管

章	項目	特記事項
井設備	○掘削工法	○回転掘削式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式 ○ロータリーパーカッション式
	○中熱交換	
設備	○設置機器	安全装置の適用は図面による。
	○浄化槽設備	○形式 ○ユニット形 ○現場施工形 ○処理方法 ○小規模合併処理 (別紙参照) ○合併処理 (別紙参照)
設備	○医療ガス	※図面による。

別表 1 付属品・予備品

○工具箱 (ドライバ、モンキーレンチ、組スパー、ハンマー)	
○マンホールフック ○パイプレンチ ○ポンプブレイヤー ○ラバーカップ (大、小)	
○イージーキャビネット 箱 ○キーボックス	
○盤類予備品 (ランプ及びビュースの100%)	

空調設備・機器表

記号	名称	仕様	台数	電源・消費電力			備考	
				φ	V	(冷)		
						W		
RAC-1 (既設品再取付)	空冷ヒートポンプ式 ルームエアコン	型式: 壁掛形 冷房能力: 4.0(0.8~4.3)kW 暖房能力: 5.0(0.8~7.3)kW 圧縮機: 1100W 送風機: 室内送風機:40W 室外送風機:50W 付属品: ワイヤレスリモコン	1	1	200	1660	1480	溶融亜鉛メッキ架台 300H  コンクリート基礎 1000×550×200H

既設ルームエアコン取外しは本工事とする。

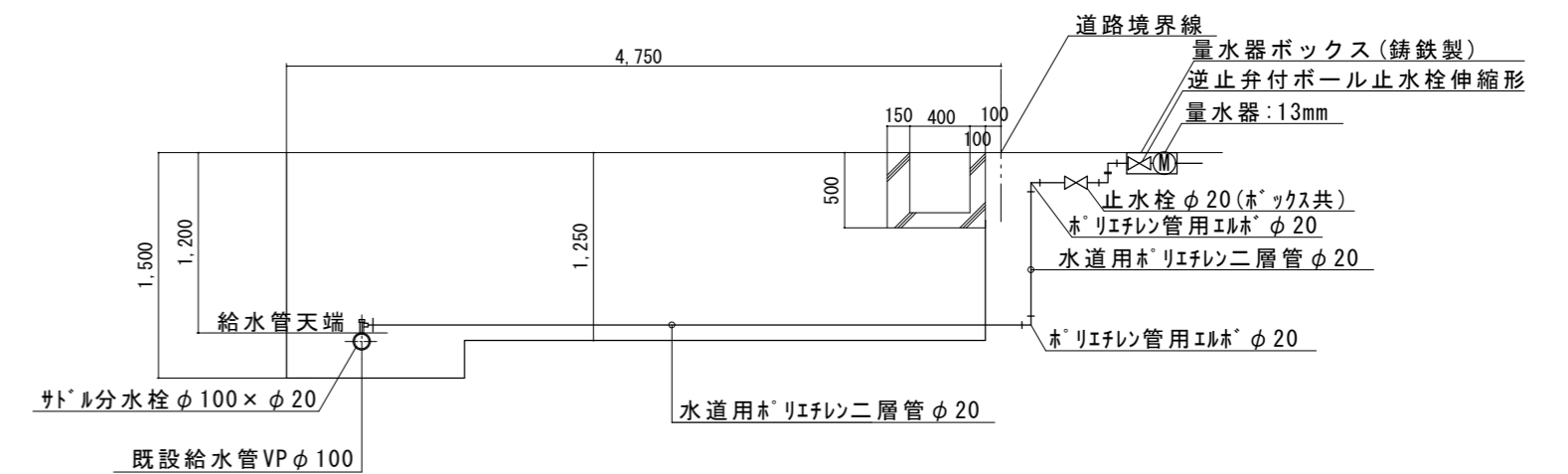
換気設備・機器表

記号	名称	仕様	台数	電源・消費電力			備考
				φ	V	W	
						W	
FE-1 【別途】	有圧換気扇	型式: 低騒音形・排気タイプ 風量: 30cm×1250m <sup>3</sup> /h×30Pa 付属品: 木枠、電動式シャッター 排気形標準ステンレス製ウエザーカバー・防鳥網、バックガード	1	1	100	50	
FE-2	天井換気扇	型式: 低騒音形・インテリア格子タイプ・24時間換気機能付 風量: 200φ×420/75m <sup>3</sup> /h×50Pa 付属品: コントロールスイッチ、天吊金具 ステンレス製深形フード・ギャラリ付:150φ	1	1	100	64.5	
FE-3	パイプ用ファン	型式: 角形格子グリル・電源コード直付け 風量: 80φ×70m <sup>3</sup> /h×15Pa 付属品: パイプスリーブ、 ステンレス製深形フード・ギャラリ付:100φ	1	1	100	4.7	
OAG	給気グリル	型式: 角形・樹脂製・風量調節機構・フィルター付:200φ 付属品: ステンレス製深形フード・ギャラリ付:200φ	1				

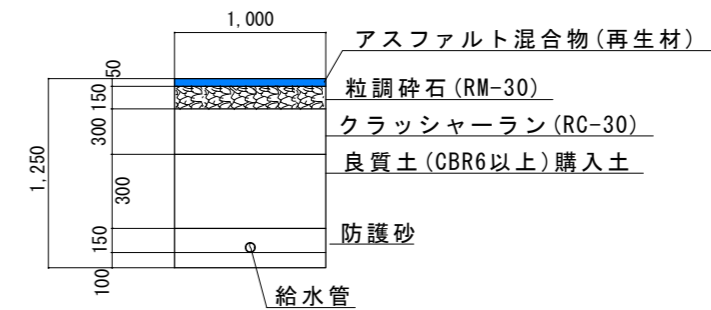
衛生設備・器具表

【注記】衛生器具の品番は、便宜上TOTO(株)による。

品名	品番	付属品	数量
床置床排水大便器	CS597BS	SH596BAR、TCF5514、YH702 電源:1φ-100V・314W	1
壁埋込手洗器	L570	TL579AFN(自閉式)、TL590BS、T4BD8U、TL593D、HK593	1
化粧鏡	YM3545A		1
横水栓	T131SUN13C		1
止水栓	TLC4A1		1
床排水金物	T3A-50		1
床上掃除口	COA-50		1
ガス湯沸器	近接設置壁掛式5号	元止め式、LPGガス消費量:10.5kW	1
可とう管コック	15A	強化ガスホース:200L	1
壁用ボックスコック	15A		2



給水引込み掘削断面参考図 S=1/50



舗装復旧断面参考図 S=1/50

	7	6	5	4	3	2
樹管距離		7.5m	4.4m	5.3m	5.3m	0.8m
材質・口径		VP100	VP100	VP100	VP100	VP100
勾配		1/50	1/50	1/50	1/50	1/50
地盤高さ	0	0	0	0	0	0
土かぶり	-730	-570	-470	-350	-230	-200
管底高	-830	-670	-570	-450	-330	-300

排水樹勾配図



株式会社東亜設計  
一級建築士事務所

管理建築士 柴田 昌孝  
1級建築士 登録第245376号

工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団  
第7分団第2部消防詰所建築工事

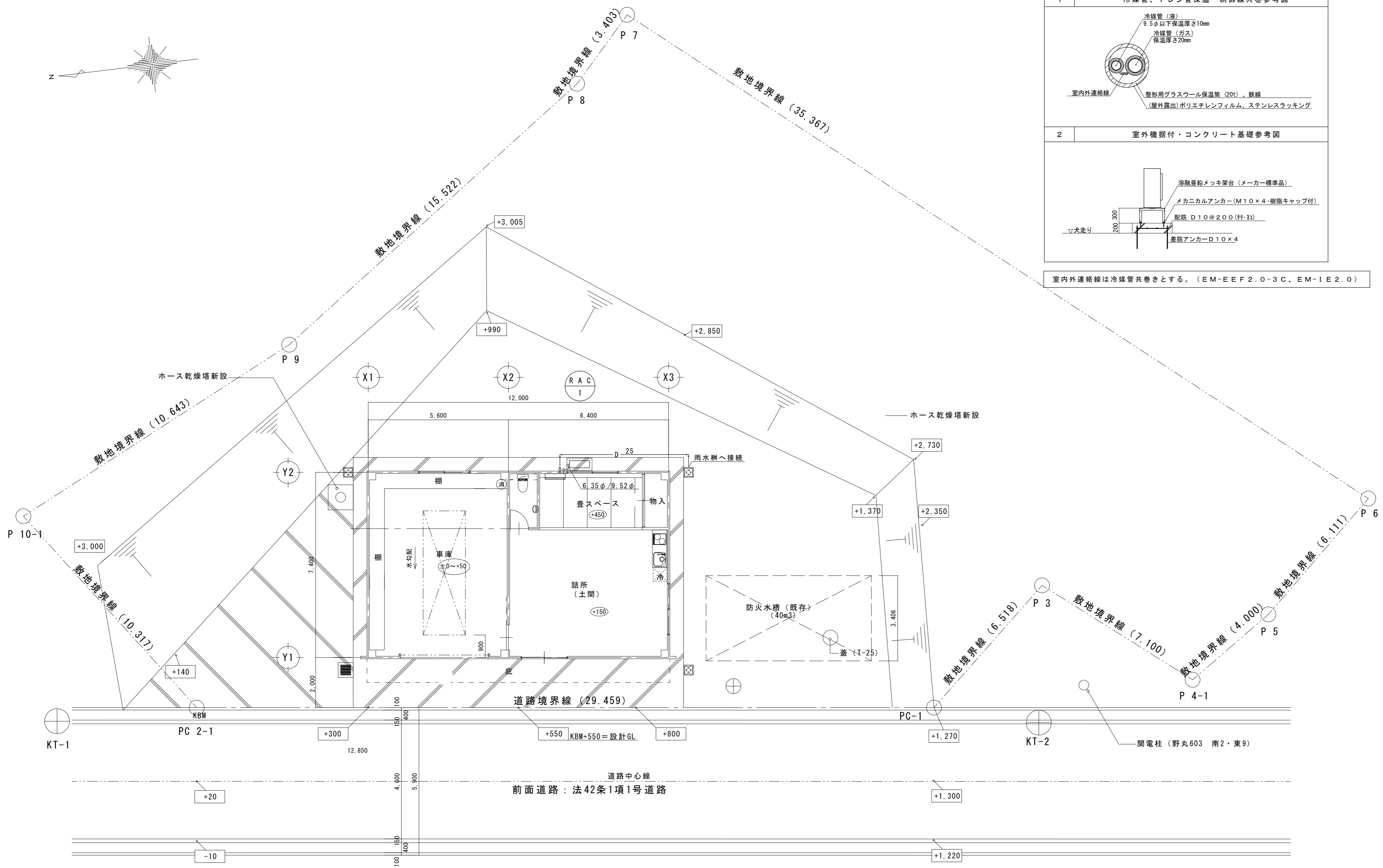
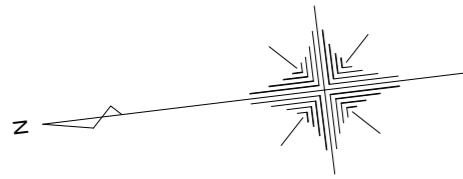
図名 空調・換気設備機器表・衛生器具表

設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号  
構造設計一級建築士 登録第7060号

縮尺 A2: 1/50  
A3: -

設計年月 令和8年2月

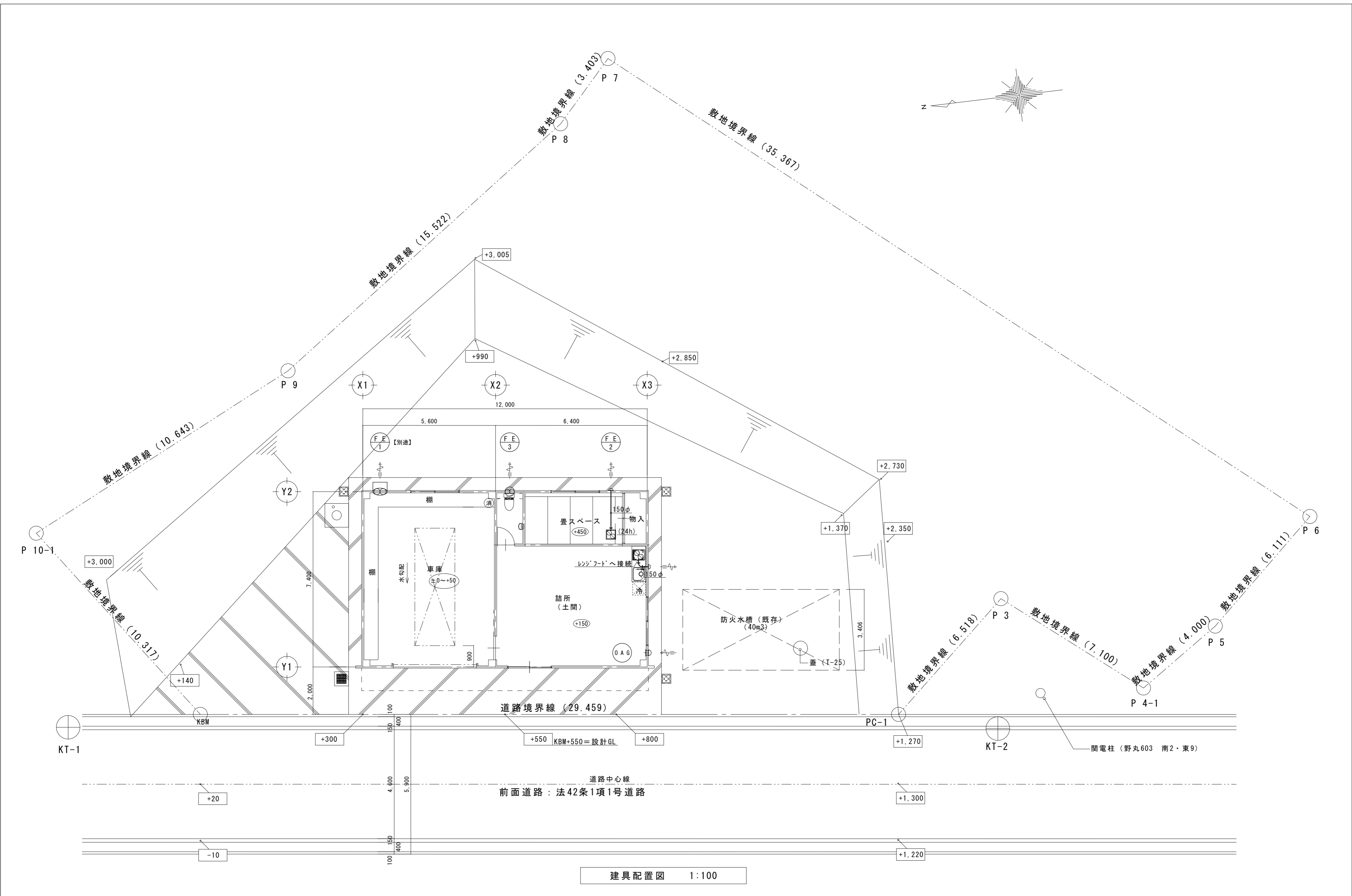
図面番号 M-03




1	冷媒管、ドレン管保温・制御線共巻参考図
2	室外機据付・コンクリート基礎参考図
室内外連絡線は冷媒管共巻きとする。(EM-E E F 2.0-3 C、EM-I E 2.0)	

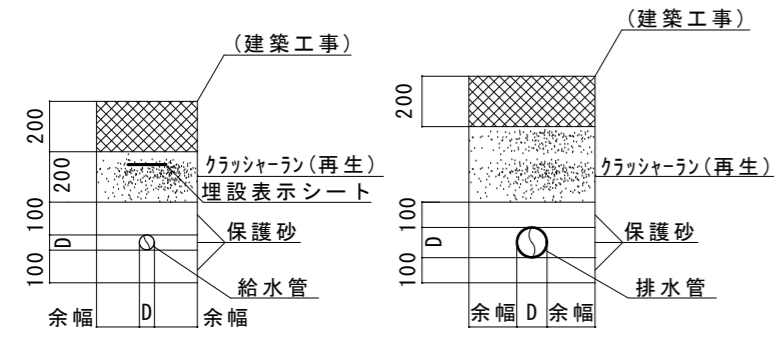
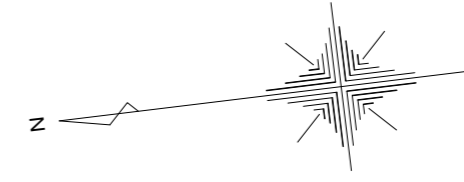
建具配置図 1:100

株式会社東亜設計 一級建築士事務所 管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月
	図名 空調設備 平面図	縮尺 A2: 1/100 A3: -	図面番号 M-O4



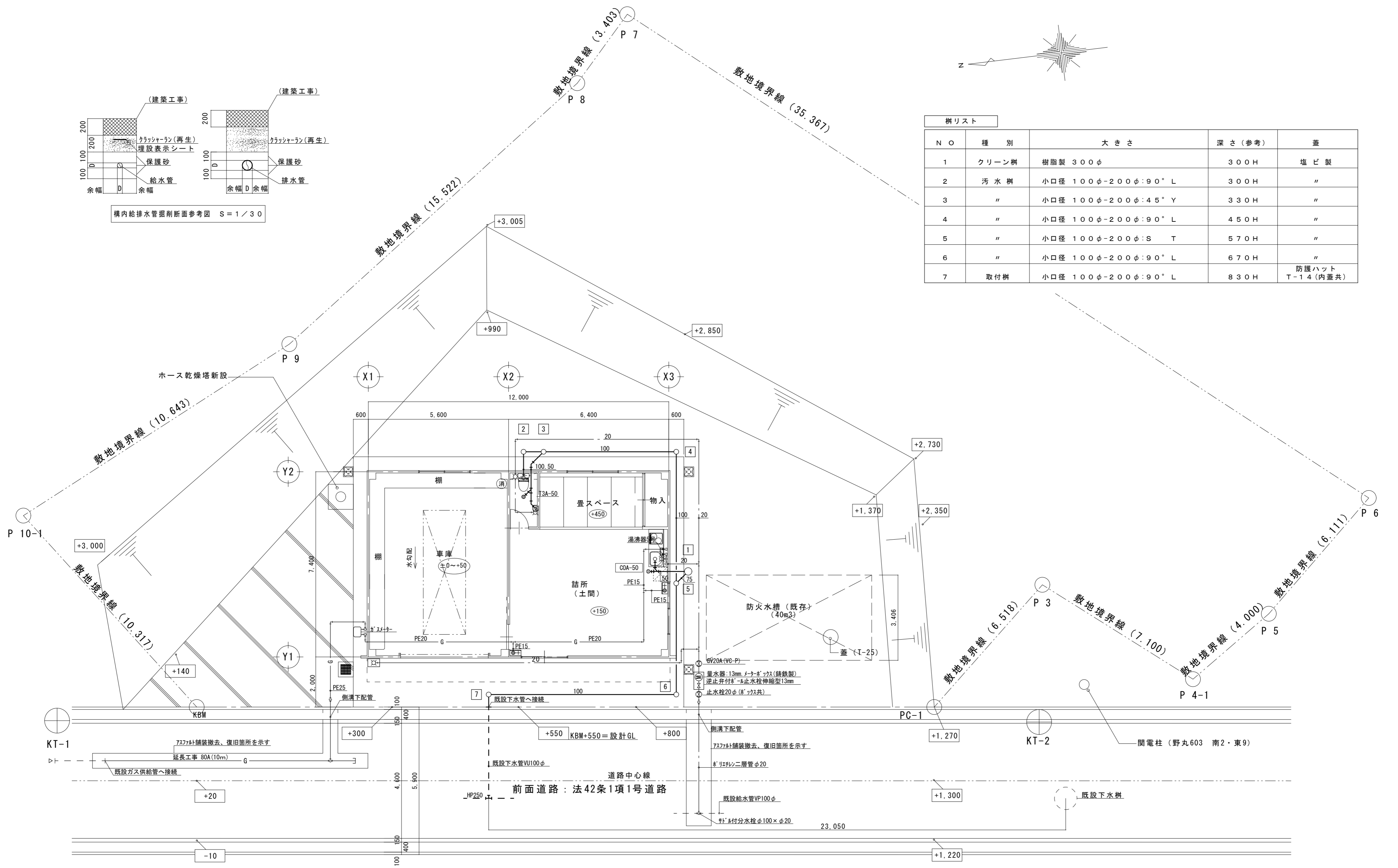
建具配置図 1:100

	 <b>株式会社東亜設計</b> 一級建築士事務所	管理建築士 柴田 昌孝 1級建築士 登録第245376号	工事名称 令和7年度 京丹波町消防団丹波支団 第7分団第2部消防詰所建築工事	設計 柴田 昌孝 一級建築士 登録第245376号 構造設計一級建築士 登録第7060号	設計年月 令和8年2月 図面番号 M-05
			図名 換気設備 平面図	縮尺 A2: 1/100 A3: -	



構内給排水管掘削断面参考図 S=1/30

樹リスト				
NO	種別	大きさ	深さ(参考)	蓋
1	クリーン樹	樹脂製 300φ	300H	塩ビ製
2	汚水樹	小口径 100φ-200φ:90° L	300H	"
3	"	小口径 100φ-200φ:45° Y	330H	"
4	"	小口径 100φ-200φ:90° L	450H	"
5	"	小口径 100φ-200φ:S T	570H	"
6	"	小口径 100φ-200φ:90° L	670H	"
7	取付樹	小口径 100φ-200φ:90° L	830H	防護ハット T-14(内蓋共)



平面図 1:100